

**Enterprise PL/I for z/OS**  
**PL/I for AIX**  
**Rational Developer for System z PL/I for**  
**Windows**



## **メッセージおよびコード**

**バージョン 3 リリース 8**



**Enterprise PL/I for z/OS**  
**PL/I for AIX**  
**Rational Developer for System z PL/I for**  
**Windows**



## **メッセージおよびコード**

**バージョン 3 リリース 8**

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、181 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Enterprise PL/I for z/OS のバージョン 3 リリース 8 (5655-H31)、PL/I for AIX V2.0.0.0、Rational Developer for System z PL/I for Windows バージョン 7.1、および新しい版または TNL で明記されていない限り、以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った正しい版をご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC27-1461-08  
Enterprise PL/I for z/OS  
PL/I for AIX  
Rational Developer for System z PL/I for Windows  
Messages and Codes  
Version 3 Release 8

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.12

© Copyright International Business Machines Corporation 1999, 2008. All rights reserved.

# 目次

## 第 1 部 メッセージおよびコード . . . 1

### 第 1 章 コンパイラーおよびプリプロセッサーのメッセージ . . . 3

メッセージのフォーマット . . . . .	3
メッセージ内の挿入語句 . . . . .	4
IBM に連絡してサポートを得るには . . . . .	4

### 第 2 章 コンパイラー通知メッセージ (1000 から 1076、2800 から 2999) . . . 5

### 第 3 章 コンパイラー警告メッセージ (1078 から 1225、2600 から 2799) . . . 9

### 第 4 章 コンパイラー・エラー・メッセージ (1226 から 1499、2400 から 2599) . 29

### 第 5 章 コンパイラー重大メッセージ (1500 から 2399) . . . . . 53

### 第 6 章 マクロおよび CICS プリプロセッサー・メッセージ (3000 から 3999) . 107

### 第 7 章 コード生成メッセージ (5000 から 5999). . . . . 125

### 第 8 章 SQL プリプロセッサー・メッセージ (7000 から 7999). . . . . 131

### 第 9 章 条件コード . . . . . 135

条件 1 から 50. . . . .	135
条件コード 51 から 100. . . . .	136
条件コード 100 から 520 . . . . .	140
条件コード 600 から 650 . . . . .	141
条件コード 651 から 672 . . . . .	142
条件コード 1002 から 1107 . . . . .	144
条件コード 1500 から 1550 . . . . .	145

条件コード 1551 から 1600 . . . . .	147
条件コード 1601 から 1650 . . . . .	149
条件コード 1651 から 1700 . . . . .	150
条件コード 1701 から 1750 . . . . .	152
条件コード 1751 から 1800 . . . . .	154
条件コード 1801 から 1850 . . . . .	156
条件コード 1851 から 1900 . . . . .	158
条件コード 1901 から 1950 . . . . .	160
条件コード 1951 から 2000 . . . . .	161
条件コード 2002 から 2150 . . . . .	163
条件コード 2151 から 2200 . . . . .	164
条件コード 2201 から 2250 . . . . .	166
条件コード 2251 から 2300 . . . . .	167
条件コード 2301 から 2350 . . . . .	169
条件コード 2351 から 2400 . . . . .	171
条件コード 2403 から 2450 . . . . .	172
条件コード 2451 から 2500 . . . . .	174
条件コード 2504 から 2999 . . . . .	176
条件コード 3000 から 3900 . . . . .	177
条件コード 3901 から 4000 . . . . .	178
条件コード 4001 から 9999 . . . . .	179

特記事項. . . . .	181
商標 . . . . .	182

### 参考文献. . . . . 183

Enterprise PL/I 資料 . . . . .	183
PL/I for MVS & VM. . . . .	183
z/OS 言語環境プログラム . . . . .	183
CICS Transaction Server . . . . .	183
DB2 UDB (OS/390 版および z/OS 版) . . . . .	183
DFSORT . . . . .	184
IMS/ESA . . . . .	184
z/OS MVS . . . . .	184
z/OS UNIX システム・サービス . . . . .	184
z/OS TSO/E . . . . .	184
z/Architecture. . . . .	184
Unicode および文字表現. . . . .	185



---

## 第 1 部 メッセージおよびコード

第 1 章 コンパイラーおよびプリプロセッサのメッセージ . . . . .	3	条件コード 3000 から 3900 . . . . .	177
メッセージのフォーマット . . . . .	3	条件コード 3901 から 4000 . . . . .	178
メッセージ内の挿入語句 . . . . .	4	条件コード 4001 から 9999 . . . . .	179
IBM に連絡してサポートを得るには . . . . .	4		
第 2 章 コンパイラー通知メッセージ (1000 から 1076、2800 から 2999) . . . . .	5		
第 3 章 コンパイラー警告メッセージ (1078 から 1225、2600 から 2799) . . . . .	9		
第 4 章 コンパイラー・エラー・メッセージ (1226 から 1499、2400 から 2599) . . . . .	29		
第 5 章 コンパイラー重大メッセージ (1500 から 2399) . . . . .	53		
第 6 章 マクロおよび CICS プリプロセッサ・メッセージ (3000 から 3999) . . . . .	107		
第 7 章 コード生成メッセージ (5000 から 5999) . . . . .	125		
第 8 章 SQL プリプロセッサ・メッセージ (7000 から 7999) . . . . .	131		
第 9 章 条件コード . . . . .	135		
条件 1 から 50 . . . . .	135		
条件コード 51 から 100 . . . . .	136		
条件コード 100 から 520 . . . . .	140		
条件コード 600 から 650 . . . . .	141		
条件コード 651 から 672 . . . . .	142		
条件コード 1002 から 1107 . . . . .	144		
条件コード 1500 から 1550 . . . . .	145		
条件コード 1551 から 1600 . . . . .	147		
条件コード 1601 から 1650 . . . . .	149		
条件コード 1651 から 1700 . . . . .	150		
条件コード 1701 から 1750 . . . . .	152		
条件コード 1751 から 1800 . . . . .	154		
条件コード 1801 から 1850 . . . . .	156		
条件コード 1851 から 1900 . . . . .	158		
条件コード 1901 から 1950 . . . . .	160		
条件コード 1951 から 2000 . . . . .	161		
条件コード 2002 から 2150 . . . . .	163		
条件コード 2151 から 2200 . . . . .	164		
条件コード 2201 から 2250 . . . . .	166		
条件コード 2251 から 2300 . . . . .	167		
条件コード 2301 から 2350 . . . . .	169		
条件コード 2351 から 2400 . . . . .	171		
条件コード 2403 から 2450 . . . . .	172		
条件コード 2451 から 2500 . . . . .	174		
条件コード 2504 から 2999 . . . . .	176		





---

## 第 1 章 コンパイラーおよびプリプロセッサのメッセージ

この章では、コンパイラー・メッセージを番号順に示します。これらのメッセージは、ソース・プログラムの後続く出力およびその他のコンパイラーにより作成されるリストに、数字の順序でリストされます。

---

### メッセージのフォーマット

コンパイル出力では、各コンパイラー・メッセージは、範囲 5000 から 5999 のコード生成メッセージを除き、IBMnnnnI X で始まります。ここで、

- IBM は、メッセージが PL/I メッセージであることを示します。
- nnnn はメッセージの番号です。
- 終了文字 I は、システム・オペレーターの処置は必要ないことを示します。
- X は重大度コードを示します。

本書では、メッセージは番号順に示します。この章に示す各コンパイラー・メッセージのフォーマットは、IBMnnnnI X です。X は重大度コードです。

重大度コードは、I、W、E、S、または U のいずれかです。

これらの重大度コードの意味は次のとおりです。（示されている戻りコードは、生成される戻りコードの最大値です。）

- I**      **通知 (informational)** メッセージ (RC=0) は、コンパイルされたプログラムが正しく実行されることを示します。非効率になる可能性のあるコードや、その他の注意すべき条件があると、コンパイラーはユーザーに通知します。
- W**      **警告 (warning)** メッセージ (RC=4) は、ステートメントは構文上は正しいが、なんらかのエラーがある可能性（警告）を示します。コンパイルされたプログラムは正常に実行されますが、予想とは異なる結果が生成されたり、かなり効率が悪くなる場合があります。
- E**      **エラー (error)** メッセージ (RC=8) は、単純なエラーが検出され、コンパイラーによって修正されたことを示します。コンパイルされたプログラムは正常に実行されますが、予想とは異なる結果が生成される場合があります。
- S**      **重大 (severe)** エラー・メッセージ (RC=12) は、コンパイラーにより修正できなかったエラーがあることを示します。プログラムがコンパイルされ、オブジェクト・モジュールが生成されても、そのモジュールを使用してはなりません。
- U**      **回復不能 (unrecoverable)** エラー・メッセージ (RC=16) は、コンパイルの強制終了を招くエラーを示します。オブジェクト・モジュールは正常には作成されません。

コンパイラー・メッセージは、これらの重大度レベル別、および生成元のコンポーネント別にグループに分けられます。

コード生成メッセージ (5000 から 5999 の範囲内のもの) は、IBMnnnn で始まります。

- IBM は、メッセージが PL/I メッセージであることを示します。
- nnnn はメッセージの番号です。

バッチ環境では、コード生成メッセージは STDOUT DD データ・セットに書き込まれ、その他のメッセージはすべてリストに出力されて、SYSPRINT DD データ・セットに書き込まれます。z/OS UNIX 環境では、コード生成メッセージは STDOUT に書き込まれ、その他のメッセージはすべてリストに出力されるとともに、STDOUT にも書き込まれます。

コンパイラーの FLAG オプションを使用して、コンパイル・リスト内にメッセージを入れないようにすることもできます。FLAG オプションの説明は、「*Enterprise PL/I for z/OS プログラミング・ガイド*」に記載されています。

---

## メッセージ内の挿入語句

多くのコンパイラー・メッセージには、メッセージを出力するときにコンパイラーが情報を挿入する個所を示す語句が入っています。この章に示すメッセージでは、このような挿入個所を示す語句はイタリック で表してあります。

---

## IBM に連絡してサポートを得るには

コンパイラー・エラーに関するプログラミング・サポートを要求するために IBM にご連絡いただく際には、該当ソース・プログラムのリスト出力をお手元に用意していただくと役立ちます。このリストは、オプション INSOURCE MACRO OPTIONS SOURCE を指定して作成していただくと、潜在的な問題の分析が最も容易になります。

---

## 第 2 章 コンパイラー通知メッセージ (1000 から 1076、2800 から 2999)

---

**IBM1018I I** *option-name should be specified within OPTIONS, but is accepted as is.*

説明: このメッセージは、options リストの作成に使用される。

**IBM1035I I** *The next statement was merged with this statement.*

説明: このメッセージが発行されたステートメントの次のステートメントが、そのステートメントとマージされた。

**IBM1036I I** *The next statement-count statements were merged with this statement.*

説明: このメッセージが発行されたステートメントの後に続く、指定された数のステートメントが、そのステートメントとマージされた。

**IBM1038I I** *note*

説明: このメッセージは、バックエンド通知メッセージを報告するために使用される。

**IBM1039I I** *Variable variable name is implicitly declared.*

説明: 組み込み関数 SYSPRINT および SYSIN のコンテキスト宣言の場合を除き、すべての変数を宣言する必要がある。

**IBM1040I I** *note*

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 0 と共に使用される。

**IBM1041I I** *Comment spans line-count lines.*

説明: コメントが開始行とは別の行で終わっている。これは、コメント終了を表す区切り文字が欠落している可能性を示す。

**IBM1042I I** *String spans line-count lines.*

説明: スtringが開始行とは別の行で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

**IBM1043I I** *variable name is contextually declared as attribute.*

説明: 示されている変数には宣言ステートメントがないが、その使用法に基づいて、示されている属性が与えられた。例えば、変数がロケーターとして使用されていると、POINTER 属性が与えられることになる。

**IBM1044I I** *FIXED BINARY with precision 7 or less is mapped to 1 byte.*

説明: OS/370 PL/I および PL/I for MVS コンパイラーでは、これは 2 バイトにマップされる。

**IBM1045I I** *Code generated for the REFER object reference name would be more efficient if the REFER object had the attributes REAL FIXED BIN(p,0).*

説明: REFER オブジェクトに他の属性がある場合は、ライブラリー・コールにより、REAL FIXED BIN(31,0) に、または REAL FIXED BIN(31,0) から変換される。

**IBM1046I I** *UNSPEC applied to an array is handled as a scalar reference.*

説明: OS/370 PL/I および PL/I for MVS コンパイラーでは、配列に適用された UNSPEC はスカラーの配列として取り扱われる。

**IBM1047I I** *ORDER option may inhibit optimization.*

説明: ORDER オプションをブロックに適用した場合は、最適化が禁止される可能性がある。特に、ON ユニットの外部で宣言された変数を参照する ON ユニットがブロックに含まれている場合は、最適化は禁止される可能性が高い。

**IBM1048I I** *GET/PUT DATA without a data-list inhibits optimization.*

説明: GET DATA ステートメントは、ほとんどすべての変数を変更する可能性があり、PUT DATA ステートメントでは、PUT DATA ステートメントの実行時点でほとんどの変数はホームに保管されている必要がある。どちらの要件の場合も最適化が禁止される。

---

**IBM1050I I INITIAL attribute for RESERVED  
STATIC is ignored.**

説明: 属性 RESERVED STATIC を持つ変数に、INITIAL 属性が指定されている。このような変数は、PACKAGE ステートメントの EXPORTS 文節に指定されていない限り、初期化されない。

---

**IBM1051I I Argument to BUILTIN name built-in may  
not be byte aligned.**

説明: このメッセージは ADDR、CURRENTSTORAGE/SIZE、および STORAGE/SIZE 組み込み関数に適用される。これらの組み込み関数のいずれかを、位置合わせされていないビット変数に適用すると、予想どおりの結果が生成されないことがある。

---

**IBM1052I I The NODESCRIPTOR attribute is  
accepted even though some arguments  
have \* extents.**

説明: \* エクステントを持っているストリング、または \* エクステントを持っている配列が渡された場合、PL/I では、通常、記述子を渡すことによって、渡された引数の実際のサイズを呼び出されたルーチンが認識できるようにする。NODESCRIPTOR 属性は、記述子が渡されないことを示す。呼び出されるルーチンが PL/I プロシージャである場合は、この属性は無効である。

```
dc1 x entry( char(*), fixed bin(31) )
      options( nodescriptor );
```

---

**IBM1053I I Scaled FIXED operation evaluated as  
FIXED DECIMAL.**

説明: 組み込み関数 ADD、DIVIDE、MULTIPLY、または SUBTRACT の 1 つが、FIXED 型の引数で呼び出された場合、どちらかのオペランドのスケール因数がゼロ以外のときは、結果の型は FIXED DEC になる。

---

**IBM1058I I Conversion from source type to target  
type will be done by library call.**

説明: このメッセージは、ループの一部として実行すると非常にコストが高くなる可能性があるコードを見つけたり、異種の型の変換を含むコードを見つけるために役立つ。

---

**IBM1059I I SELECT statement contains no  
OTHERWISE clause.**

説明: 条件が満たされる WHEN 文節がまったくない場合は、ERROR 条件が発生する。

---

**IBM1060I I Name resolution for identifier selected its  
declaration in a structure, rather than  
its non-member declaration in a parent  
block.**

説明: 意外なことに、PL/I 言語規則ではこれが必要である。例えば、次の部分コードでは、display ステートメントにより x.y の値が表示される。

```
a: proc;

    dc1 y fixed bin init(3);

    call b;

b: proc;

    dc1
      1 x,
      2 y fixed bin init(5),
      2 z fixed bin init(7);

    display( y );

end;

end a;
```

---

**IBM1061I I Probable DATE calculation should be  
examined for validity after the year  
1999.**

説明: 定数 365、1900、または '19' のいずれかを使用すると、日付の計算を示すことがある。これに該当する場合は、計算を調べて 1999 年が過ぎたあとも有効かどうかを判断する必要がある。

---

**IBM1062I I variable inferred to contain a two-digit  
year.**

説明: 例えば変数に DATE 組み込み関数が割り当てられていたために、指示された変数には、2 桁の年が含まれているものと推測される。

---

**IBM1063I I Code generated for DO group would be  
more efficient if control variable were a  
4-byte integer.**

説明: DO ループ内の制御変数が 1 バイトの整数、2

バイトの整数、固定 10 進数、または固定ピクチャーであるため、このループ用に生成されたコードは最適ではない。

---

**IBM1064I I Use of OPT(2) forces TEST(BLOCK).**

説明: OPT(2) のもとでは、TEST(BLOCK) より強くフックする TEST 指定はサポートされない。

---

**IBM1065I I Float constant *constant* would be more precise if specified as a long float.**

説明: 指定された短精度の浮動小数点定数は正確に表すことができない。長精度の浮動小数点定数として指定された場合は、もっと正確に表すことができる。例えば、1.3E0 は正確に表すことができないが、1.3D0 の場合は適切に表すことができる。

---

**IBM1067I I UNTIL clause ignored.**

説明: DO の指定にループの繰り返しを生じさせる TO、BY、REPEAT などの文節がないために、UNTIL 文節はループに影響を及ぼさず無視される。

```
do x = y until ( z > 0 );  
  ...  
end;
```

---

**IBM1068I I Procedure has no RETURNS attribute, but contains a RETURN statement. A RETURNS attribute will be assumed.**

説明: プロシージャに RETURN ステートメントが含まれている場合は、PROCEDURE ステートメントに RETURNS 属性を指定する必要がある。

```
a: proc;  
  return( 0 );  
end;
```

---

**IBM1069I I The AUTOMATIC variables in a block should not be used in the prologue of that block.**

説明: ブロック内の AUTOMATIC 変数は、含まれている任意のブロックの宣言ステートメントおよび実行可能ステートメントの中で使用できるが、その変数を宣言するブロックの中では、実行可能ステートメントの中でしか使用できない。

```
dcl x fixed bin(15) init(5);  
dcl y(x) fixed bin(15);
```

---

**IBM2800I I The procedure *proc name* is not referenced.**

説明: 示されているプロシージャは、外部プロシージャではなく、コンパイル単位内で参照されることはない。これはエラー (このプロシージャを呼び出すことになっている場合) またはなんらかの非活動コードを除去する機会を示す。

---

**IBM2801I I FIXED DEC( *source-precision* , *source-scale* ) operand will be converted to FIXED BIN( *target-precision* , *target-scale* ). This introduces a non-zero scale factor into an integer operation and will produce a result with the attributes FIXED BIN(*result-precision*,*result-scale*).**

説明: RULES(IBM) を指定すると、算術演算に FIXED BIN のオペランドと非ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドがある場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。

---

**IBM2802I I Aggregate mapping will be done by library call.**

説明: このメッセージは、ループの一部として実行すると非常にコストが高くなる可能性があるコードを見つけるために役立つ。例えば、コードが REFER を使用する構造体のエレメントを参照している場合に、このメッセージが生成されることがある。構造体で複数の REFER を使用しており、最後の REFER の後にエレメントがある場合、そのエレメントに対する単一の参照で、このメッセージの複数のコピーが生成されることがある (複数のライブラリー呼び出しが行われるため)。

---

**IBM2803I I keyword STRING EDIT statement optimized.**

説明: PUT または GET STRING EDIT ステートメントがコンパイラーによって最適化され、そのほとんどがインラインで実行されるようになる場合に、このメッセージが出される。

---

**IBM2804I I Boolean is compared with something other than '1'b or '0'b.**

説明: このメッセージは、以下に示すようにステートメントにフラグを立てる。ここで、"true" は BIT(1) STATIC INIT('1'b) である。"true" になるのが名前付き定数であれば (つまり、STATIC INIT ではなく、VALUE 属性を指定して宣言されていれば) 問題は発生しない。

```
if ( a < b ) = true then
```

---

**IBM2805I I For assignment to variable name, conversion from source type to target type will be done by library call.**

説明: このメッセージは、ループの一部として実行すると非常にコストが高くなる可能性があるコードを見つけたり、異種の型の変換を含むコードを見つけるために役立つ。

---

**IBM2806I I Passing a LABEL to another routine is poor coding practice and will cause the compiler to generate less than optimal code.**

説明: 一般に、ラベルを別のルーチンに渡すことは賢明ではない。このことを行うコードがあれば、再設計を考える方が良くと思われる。

---

**IBM2809I I FIXED DEC( source-precision , source-scale ) operand will be converted to FIXED BIN( target-precision , target-scale ). This introduces 8-byte integer arithmetic into an operation that might be faster if computed in decimal.**

説明: LIMITS オプションが 31 を超える最大 FIXED 精度を指定する場合、FIXED DEC および FIXED BIN オペランドが関わる操作は、たとえ両方のオペランドが "small" であっても、8 バイト整数の結果を生成する可能性がある。例えば、FIXED DEC(13) と FIXED BIN(31) を加算する場合、結果は 8 バイト整数になる可能性がある (なぜなら、FIXED DEC(13) 値は 4 バイト整数に収めるには大きすぎるからである)。これを避けるためには、DECIMAL 組み込み関数を FIXED BIN オペランドに適用することができる。

---

**IBM2810I I Conversion of FIXED BIN(source-precision,source-scale) to FIXED DEC(target-precision,target-scale) may produce a more accurate result than under the old compiler.**

説明: FIXED BIN(p,q) から FIXED DEC への特定の変換では、q が正の場合に古いコンパイラーで結果がいくらか丸められていた。

---

**IBM2811I I Use of PICTURE as DO control variable is not recommended.**

説明: DO ループ内の制御変数が PICTURE 変数である場合、制御変数が FIXED BIN 変数である場合よりも多くのコードがループに対して生成される。さらに、そのようなループは、無限にループするような、間違っただコードになりやすい。

---

**IBM2812I I Argument number argument number to BUILTIN name built-in would lead to much better code if declared with the VALUE attribute.**

説明: VERIFY(x,y) などの関数で y が定数である場合は、INITIAL 属性ではなく VALUE 属性を使用して y を宣言する方がパフォーマンスが向上する。

---

**IBM2814I I Aggregate mapping for storage allocation will be done by library call.**

説明: このメッセージを使用して、何度も呼び出されるとコストが高くなる可能性があるコードを見つけることができる。このメッセージは、非定数エクステントを持っている BASED および CONTROLLED 変数に対する ALLOCATE ステートメントで生成されることがあり、非定数エクステントを持っている AUTOMATIC 変数を使用する PROCEDURE のプロログでも生成されることがある。



---

## 第 3 章 コンパイラー警告メッセージ (1078 から 1225、2600 から 2799)

---

### IBM1078I W Statement may never be executed.

説明: このメッセージは、コンパイラーが、常に通過しなければならないステートメントが制御のフローとして実行されないと検出したことを警告する。

---

### IBM1079I W Too few arguments have been specified for the ENTRY ENTRY name.

説明: 引数の数は、ENTRY 宣言のパラメーターの数と一致しなければならない。

---

### IBM1080I W The keyword *label-name*, which could form a complete statement, is accepted as a label name, but a colon may have been used where a semicolon was meant.

説明: 完全なステートメントを構成する可能性がある PL/I キーワードが、ステートメント・ラベルとして使用されている。この使用法は許容されるが、セミコロンを使用すべき場所でコロンが使用されている可能性がある。

```
dcl a fixed bin(31) ext;

if a = 0 then
    put skip list( 'a = 0' )
else:

a = a + 1;
```

---

### IBM1081I W keyword expression should be scalar. Lower bounds assumed for any missing subscripts.

説明: 示されているキーワード文節内の式はスカラーでなければならないが、配列参照が指定されている。

```
dcl p pointer;
dcl x      based char(10);
dcl a(10) area(1000);

allocate x in(a) set(p);
```

---

### IBM1082I W Argument number *argument-number* in entry reference *entry name* is a scalar, but its declare specifies a structure.

説明: 構造体が予期されている場合にスカラーを引数として渡すことが可能だが、このためには「ダミー」構造体を作成し、スカラーをその構造の各フィールドに割り当てる必要がある。

```
dcl e entry( 1 2 fixed bin(31),
            2 fixed bin(31) );
dcl i fixed bin(15);
call e( i );
```

---

### IBM1083I W Source in label assignment is inside a DO-loop, and an illegal jump into the loop may be attempted. Optimization will also be very inhibited.

説明: GOTO ステートメントは DO ループ内部にジャンプすることはできず、(異なる) DO ループ内のラベル定数をターゲットとする GOTO に対しては、コンパイラーによってフラグが立てられる。ただし、DO ループ内のラベルがラベル変数に割り当てられている場合、この種のエラーは検出されない可能性がある。

---

### IBM1084I W Nonblanks after right margin are not allowed under RULES (NOLAXMARGINS).

説明: RULES(NOLAXMARGINS) のもとでは、右マージンの後ろにはブランク以外の何も指定してはならない。

---

### IBM1085I W variable may be uninitialized when used.

説明: 示されている変数は、初期化される前に使用された可能性がある。

---

### IBM1086I W built-in function will be evaluated using long rather than extended routines.

説明: 示されている組み込み関数は拡張浮動小数点の引数を持っているが、対応する拡張ルーチンがまだ使用可能でないため、適切な長精度ルーチンを使用して評価される。

---

**IBM1087I W FLOAT source is too big for its target.**

**An appropriate HUGE value of assumed value is assumed.**

**説明:** HUGE(1s0) より大きな値を短精度浮動小数点に割り当てることはできない。16 進表示では、値 3.141592E+40 を短精度浮動小数点に割り当てることが可能だが、IEEE のもとで短精度浮動小数点が保持できる最大値は約 3.40281E+38 である。

---

**IBM1088I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. The E in the exponent will be replaced by a D.**

**説明:** 浮動リテラルの精度は、その仮数内の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。

---

**IBM1089I W Control variable in DO loop cannot exceed TO value, and loop may be infinite.**

**説明:** TO の値が、FIXED 変数または PICTURE 変数の保持できる最大値と等しい場合、その変数が上位になるループは、LEAVE または GOTO によってループを終了しないかぎり、無限に実行される。例えば、以下に示す 1 つ目のコード・フラグメントでは、x が 99 より大きな値になることはあり得ず、ループは無限になる。以下に示す 2 つ目のコード・フラグメントでは、y が 32767 より大きな値になることはあり得ず、ループは無限になる。

```
dcl x pic'99';

do x = 1 to 99;
  put skip list( x );
end;

dcl y fixed bin(15);

do y = 1 to 32767;
  put skip list( y );
end;
```

---

**IBM1090I W Constant used as locator qualifier.**

**説明:** 式には、ロケータ修飾子用の定数値と共に、基底付き変数への参照が含まれている。これにより、一部のシステムでは記憶保護例外が発生することがある。また、変数が NULL または SYSNULL に基づくものとして宣言されていて、その定数値がロケータ修飾子として使用されていることを示している場合もある。

```
dcl a fixed bin(31) based( null() );

a = 0;
```

---

**IBM1091I W FIXED BIN precision less than storage allows.**

**説明:** 特別の場合を除き、FIXED BIN 宣言の中の精度は、SIGNED の場合は 7、15、31、または 63 でなければならず、UNSIGNED の場合はこれらの各値より 1 大きい値でなければならない。このメッセージは、例えば、宣言に UNSIGNED FIXED BIN(8) を指定するつもりで FIXED BIN(8) を指定した可能性があることを示す。

---

**IBM1092I W GOTO whose target is or may be in another block severely limits optimization.**

**説明:** スイッチを設定しテストするようにコードを変更するか、または GOTO を最適化の必要がないほど小さいモジュールに制限する必要がある。

---

**IBM1093I W PLIXOPT string is invalid. See related runtime message *message-number*.**

**説明:** PLIXOPT スtringは解析できなかった。詳細については、示されている LE メッセージを参照のこと。

---

**IBM1094I W Element *option* in PLIXOPT is invalid. See related runtime message *message-number*.**

**説明:** PLIXOPT スtringに無効な項目がある。詳細については、示されている LE メッセージを参照のこと。

---

**IBM1095I W Element *option* in PLIXOPT has been remapped to *option*. See related runtime message *message-number*.**

**説明:** PLIXOPT スtringに、LE ではサポートされないランタイム・オプションが含まれている。詳細については、示されている LE メッセージを参照のこと。

---

**IBM1096I W STAE and SPIE in PLIXOPT is not supported. See related runtime message *message-number*.**

**説明:** SPIE オプションおよび STAE オプションは、TRAP オプションに置き換えられている。TRAP(ON)



は、SPIE および STAE に相当し、TRAP(OFF) は NOSPIE および NOSTAE に相当する。 SPIE と NOSTAE の組み合わせおよび NOSPIE と STAE の組み合わせは、サポートされなくなった。詳細については、示されている LE メッセージを参照のこと。

---

**IBM1097I W Scalar accepted as argument number**  
*argument-number in ENTRY reference*  
*ENTRY name although parameter*  
**description specifies an array.**

**説明:** 一般に、配列を受け取ることになっている場合にスカラーを渡すべきではないが、スカラーを渡したい場合もある。

```
dc1 a entry( (*) fixed bin )
      option(nodescriptor);

call a( 0 );
```

---

**IBM1098I W Extraneous comma at end of statement ignored.**

**説明:** コンマの次に、有効な構文エレメント (ID など) でなく、セミコロンがある。コンマは無視され、セミコロンが有効になる。

```
dc1 1 a, 2 b fixed bin, 2 c fixed bin, ;
```

---

**IBM1099I W FIXED DEC( *source-precision* , *source-scale* ) operand will be converted to FIXED BIN( *target-precision* , *target-scale* ). Significant digits may be lost.**

**説明:** RULES(IBM) のもとでは、FIXED BIN のオペランドと、非ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドが比較演算または算術演算に使用される場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。RULES(ANS) のもとでは、FIXED BIN のオペランドと、ゼロのスケール因数を指定した FIXED DEC のオペランドが比較演算または算術演算に使用される場合、FIXED DEC オペランドは FIXED BIN に変換される。どちらの場合も、有効数字が失われる可能性があり、また小数部分がある場合は、小数部分が 2 進数として正確に表現されない可能性がある。例えば、RULES(IBM) のもとでは、以下の代入ステートメントによってターゲットの値は 29.19 になり、また比較演算の中で C は FIXED BIN(31,10) に変換されて、有効数字が失われる (実際には SIZE が発生するが、SIZE は使

用不可になっているため、このプログラムはエラーになる)。

```
dc1 a fixed dec(07,2) init(12.2);
dc1 b fixed bin(31,0) init(17);
dc1 c fixed dec(15,3) init(2097151);
dc1 d fixed bin(31,0) init(0);
```

```
a = a + b;

if c = d then;
```

---

**IBM1100I W The attribute *attribute-option* is not valid on BEGIN blocks and is ignored.**

**説明:** BEGIN ステートメントの OPTIONS 文節に指定した属性 (下記の例では REDUCIBLE) は、BEGIN ブロックには無効である。

```
begin options( reducible );
```

---

**IBM1101I W *option-name* is not a known PROCEDURE attribute and is ignored.**

**説明:** PROCEDURE ステートメントの OPTIONS 文節に指定した属性 (下記の例では DATAONLY) は、PROCEDURE には無効である。

```
a: proc options( dataonly );
```

---

**IBM1102I W *option-name* is not a known BEGIN attribute and is ignored.**

**説明:** 指示された属性は PROCEDURE ステートメントでは有効だが、BEGIN ステートメントでは無効である。

```
begin recursive;
```

---

**IBM1103I W *option-name* is not a supported compiler option and is ignored.**

**説明:** このコンパイラー・オプションは、このプラットフォームではサポートされていない。

```
*process map;
```

---

**IBM1104I W Suboptions of the compiler option *option-name* are not supported and are ignored.**

説明: このコンパイラー・オプションのサブオプションは、このプラットフォームではサポートされていない。

```
*process list(4);
```

---

**IBM1105I W A suboption of the compiler option *option-name* is too long. It is shortened to *number-of-letters* characters.**

説明: 多くのコンパイラー・オプションには、サブフィールドのサイズに制限がある。特定のコンパイラー・オプションの制限については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

```
*process margini( '+' );
```

---

**IBM1106I W Condition prefixes on *keyword* statements are ignored.**

説明: DECLARE、DEFAULT、IF、ELSE、DO、END、SELECT、WHEN、または OTHERWISE ステートメントでは、条件接頭語は使用できない。

```
(nofofl): if (x+y) > 0 then
```

---

**IBM1107I W *option-name* is not a known ENTRY statement attribute and is ignored.**

説明: ENTRY ステートメントの OPTIONS 文節に指定した属性 (下記の例では DATAONLY) は、ENTRY ステートメントでは無効である。

```
a: entry options( dataonly );
```

---

**IBM1108I W The character *char* specified in the *option* option is already defined and may not be redefined. The redefinition will be ignored.**

説明: OR、NOT、QUOTE、または NAMES コンパイラー・オプションに指定した文字は、PL/I 文字セットまたは別のコンパイラー・オプションで既に定義されている。

```
*process not('=');
*process not('!' ) or('!' );
```

---

**IBM1109I W The second argument in the C-format item will be ignored.**

説明: 複素数の実数部と虚数部を異なるフォーマットで表示するには、REAL 組み込み関数および IMAG 組み込み関数と、2 つのフォーマット項目を使用する。

```
put edit ( x ) ( c( e(10,6), e(10,6) ) );
```

---

**IBM1110I W The %INCLUDE statement should be on a line by itself. The source on the line after the %INCLUDE statement is ignored.**

説明: テキストを 2 行に分割する。

```
%include x; %include y;
```

---

**IBM1111I W CHECK prefix is not supported and is ignored.**

説明: CHECK 接頭部は SAA PL/I 言語の一部ではない。

```
(check): i = j + 1;
```

---

**IBM1112I W *condition-name* condition is not supported and is ignored.**

説明: CHECK および PENDING 条件は、SAA PL/I 言語の一部ではない。

```
on check ...
```

---

**IBM1113I W *verb-name* statement is not supported and is ignored.**

説明: 示されているステートメント (例えば CHECK ステートメント) は、SAA PL/I 言語の一部ではない。

---

**IBM1114I W Comparands are both constant.**

説明: 比較の中の両方のオペランドが定数であるため、比較の結果も定数である。例えば、この比較が IF 文節内の式の場合、これは、THEN 文節と ELSE 文節のどちらか一方は実行されないことを意味する。

---

**IBM1115I W INITIAL list contains *count* items, but the array variable name contains only array size. Excess is ignored.**

説明: 配列の場合、INITIAL リストには、その配列が持つエレメントの数を超える数の値を入れてはならない。

```
dc1 a init( 1, 2 ), b(5) init( (10) 0 );
```

---

**IBM1116I W Comment spans more than one file.**

説明: コメントが、開始ファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、コメント終了ステートメントが欠落している可能性を示す。

---

**IBM1117I W String spans more than one file.**

説明: スtringが、それが始まったファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

---

**IBM1118I W Delimiter missing between *nondelimiter* and *nondelimiter*. A blank is assumed.**

説明: すべての ID と定数の間には、区切り文字 (例えばブランクまたはコンマ) が必要である。

```
dc1 1 a, 2 b, 3c;
```

---

**IBM1119I W Code generated for DO group would be more efficient if control variable were not an aggregate member.**

説明: DO ループ内の制御変数が配列、構造体、または共用体のメンバーであるため、このループ用に生成されるコードは最適にはならない。

---

**IBM1120I W Multiple closure of groups. END statements will be inserted to close intervening groups.**

説明: 1 つの END ステートメントを使用して複数のステートメント・グループをクローズすることは許されるが、コーディング・エラーが示される場合がある。

---

**IBM1121I W Missing character assumed.**

説明: 指示された文字が欠落しているが、ソースの中にはそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。

---

**IBM1122I W Missing character assumed before character.**

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。

```
display( 'Program starting' );
```

---

**IBM1123I W The ENVIRONMENT option *option-name* has been specified without a suboption. The option *option-name* is ignored.**

説明: 一部の ENVIRONMENT オプション (RECSIZE など) には、サブオプションが必要である。

```
dc1 f file env( recsize );
```

---

**IBM1124I W A suboption has been specified for the ENVIRONMENT option *option-name*. The suboption will be ignored.**

説明: 一部の ENVIRONMENT オプション (CONSECUTIVE など) は、サブオプションを付けずに指定する必要がある。

```
dc1 f file env( consecutive(1) );
```

---

**IBM1125I W The ENVIRONMENT option *option-name* has been specified more than once.**

説明: ENVIRONMENT オプションは繰り返し指定してはならない。

```
dc1 f file env( consecutive consecutive );
```

---

**IBM1126I W The ENVIRONMENT option *option-name* has an invalid suboption. The option will be ignored.**

説明: サブオプションの型が無効である。

```
dc1 f file env( regional(5) );
```

---

**IBM1127I W** *option-name* is not a known ENVIRONMENT option. It will be ignored.

説明: サポートされる ENVIRONMENT オプションには、このオプションはない。

```
dc1 f file env( unknown );
```

---

**IBM1128I W** The ENVIRONMENT option *option-name* conflicts with the LANGLVL compiler option. The option will be ignored.

説明: 示されているオプションは、LANGLVL(OS) でのみ有効である。

```
dc1 f file env( fb );
```

---

**IBM1129I W** *verb-name processor-name* statement ignored up to closing semicolon.

説明: ソース・プログラムの中に、EXEC SQL ステートメントまたは EXEC CICS ステートメントがある。コンパイラーでは、これらのステートメントは無視される。

```
exec sql ...;
```

---

**IBM1130I W** The external name *identifier* is too long. It will be shortened to *identifier*.

説明: 外部名の最大長は、LIMITS コンパイラー・オプションの EXTNAME サブオプションにより設定される。

```
dc1 this_name_is_long static external pointer;
```

---

**IBM1131I W** An EXTERNAL name specification for *name* has been specified on its PROCEDURE statement and in the EXPORTS clause of the PACKAGE statement. The EXPORTS specification will be used.

説明: EXPORTS 文節の EXTERNAL 属性に指定した名前は、PROCEDURE ステートメントの EXTERNAL 属性に指定した名前をオーバーライドする。

```
a: package exports( b ext( 'B' ) );
```

```
b: proc ext( 'BB' );
```

---

**IBM1132I W** An EXTERNAL name specification for *name* has been specified in its declaration and in the RESERVES clause of the PACKAGE statement. The RESERVES specification will be used.

説明: RESERVES 文節の EXTERNAL 属性に指定した名前は、DECLARE ステートメントの EXTERNAL 属性に指定した名前をオーバーライドする。

```
a: package reserves( b ext( 'B' ) );
```

```
dc1 b ext( 'BB' ) static ...
```

---

**IBM1133I W** The FORMAT CONSTANT array *label-name* is not fully initialized.

説明: FORMAT CONSTANT 配列の要素が定義されていない。例えば、下の例では f(2) がこれに該当する。

```
f(1): format( x(2), a );
```

```
f(3): format( x(4), a );
```

---

**IBM1134I W** The LABEL CONSTANT array *label-reference* is not fully initialized.

説明: 示されている変数ではステートメント・ラベル配列が定義されているが、その配列の要素の一部に、収容プロシージャーステートメント用のラベルではないものがある。

```
l(1): display( ... );  
l(3): display( ... );
```

---

**IBM1135I W Logical operand is constant.**

説明: 論理演算子の 1 つ (OR、AND、または NOT) に対する引数が定数である。演算の結果も定数になる可能性がある。例えば、この演算が IF 文節内の式の場合、これは、THEN 文節と ELSE 文節のどちらか一方は実行されないことを意味する。

```
if a | '1'b then
```

---

**IBM1136I W Function invoked as a subroutine.**

説明: CALL ステートメントの中で、関数 (例えば、RETURNS 属性を持つ PROCEDURE または ENTRY ステートメント) が呼び出された。この関数から戻される値は廃棄される。これが有効なことを示すには、OPTIONAL 属性を指定する必要がある。

---

**IBM1137I W The attribute *attribute* is invalid in GENERIC descriptions and will be ignored.**

説明: 示されている属性は、GENERIC 記述リストでは無効である。

```
dc1 g generic ( f1 when( connected ),  
               f2 otherwise );
```

---

**IBM1138I W Number of items in INITIAL list is *count* for the array variable name which contains array size elements.**

説明: 配列の初期化は不完全になる。名前付き変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の後続のエレメントは、メッセージ 2602 でフラグを立てられる。これは、おそらくプログラミング・エラー (下記の例では、4 でなく 6 がおそらく正しい) であり、このプログラムを実行すると例外が発生する可能性がある。

```
dc1 a(8) fixed dec init( 1, 2, (4) 0 );
```

---

**IBM1139I W Syntax of the %CONTROL statement is incorrect.**

説明: %CONTROL ステートメントのあとには、括弧で囲んだ FORMAT オプションまたは NOFORMAT オプションと、セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1140I W Syntax of the LONGLVL option in the %OPTION statement is incorrect.**

説明: %OPTION ステートメントの中の LONGLVL オプションは、LANGLVL(SAA) または LANGLVL(SAA2) として指定しなければならない。

---

**IBM1141I W Syntax of the %NOPRINT statement is incorrect.**

説明: %NOPRINT ステートメントのあとには (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1142I W Syntax of the %PAGE statement is incorrect.**

説明: %PAGE ステートメントのあとには (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1143I W Syntax of the %PRINT statement is incorrect.**

説明: %PRINT ステートメントのあとには (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1144I W Number of lines specified with %SKIP must be between 0 and 999 inclusive.**

説明: 999 を超えるスキップ量はサポートされていない。

```
%skip(2000);
```

---

**IBM1145I W Syntax of the %SKIP statement is incorrect.**

説明: %SKIP ステートメントのあとには括弧で囲んだ整数、および (間にブランクを入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1146I W Syntax of the TEST option in the %OPTION statement is incorrect.**

説明: %OPTION ステートメント内の TEST オプションは、サブオプションを付けずに指定しなければならない。

---

**IBM1147I W Syntax of the NOTEST option in the %OPTION statement is incorrect.**

説明: %OPTION ステートメント内の NOTEST オプションは、サブオプションを付けずに指定しなければならない。

---

**IBM1148I W Syntax of the %PUSH statement is incorrect.**

説明: %PUSH ステートメントのあとには (間に空白を入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1149I W Syntax of the %POP statement is incorrect.**

説明: %POP ステートメントのあとには (間に空白を入れるか入れないかは任意で) セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1150I W Syntax of the %NOTE statement is incorrect.**

説明: %NOTE ステートメントのあとには、注および任意の戻りコードを括弧で囲んで指定し、その次にセミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM1151I W FIXED BINARY precision is reduced to maximum value.**

説明: FIXED BIN の最大精度は LIMITS オプションにより決まる。

---

**IBM1152I W FIXED DECIMAL precision is reduced to maximum value.**

説明: FIXED DEC の最大精度は LIMITS により決まる。

---

**IBM1153I W FLOAT BINARY precision is reduced to maximum value.**

説明: FLOAT BIN の最大精度は、Intel では 64、AIX では 106、z/OS では 109 である。

---

**IBM1154I W FLOAT DECIMAL precision is reduced to maximum value.**

説明: FLOAT DEC の最大精度は、Intel では 18、AIX では 32、z/OS では 33 である。ただし、DFP では最大 34 である。

---

**IBM1155I W The aggregate *aggregate-name* contains noncomputational values. Those values will be ignored.**

説明: I/O ステートメントで参照されている集合のメンバーの一部が非計算型である。計算型メンバーは正しく処理されるが、非計算型メンバーは無視される。

```
dc1 1 x,  
    2 y ptr,  
    3 fixed bin(31);  
put skip list(x);
```

---

**IBM1156I W Arguments to MAIN procedure are not all POINTER.**

説明: SYSTEM(CICS)、SYSTEM(TSO)、および SYSTEM(IMS) のもとでは、MAIN プロシージャに対する引数はすべて、POINTER 型でなければならない。

---

**IBM1157I W note**

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 4 と共に使用される。

---

**IBM1158I W A option is missing in the specification of the option option. One is assumed.**

説明: コンパイラー・オプションの指定に、右引用符または右括弧が欠落している。引用符付きストリングは行の境界を超えてはならない。

---

**IBM1159I W The string option is not recognized as a valid option keyword and is ignored.**

説明: 無効なコンパイラー・オプションを指定した。

---

**IBM1160I W The third argument to the MARGINS option is not supported.**

説明: 入力ソース・レコードでは、印刷制御文字はサポートされない。

---



---

**IBM1161I W The suboption *suboption* is not valid for the option compiler option.**

説明: コンパイラー・オプションのサブオプションが無効である。このサブオプションは、不明なものか、または許容範囲外のものである。

```
*process flag(q) margins(1002);
```

---

**IBM1162I W A required suboption is missing for the suboption option.**

説明: コンパイラー・オプションの必須サブオプションが欠落している。

```
*process or;
```

---

**IBM1163I W Required sub-fields are missing for the option option. Default values are assumed.**

説明: コンパイラー・オプションの必須サブオプションがいくつか欠落している。

```
*process margins;
```

---

**IBM1164I W *option-name* should be specified within OPTIONS, but is accepted as is.**

説明: 該当のオプション (例えば REORDER) は、OPTIONS 属性の外部で受け入れられるが、OPTIONS 属性の内部に指定する必要がある。こうすることによって、ANSI 規格にも準拠することになる。

---

**IBM1165I W The OPTIONS option *option-name* has been specified more than once.**

説明: サポートされる LINKAGE オプションは、OPTLINK と SYSTEM だけである。

---

**IBM1166I W *option-name* is not a known LINKAGE suboption. The LINKAGE option will be ignored.**

説明: サポートされる LINKAGE オプションは、OPTLINK と SYSTEM だけである。

---

**IBM1167I W Maximum number of %PUSH statements exceeded. The control statement is ignored.**

説明: 保留 %PUSH ステートメントの最大数は 63 である。

---

**IBM1168I W No %PUSH statements are in effect. The %POP control statement is ignored.**

説明: 保留中の %PUSH ステートメントがないときに、%POP が発行された。

---

**IBM1169I W No precision was specified for the result of the builtin name built-in. The precision will be determined from the argument.**

説明: このメッセージは、引数が 1 つだけ指定されている場合に、FIXED および FLOAT 組み込み関数に適用される。精度はデフォルトに設定されず、その引数から得られる。例えば、x が FLOAT BIN(21) の場合、FIXED(x) からは値 FIXED BIN(21) が戻される。

---

**IBM1170I W The OPTIONS attribute *option-attribute* is not supported and is ignored.**

説明: OPTIONS リスト内の示されているエレメントはサポートされていない。

```
dc1 a ext entry options( nomap );
```

---

**IBM1171I W SELECT statement contains no WHEN or OTHERWISE clauses.**

説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節は SELECT ステートメントに必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

---

**IBM1172I W A zero length string has been entered for the *option-name* option. The option is ignored.**

説明: ユーザー指定ストリングの長さが 0 である。これが起こるのは、コマンド行に OR('') または OR('A') を指定した場合である。後者の場合、単一の 'A' 文字はエスケープ文字として解釈される。

---

**IBM1173I W SELECT statement contains no WHEN clauses.**

説明: SELECT ステートメントには WHEN 文節は必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

---

**IBM1174I W The reference in the from-into clause clause may not be byte-aligned.**

説明: FROM 文節または INTO 文節に指定された参照のバイト整合がとれていない可能性がある。参照のバイ

ト整合がとれていない場合は、予測不能な結果が生じることがある。

---

**IBM1175I W FIXED BINARY constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: FIXED BINARY 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDBIN サブオプションで指定する。

---

**IBM1176I W FIXED DECIMAL constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDDEC サブオプションで指定する。

---

**IBM1177I W Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: 浮動 2 進定数は、Intel では 64 桁、AIX では 32 桁、z/OS では 33 桁に制限されている。

---

**IBM1178I W Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: 浮動 10 進定数は、Intel では 18 桁、AIX では 106 桁、z/OS では 109 桁に制限されている。

---

**IBM1179I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. An appropriate HUGE value of assumed value is assumed.**

説明: 浮動リテラルの精度は、その仮数の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。

---

**IBM1180I W Argument to BUILTIN name built-in is not byte aligned.**

説明: このメッセージは ADDR、CURRENTSTORAGE/ SIZE、および STORAGE/SIZE 組み込み関数に適用される。これらの組み込み関数のいずれかをバイト整合のとれていない変数に適用すると、予想どおりの結果が生成されないことがある。

---

**IBM1181I W A WHILE or UNTIL option at the end of a series of DO specifications applies only to the last specification.**

説明: 以下のコードの断片では、WHILE 文節は I=5 という最後の DO 指定にのみ適用する。

```
do i = 1, 3, 5 while( j < 5 );
```

---

**IBM1182I W Invocation of a NONRECURSIVE procedure from within that procedure is invalid. RECURSIVE attribute is assumed.**

説明: プロシージャの中に、再帰呼び出しの原因となるコードが含まれているが、このプロシージャは RECURSIVE 属性を指定して宣言されていない。

```
a: proc( n );  
...  
if n > 0 then call a;
```

---

**IBM1183I W condition-name condition is disabled. Statement is ignored.**

説明: SIGNAL ステートメントが発生させる条件が使用不可にされている場合は、その SIGNAL ステートメントは無視される。SIZE など、一部の条件はデフォルトで使用不可にされる。

```
(nofofl): signal fixedoverflow;
```

---

**IBM1184I W Source with length string-length in INITIAL clause for variable name is longer than target. Source will be truncated.**

説明: INITIAL 文節内のストリング (下記の例では 'TooBig') は、ターゲットに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
dcl x char(4) static init('tooBig');
```



---

**IBM1185I W Source in RETURN statement has length greater than that in the corresponding RETURNS attribute.**

説明: RETURNS 文節内のストリング (下記の例では 'TooBig') は、ターゲットに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
x: proc returns( char(4) );
...
return( 'TooBig' );
```

---

**IBM1186I W Source in string assignment is longer than target.**

説明: 割り当てに指定したソース (下記の例では 'TooBig') は、ターゲット変数に合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
dcl x char(4);
x = 'TooBig';
```

---

**IBM1187I W Argument number *argument-number* in entry reference *entry name* is longer than the corresponding parameter.**

説明: エントリー呼び出し内のソース (下記の例では 'TooBig') は、パラメーターに合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。

```
dcl x entry( char(4) );
call x( 'TooBig' );
```

---

**IBM1188I W Result of concatenating two strings is too long.**

説明: 2 つのストリングを連結した結果のストリングの長さは、派生ストリング型の最大許容長を超えてはならない。

---

**IBM1189I W NODESCRIPTOR attribute conflicts with the NONCONNECTED attribute for the parameter *parameter name*. CONNECTED is assumed.**

説明: プロシージャについて NODESCRIPTOR が指定されている (または暗黙に選択されている) 場合は、集合パラメーターに CONNECTED 属性が必要である。CONNECTED 属性は、明示的にコーディングすること

も、DEFAULT(CONNECTED) コンパイラー・オプションにより暗黙に指定することもできる。

---

**IBM1190I W The OPTIONS option *option-name* conflicts with the LANTLR compiler option. The option will be applied.**

説明: 示されているオプションは、LANGLVL コンパイラー・オプションに指定されている PL/I 言語定義の一部ではない。

---

**IBM1191I W Result of FIXED BIN divide will not be scaled.**

説明:  $31 > p1$  の場合に、値 FIXED BIN( $p1,0$ ) を値 FIXED BIN( $p2,0$ ) で除算すると、結果の属性は FIXED BIN( $p1,0$ ) になる。ANSI 76 では、この属性は FIXED BIN( $31,31-p1$ ) になる。

---

**IBM1192I W WHEN clauses contain duplicate values.**

説明: 制御下の SELECT ステートメントでは、WHEN 文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージが生成されるのは、その SELECT ステートメントがその他の点ではブランチ・テーブルへの変換に適している場合だけである。

---

**IBM1193I W *statement count* statements in block *block name*. Optimization restricted.**

説明: プロシージャまたは開始ブロックに、MAXSTMT オプションに指定された数より多くのステートメントが含まれている場合、最適化は制限される。この問題を回避するには、ブロックをより管理しやすい部分に分割する。

---

**IBM1194I W More than one argument to MAIN procedure.**

説明: SYSTEM(CICS) および SYSTEM(IMS) のもとで使用する場合を除き、MAIN プロシージャの引数は最大 1 つでなければならない。

---

**IBM1195I W Argument to MAIN procedure is not CHARACTER VARYING.**

説明: SYSTEM(CICS)、SYSTEM(TSO)、および SYSTEM(IMS) のもとで使用する場合を除き、MAIN プロシージャに対する引数は CHARACTER VARYING でなければならない。

---

**IBM1196I W AREA initialized with EMPTY -  
INITIAL attribute is ignored.**

説明: AREA 変数用に指定した INITIAL 属性はすべて無視される。この変数は、代わりに EMPTY 組み込み関数を使用して初期化される。

---

**IBM1197I W file-name assumed as file condition  
reference.**

説明: すべてのファイル条件はファイル参照を使用して修飾しなければならない。ただし、ENDFILE および ENDPAGE は、ファイル参照なしで受け入れられる。この場合、SYSIN および SYSPRINT がそれぞれ想定される。

---

**IBM1198I W A null argument list is assumed for  
variable name.**

説明: ENTRY 参照が、そのエントリーを呼び出した結果を使用すると考えられる状況で、使用されている。

```
dcl e1 entry returns( ptr );
dcl q ptr based;
e1->q = null();

dcl e2 entry returns( bit(1) );
if e2 then ...
```

---

**IBM1199I W Syntax of the %LINE directive is  
incorrect.**

説明: %LINE ディレクティブのあとには、(間にブランクを入れるか入れないかは任意で) 括弧、行番号、コンマ、ファイル名、および右括弧を指定しなければならない。

```
%line( 19, test.pli );
```

---

**IBM1200I W Use of DATE built-in function may  
cause problems.**

説明: DATE 組み込み関数は 2 桁の年を戻す。4 桁の年を戻す DATETIME 組み込み関数を使用する方がよい。

---

**IBM1201I W suboption conflicts with a previously  
specified suboption for the option  
compiler option.**

説明: LANGLVL コンパイラ・オプションのサブオ

プションに矛盾がある。SAA2 サブオプションと OS サブオプションは同時に使用することはできない。

```
*process langlvl(saa2 os);
```

---

**IBM1202I W Syntax of the %OPTION statement is  
incorrect.**

説明: %OPTION ステートメントでサポートされるオプションは LANGLVL オプションだけである。

---

**IBM1203I W Argument to PLITEST built-in  
subroutine is ignored.**

説明: 引数を何も渡さないように、PLITEST の呼び出しを変更する必要がある。

---

**IBM1204I W INTERNAL CONSTANT assumed for  
initialized STATIC LABEL.**

説明: LABEL 変数は、ブロック活動化情報を必要とするため、コンパイル時には初期化できない。INITIAL 属性付きの STATIC LABEL 変数の場合、その変数が構造体または共用体のメンバーであれば、重大メッセージが発行される。それ以外の場合は、ブロック活動化情報が必要であるという要件を取り除くために、属性が INTERNAL CONSTANT に変更される。このような変数は、収容ブロックから LABEL CONSTANT を使用して初期化する必要がある。

---

**IBM1205I W Arguments of the option compiler option  
must be the same length.**

説明: NAMES オプションの 2 つの引数を指定する場合は、それらの引数の長さが同じでなければならない。2 番目の引数は、最初の引数の英大文字値である。最初のストリングの文字に英大文字値がない場合は、その文字自体を英大文字値として使用する。例えば、次のようになる。

```
names( '$!@' '$!@')
```

---

**IBM1206I W BIT operators should be applied only to  
BIT operands.**

説明: 書式が  $x \& y$ 、 $x | y$ 、または  $x \wedge y$  の式では、 $x$  と  $y$  はどちらも BIT 型でなければならない。

---

**IBM1207I W Operand to LENGTH built-in should  
have string type.**

説明: オペランドが数値型の場合は、結果は、その値がストリングに変換されたあとでとる長さになる。数値型の長さは、ストレージ要件と同じではない。

---

**IBM1208I W INITIAL list for the array *variable name* contains only one item.**

説明: 配列の初期化は不完全になる。名前付き変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の後続の要素は、メッセージ 2603 でフラグを立てられる。アスタリスクは、すべての要素を 1 つの値を用いて初期化するための初期化因数として使用できる。次の例では、a(1) は値 13 を用いて初期化されるが、要素 a(2) から a(8) は初期化されない。これに対して、b の中のすべての要素は 13 に初期化される。

```
dc1 a(8) fixed bin init( 13 );
dc1 b(8) fixed bin init( (*) 13 );
```

---

**IBM1209I W INDEXED environment option for file *file name* will be treated as ORGANIZATION(INDEXED).**

説明: OS/2 プラットフォームでは ISAM はシミュレートされないで、ファイルは VSAM KSDS に似た方法で処理される。次に示す例では、最初の宣言に指定されているファイルは、2 番目の宣言の中のファイルと同じ方法で処理される。つまり、両方とも ORGANIZATION(INDEXED) として処理される。

```
dc1 f1 file env(indexed);
dc1 f2 file env(organization(indexed));
```

---

**IBM1210I W The field width specified in the *keyword* -format item may be too small for complete output of the data item.**

説明: フォーマットの幅が出力には小さすぎる。このフォーマットは、入力用に使用されている場合は有効なときがある。

---

**IBM1211I W Source with length *string-length* is longer than the target *variable*.**

説明: 割り当てに指定したソース (下記の例では 'TooBig') は、ターゲット変数に合うように切り詰められる (例では 'TooB' になる)。ターゲットが疑似変数の場合は、代わりにメッセージ 1186 が発行される。

```
dc1 x char(4);
x = 'TooBig';
```

---

**IBM1212I W The A format item requires an argument when used in GET statement. An L format item is assumed in its place.**

説明: GET ステートメントに指定する場合は、A フォーマット項目に幅を指定する必要がある。

```
get edit(name) (a);
```

---

**IBM1213I W The procedure *proc name* is not referenced.**

説明: 示されているプロシージャは、外部プロシージャではなく、コンパイル単位内で参照されることはない。これはエラー (このプロシージャを呼び出すことになっている場合) またはなんらかの非活動コードを除去する機会を示す。

---

**IBM1214I W A dummy argument will be created for argument number *argument-number* in entry reference *entry name*.**

説明: BYADDR をエンタリーに渡した引数が、エンタリー記述の対応するパラメーターに一致しない。その引数のアドレスはエンタリーに渡されない。代わりに、引数が、エンタリー記述内のパラメーターに一致する属性を持つ一時変数に割り当てられ、その一時変数のアドレスがエンタリーに渡される。これは、エンタリーがこのパラメーターの値を変更した場合、呼び出しルーチンはその変更を認識できないということを意味している。

```
dc1 e entry( fixed bin(31) );
dc1 i fixed bin(15);
call e( i );
```

---

**IBM1215I W The variable *variable name* is declared without any data attributes.**

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、括弧が欠落している可能性がある。

```
dc1 a, b fixed bin;
```

---

**IBM1216I W The structure member *variable name* is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.**

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d の

レベル番号はおそらく 3 が正しい。

```
dcl a, b fixed bin;
  1 a,
  2 b,
  2 c,
  2 d;
```

---

**IBM1217I W An unnamed structure member is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.**

**説明:** デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d のレベル番号はおそらく 3 が正しい。

```
dcl a, b fixed bin;
  1 a,
  2 *,
  2 c,
  2 d;
```

---

**IBM1218I W First argument to *BUILTIN* name built-in should have string type.**

**説明:** このメッセージが出ないようにするには、CHAR 組み込み関数または BIT 組み込み関数を最初の引数に適用する必要がある。

```
dcl i fixed bin;
display( substr(i,4) );
```

---

**IBM1219I W LEAVE will exit noniterative DO-group.**

**説明:** LEAVE ステートメントにラベルが指定されている場合は、このメッセージは生成されない。次のループでは、LEAVE ステートメントは直接囲んでいる DO グループを終了するだけで、ループは終了されない。

```
do i = 1 to n;
  if a(i) > 0 then
    do;
      call f;
      leave;
    end;
  else;
  end;
end;
```

---

**IBM1220I W Result of comparison is always constant.**

**説明:** このメッセージは、変数がある可能性のある最大値または最小値に等しい定数と、その変数を比較する場合に生成される。次のループでは、変数 x は 99 を超えることはできない。したがって、このループにより毎回実行される暗黙の比較では、結果は常に '1'b になる。

```
do x pic'99';

do x = 1 to 99;
end;
```

---

**IBM1221I W Statement uses *count* bytes for temporaries.**

**説明:** このメッセージは、MAXTEMP コンパイラー・オプションで許容されるバイト数を超えるバイト数をステートメントが一時的に使用した場合に生成される。

---

**IBM1222I W Comparison involving 2-digit year is problematic.**

**説明:** 2 桁の年フィールドを含むデータが関係する比較では、年の 1 つだけが 1999 年よりあとの年だった場合に、問題が起こることがある。

---

**IBM1223I W Literal in comparison interpreted with DATE attribute.**

**説明:** 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンとして有効な値を持つリテラルであれば、日付の被比較数と同じ DATE 属性を持つものと見なされる。したがって、次のコードでは、'670101' は DATE('YYMMDD') 属性が指定されている場合と同様に解釈される。

```
dcl x char(6) date('YYMMDD');

if x > '670101' then ...
```

---

**IBM1224I W DATE attribute ignored in comparison with non-date literal.**

**説明:** 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンとして無効な値を持つリテラルであれば、DATE 属性は無視される。したがって、次のコ

ードでは、x に DATE 属性がないものとして比較が評価される。

```
dc1 x char(6) date('YYMMDD');  
  
if x > '' then ...
```

---

**IBM1225I W DATE attribute ignored in conversion from literal.**

**説明:** 明示割り当てまたは暗黙割り当てのターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならない。そうでない場合は、DATE 属性は無視される。したがって、次のコードでは、x に DATE 属性がないものとして割り当てが実行される。

```
dc1 x char(6) date('YYMMDD');  
  
x = '';
```

---

**IBM2600I W Compiler backend issued warning messages to STDOUT.**

**説明:** STDOUT を参照して、コンパイラー・バックエンドによって発行されたメッセージを調べること。

---

**IBM2601I W Missing character assumed before character.DECLARE and other nonexecutable statements should not have labels.**

**説明:** 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。

```
xx: dc1 test fixed bin;
```

---

**IBM2602I W Number of items in INITIAL list is count for the array variable name which contains array size elements.**

**説明:** 配列の初期化は不完全になる。名前付き変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の最初のエレメントは、メッセージ 1138 でフラグを立てられる。これは、おそらくプログラミング・エラー（下記の例では、6 でなく 7 がおそらく正しい）であり、このプログラムを実行すると例外が発生する可能性がある。

```
dc1  
1 a,  
2 b(8) fixed bin init( 1, (7) 29 ),  
2 c(8) fixed bin init( 1, (6) 29 );
```

---

**IBM2603I W INITIAL list for the array variable name contains only one item.**

**説明:** 配列の初期化は不完全になる。名前付き変数が構造体の一部である場合、この問題が生じた構造体の最初のエレメントは、メッセージ 1208 でフラグを立てられる。アスタリスクは、すべてのエレメントを 1 つの値を用いて初期化するための初期化因数として使用できる。次の例では、b(1) および c(1) は値 13 で初期化されるが、エレメント b(2) から b(8)、および c(2) から c(8) は未初期化である。これに対して、d の中のすべてのエレメントは 13 に初期化される。

```
dc1  
1 a,  
2 b(8) fixed bin init( 13 ),  
2 c(8) fixed bin init( 13 ),  
2 d(8) fixed bin init( (*) 13 );
```

---

**IBM2604I W FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to FIXED DEC(target-precision,target-scale). Significant digits may be lost.**

**説明:** FIXED DECIMAL への変換のソースが、異なる精度とスケール因数を持つ FIXED DECIMAL または PICTURE 変数である場合、および精度の違いがスケール因数の違いほど大きくない場合、有効数字が失われることがある。SIZE 条件が使用可能になっていれば、そのような状況の発生を検出するためのコードが生成され、このメッセージは出されない。

```
dc1 a fixed dec(04) init(1009);  
dc1 b fixed dec(03);
```

```
b = a;
```

---

**IBM2605I W Invalid carriage control character. Blank assumed.**

**説明:** 指定された行に、無効な ANS 印刷制御文字が含まれている。有効な文字は、ブランク、0、-、+、および 1 である。



---

**IBM2607I W PICTURE representing FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to FIXED DEC(target-precision,target-scale). Significant digits may be lost.**

**説明:** FIXED DECIMAL への変換のソースが、異なる精度とスケール因数を持つ PICTURE 変数である場合、および精度の違いがスケール因数の違いほど大きくない場合、有効数字が失われることがある。SIZE 条件が使用可能になっていれば、そのような状況の発生を検出するためのコードが生成され、このメッセージは出されない。

```
dcl a pic'(4)9' init(1009);
dcl b fixed dec(03);
```

```
b = a;
```

---

**IBM2608I W PICTURE representing FIXED DEC(source-precision,source-scale) will be converted to PICTURE representing FIXED DEC(target-precision,target-scale). Significant digits may be lost.**

**説明:** PICTURE への変換のソースが、異なる精度とスケール因数を持つ PICTURE 変数である場合、および精度の違いがスケール因数の違いほど大きくない場合、有効数字が失われることがある。SIZE 条件が使用可能になっていれば、そのような状況の発生を検出するためのコードが生成され、このメッセージは出されない。

```
dcl a pic'(4)9' init(1009);
dcl b pic'(3)9';
```

```
b = a;
```

---

**IBM2609I W Comment contains a semicolon on line line-number,file-number.**

**説明:** コメントにセミコロンが含まれている場合、以下の例のように、意図的ではないが閉じていないコメントがあり、一部のソースが誤ってコメント化されてしまうことを示していることがある。

```
/* start of unclosed comment
dcl b pic'(3)9';
/* next comment */
```

---

**IBM2610I W One argument to BUILTIN name built-in is FIXED DEC while the other is FIXED BIN. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.**

**説明:** このメッセージは、MULTIPLY、DIVIDE、ADD、および SUBTRACT の組み込み関数に適用される。これらの関数の 1 つに対する 1 つの引数が FIXED DEC であり、もう 1 つの引数が FIXED BIN であると、指定された精度が FIXED DEC 精度として解釈されない。これによって、不適切なデータの切り捨てが起こる可能性がある。例えば、以下の乗算の結果は、属性 FIXED DEC(15) ではなく、属性 FIXED BIN(15) を持つことになり、結果が不適切に切り捨てられる原因となることがある。

```
dcl a fixed bin(31);
dcl b fixed dec(15);

b = multiply( a, 1000, 15 );
```

---

**IBM2611I W The binary value binary value appears in more than one WHEN clause.**

**説明:** 制御下の SELECT ステートメントでは、WHEN 文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージが生成されるのは、その SELECT ステートメントがその他の点ではブランチ・テーブルへの変換に適している場合だけである。

---

**IBM2612I W The character string character string appears in more than one WHEN clause.**

**説明:** 制御下の SELECT ステートメントでは、WHEN 文節に前の WHEN 文節と同じ値がある場合、2 番目の WHEN 文節のコードは実行されない。このメッセージが生成されるのは、その SELECT ステートメントがその他の点ではブランチ・テーブルへの変換に適している場合だけである。

---

**IBM2613I W Unless it is an output-only parameter, variable may be uninitialized when used.**

**説明:** 示されている変数は、初期化される前に使用された可能性がある。

---

**IBM2614I W Both comparands are booleans.**

**説明:** このメッセージは、例えば "and" または "or" のつもりで "equals" を使っている、以下のようなステートメントにフラグを立てる。

```
if ( a < b ) = ( c < d ) then
```

---

**IBM2615I W DO-loop will always execute exactly once.**  
**A semicolon after the DO may be missing.**

説明: DO ループは通常は反復するが、DO ループの指定が 1 つの割り当てだけで構成されている場合、それは常に 1 度限り実行される。次の例に示すように、DO の後にセミコロンが欠落している。

```
do
  edsaup.tprs = ads162.tprs;
  edsaup.tops = ads162.tops;
end;
```

---

**IBM2616I W Size of parameter variable will return the currentsize value since no descriptor is available.**

説明: SIZE または STG 組み込み関数が CHAR(\*) VARYING (または VARYINGZ) パラメーターに適用され、使用可能な記述子がない場合、変数に割り振られる実際のストレージのサイズは判別できず、現行のサイズのみ、戻すことができる。

---

**IBM2617I W Passing a LABEL to a non-PL/I routine is very poor coding practice and will cause the compiler to generate less than optimal code.**

説明: 一般に、ラベルを別のルーチンに渡すことは賢明ではない。このことを行うコードがあれば、再設計を考える方が良く思われる。コンパイラーがこのメッセージを発行するのは、OPTIONS( COBOL ) または OPTIONS( ASM ) または OPTIONS( FORTRAN ) を使って宣言された ENTRY に対して LABEL を渡している場合である。このようなラベルの使用が妥当なのは、呼び出されたルーチンが、別の PL/I ルーチンにそれを渡すことになる場合だけである。

---

**IBM2618I W The suboption suboption is not valid for the suboption option of the option compiler option.**

説明: コンパイラー・オプションのサブオプションのサブオプションが無効である。このサブオプションは、不明なものか、または許容範囲外のものである。

```
*process limits(extname(2000));
```

---

**IBM2619I W The include file filename contains no cross-referenced variables.**

説明: このファイルの %INCLUDE は省略可能と考えられる。

---

**IBM2620I W Target structure contains REFER objects. Results are undefined if the assignment changes any REFER object.**

説明: REFER オブジェクトを変更すると、期待どおりの結果が生成されない可能性がある。例えば次の例で、割り当ては配列 d 中の要素をいずれも変更しない。

```
dc1
  1 a based(p),
  2 b      fixed bin(31),
  2 c      fixed bin(31),
  2 d( 10 refer(c) ),
  3 e      fixed bin(31),
  3 f      fixed bin(31);

a = '';
```

---

**IBM2621I W ON ERROR block does not start with ON ERROR SYSTEM. An error inside the block may lead to an infinite loop.**

説明: 通常、ON ERROR ブロックの最初のステートメントは、ON ERROR SYSTEM ステートメントでなければならない。これにより、ON ERROR ブロックの残りのコードにエラーがあったとしても、無限ループが回避されやすくなる。

---

**IBM2622I W ENTRY used to set the initial value in a DO loop will be invoked after any TO or BY values are set.**

説明: DO ループの初期値が ENTRY を介して設定されている場合は、その ENTRY が TO または BY 値に変更された場合に、予期しない結果が生じる場合がある。例えば、次の最初のループにある関数 "first" によって、変数 "last" の値が変更されるべきではない。このコードを次の 2 番目のループの形に変更する方がよい。

```
do x = first() to last;
end;

temp = first();
do x = temp to last;
end;
```

---

**IBM2623I W Mixing FIXED BIN and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.**

説明: DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす、効率の低いライブラリー呼び出しが必要となる。これを避けるために、DECIMAL 組み込み関数を FIXED BIN オペランドに適用することができる。例えば、最初の割り当てステートメントを次の 2 番目の形に変更した方がよい。

```
dc1 n fixed bin(31);  
dc1 f float dec(16);
```

```
f = n + f;  
f = dec(n) + f;
```

---

**IBM2624I W Mixing BIT and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.**

説明: DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす、効率の低いライブラリー呼び出しが必要となる。これを避けるために、DECIMAL 組み込み関数を BIT オペランドに適用することができる。例えば、最初の割り当てステートメントを次の 2 番目の形に変更した方がよい。

```
dc1 b bit(8);  
dc1 f float dec(16);
```

```
f = b + f;  
f = dec(b) + f;
```

---

**IBM2625I W Mixing FLOAT BIN and FLOAT DEC produces a FLOAT BIN result. Under DFP, this will lead to poor performance.**

説明: DFP のもとでは FLOAT DEC から FLOAT BIN への変換に、ローパフォーマンスを引き起こす、効率の低いライブラリー呼び出しが必要となる。

---

**IBM2626I W Use of SUBSTR with a third argument equal to 0 is somewhat pointless since the result will always be a null string.**

説明: SUBSTR 参照の 3 番目の引数をゼロの定数にすることは、技術的には有効であるが、コーディング・エラーを示す可能性がある。

---

**IBM2627I W No metadata will be generated for the structure identifier since its use of REFER is too complex.**

説明: XMI メタデータは、REFER の使用が "simple" である場合に限り、REFER を使用した BASED 構造に対して生成される。

---

**IBM2628I W BYVALUE parameters should ideally be no larger than 32 bytes.**

説明: 32 バイトより大きい BYVALUE パラメーターは、必要となるオーバーヘッドが大きすぎるため、パフォーマンスが低下する。

---

**IBM2629I W No debug symbol information will be generated for identifier.**

説明: 名前付き変数に対してデバッグ・シンボル情報は生成されないため、したがって、デバッガーを使用したときに名前付き変数を参照できない。

---

**IBM2630I W The result in an arithmetic operation has the attributes FIXED base(precision,scale-factor) which means that its scale factor is greater than its precision and that the operation may lead to an overflow.**

説明: 演算結果のスケール係数が結果の精度を超えた場合は、予期しない FIXEDOVERFLOW 例外が発生する可能性がある。例えば、この例外は、LIMITS(FIXEDDEC(15)) オプションを指定して 2 つの FIXED DEC(15,8) 変数を乗算した場合に、その乗算の結果の属性が FIXED DEC(15,16) になるため発生する。このメッセージを除去するには、PRECISION 組み込み関数を使用して、オペランドの 1 つのスケール係数を減らすか、MULTIPLY 組み込み関数を使用して、結果のデフォルト属性をオーバーライドする。

---

**IBM2631I W One argument to BUILTIN name built-in is FIXED DEC while the other is FLOAT BIN. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.**

説明: このメッセージは、MULTIPLY、DIVIDE、ADD、および SUBTRACT の組み込み関数に適用される。これらの関数の 1 つに対する 1 つの引数が FIXED DEC であり、もう 1 つの引数が FLOAT BIN であると、指定された精度が FIXED DEC 精度として解釈されない。これによって、不適切なデータの切り捨てが起こる可能性がある。例えば、以下の乗算の結果は、属性 FIXED DEC(15) ではなく、属性 FLOAT



BIN(15) を持つことになり、結果が不適切に切り捨てられる原因となることがある。

```
dck a float bin(31);
dcl b fixed dec(15);
b = multiply( a, 1000, 15 );
```

---

**IBM2632I W One argument to *BUILTIN name* built-in is FIXED DEC while the other is FLOAT DEC. Compiler will not interpret precision as FIXED DEC.**

説明: このメッセージは、MULTIPLY、DIVIDE、ADD、および SUBTRACT の組み込み関数に適用される。これらの関数の 1 つに対する 1 つの引数が FIXED DEC であり、もう 1 つの引数が FLOAT DEC であると、指定された精度が FIXED DEC 精度として解釈されない。これによって、不適切なデータの切り捨てが起こる可能性がある。例えば、以下の乗算の結果は、属性 FIXED DEC(15) ではなく、属性 FLOAT DEC(15) を持つことになり、結果が不適切に切り捨てられる原因となることがある。

```
dcl a float dec(15);
dcl b fixed dec(15);
b = multiply( a, 1000, 15 );
```

---

**IBM2633I W Given the support for addressing arithmetic, basing a POINTER or OFFSET on a FIXED BIN is unnecessary, and it will also fail to work properly if the size of a POINTER changes.**

説明: このような変数を使用しているコードは、POINTER または OFFSET 変数のサイズが FIXED BIN 変数のサイズと同じである場合にのみ機能する。

---

**IBM2634I W Given the support for addressing arithmetic, basing a FIXED BIN on a POINTER or OFFSET is unnecessary, and it will also fail to work properly if the size of a POINTER changes.**

説明: このような変数を使用しているコードは、POINTER または OFFSET 変数のサイズが FIXED BIN 変数のサイズと同じである場合にのみ機能する。



---

## 第 4 章 コンパイラー・エラー・メッセージ (1226 から 1499、2400 から 2599)

---

**IBM1226I E** Area extent is reduced to *maximum value*.

説明: AREA 変数の最大許容サイズは 16777216 である。

**IBM1227I E** *keyword statement is not allowed where an executable statement is required. A null statement will be inserted before the keyword statement.*

説明: 一部のコンテキスト (例えば IF-THEN 文節のあと) では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、DECLARE、DEFINE、DEFAULT、または FORMAT ステートメントが検出された。問題のステートメントの前に、ヌル・ステートメント (セミコロンのみで構成されるステートメント) が挿入される。

**IBM1228I E** **DEFAULT statement is not allowed where an executable statement is required. The DEFAULT statement will be enrolled in the current block, and a null statement will be inserted in its place.**

説明: 一部のコンテキスト (例えば IF-THEN 文節のあと) では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、DEFAULT ステートメントが検出された。DEFAULT ステートメントの代わりに、ヌル・ステートメント (セミコロンのみで構成されるステートメント) が挿入される。

**IBM1229I E** **FORMAT statement is not allowed where an executable statement is required. The FORMAT statement will be enrolled in the current block, and a null statement will be inserted in its place.**

説明: 一部のコンテキスト (例えば IF-THEN 文節のあと) では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、FORMAT ステートメントが検出された。FORMAT ステートメントの代わりに、ヌル・ステートメント (セミコロンのみで構成されるステートメント) が挿入される。

**IBM1230I E** Arguments have been specified for the *variable variable name* , but it is not an entry variable.

説明: 引数リストは ENTRY 参照の場合にのみ有効である。

```
dcl a(15) entry returns( fixed bin(31) );  
i = a(3)(4);
```

**IBM1231I E** Arguments/subscripts have been specified for the *variable variable name* , but it is neither an entry nor an array variable.

説明: 引数/添え字リストは、ENTRY および配列参照の場合にのみ有効である。

```
dcl a fixed bin;  
i = a(3);
```

**IBM1232I E** Extraneous comma at end of statement ignored.

説明: コンマの次に、有効な構文エレメント (ID など) でなく、セミコロンがある。コンマは無視され、セミコロンが有効になる。RULES(LAXPUNC) のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

```
dcl 1 a, 2 b fixed bin, 2 c fixed bin, ;
```

**IBM1233I E** Missing character assumed.

説明: 指示された文字が欠落しているが、ソースの中にはそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。RULES(LAXPUNC) のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

**IBM1234I E** Missing character assumed before character.

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析

プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。  
RULES(LAXPUNC) のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

```
display( 'Program starting' ;
```

---

**IBM1235I E No data format item in format list.**

説明: フォーマット・リスト内でデータ・フォーマット項目が指定されていないければ、データ項目は転送することができない。

```
put edit ( (130)'-' ) ( col(1) );
```

---

**IBM1236I E Subscripts on keyword labels are ignored.**

説明: PROCEDURE、PACKAGE、または ENTRY ステートメントに指定するラベルには添え字を付けてはならない。

---

**IBM1237I E EXTERNAL ENTRY attribute is assumed for variable-name.**

説明: 宣言されていない変数を引数リストに使用した。したがって、変数は BUILTIN としてコンテキスト宣言されていることになるが、名前は組み込み関数の名前ではない。

---

**IBM1238I E The second argument to the BUILTIN name built-in is greater than the precision of the result.**

説明: ISLL 内のシフトの量は、結果の精度より大きな値であってはならない。

```
i = isll( n, 221 );
```

---

**IBM1239I E The attribute attribute is not supported and is ignored.**

説明: 示されている属性は、SAA PL/I 言語の一部でなく、このプラットフォームでサポートされているものでもない。

```
dcl f file transient;
```

---

**IBM1240I E The attribute attribute is invalid in a RETURNS descriptor.**

説明: RETURNS 記述子に構造体、共用体、または配列を指定していない可能性がある。

```
dcl a entry returns( 1 union, 2 ptr, 2 ptr );
```

---

**IBM1241I E Only '=' and '^=' are allowed as operators in comparisons involving complex numbers.**

説明: 複素変数には等号および不等号を指定する必要があるが、別の方法で複素変数を関連付けようとしている。

---

**IBM1242I E Only '=' and '^=' are allowed as operators in comparisons involving program control data.**

説明: プログラム制御データ間に他の関係は定義されていない。おそらく、変数にミススペルがある。

---

**IBM1243I E REGIONAL( integer specification (2 or 3) ) ENVIRONMENT option is not supported.**

説明: REGIONAL(2) および REGIONAL(3) ENVIRONMENT オプションは、コンパイル時に構文検査されるが、実行時にはサポートされていない。

---

**IBM1244I E The variable specified as the option value in an ENVIRONMENT option must be a STATIC scalar with the attributes REAL FIXED BIN(31,0).**

説明: これは KEYLENGTH、KEYLOC、および RECSIZE サブオプションに適用される。

---

**IBM1245I E The variable specified as the option value in an ENVIRONMENT option must be a STATIC scalar with the attribute CHARACTER.**

説明: これは PASSWORD サブオプションに適用される。

---

**IBM1246I E Argument to BUILTIN name built-in should be CONNECTED.**

説明: このメッセージは、例えば ADDR 組み込み関数に適用される。ADDR 関数が戻す値は、引数の最初の

バイトのアドレスである。このポインターを使用して基底付き変数を参照すると、変数は、引数が占めるストレージにマップされずに他の変数が占めるストレージにマップされることがある。

---

**IBM1248I E** Argument to *BUILTIN name* built-in should have arithmetic type.

説明: 示されている組み込み関数に対する引数は、算術型でなければならない。必要な暗黙の変換は実行されるが、プログラミング・エラーがある可能性がある。

---

**IBM1249I E** Argument to *BUILTIN name* built-in should have CHARACTER type.

説明: 示されている組み込み関数に対する引数は、CHARACTER 型でなければならない。必要な暗黙の変換は実行されるが、プログラミング・エラーがある可能性がある。

---

**IBM1272I E** Argument number *argument number* to *BUILTIN name* built-in is negative. It will be changed to 0.

説明: COPY および REPEAT などの組み込み関数に対する 2 番目の引数は、負の値であってはならない。

```
x = copy( y, -1 );
```

---

**IBM1273I E** Third argument to *BUILTIN name* built-in is negative. It will be changed to 0.

説明: COMPARE、PLIFILL、および PLIMOVE などの組み込み関数に対する 3 番目の引数は、負の値であってはならない。

```
call plimove( a, b, -1 );
```

---

**IBM1274I E** RULES(NOLAXIF) requires BIT(1) expressions in IF, WHILE, etc.

説明: IF、WHILE、UNTIL、および上位構造体のない WHEN 文節の中の式には、属性 BIT(1) NONVARYING を指定しなければならない。これを指定しないと、式は適切なヌル値と比較される。RULES(LAXIF) オプションを指定してある場合は、このメッセージは出されない。

```
dc1 x bit(8) aligned;
...
if x then ...
```

---

**IBM1281I E** OPTIONS(RETCODE) on ATTACH reference is invalid and will be ignored.

説明: OPTIONS(RETCODE) は ATTACH 参照ではサポートされない。

---

**IBM1293I E** WIDECHAR extent is reduced to maximum value.

説明: WIDECHAR 変数の最大許容長は 16383 である。

---

**IBM1294I E** BIT extent is reduced to maximum value.

説明: BIT 変数の最大許容長は 32767 である。

---

**IBM1295I E** Sole bound specified is less than 1. An upper bound of 1 is assumed.

説明: デフォルトの下限は 1 であるが、上限は下限より大きい値でなければならない。

```
dc1 x(-5) fixed bin;
```

---

**IBM1296I E** The BYADDR option conflicts with the SYSTEM option.

説明: SYSTEM(IMS) または SYSTEM(CICS) が有効なときに MAIN プロシージャに渡される引数は、BYADDR 属性を持っていてはならない。

```
*process system(ims);
a: proc( x );
dc1 x ptr byaddr;
```

---

**IBM1297I E** Source and target in BY NAME assignment have no matching base identifiers.

説明: BY NAME では、ソース構造体とターゲット構造体に、一致する基本エレメント ID が 1 つ以上なければならない。

```
dc1 1 a, 2 b, 2 c, 2 d;  
dc1 1 w, 2 x, 2 y, 2 z;  
a = w, by name;
```

---

**IBM1298I E Characters in B3 literals must be 0-7.**

説明: B3 リテラルでは、各文字は 0 から 7 のいずれかでなければならない。

---

**IBM1299I E CHARACTER extent is reduced to maximum value.**

説明: CHARACTER 変数の最大許容長は 32767 である。

---

**IBM1300I E variable name is contextually declared as attribute.**

説明: RULES(NOLAXDCL) が指定されているので、これは E レベルのメッセージである。

---

**IBM1301I E A DECIMAL exponent is required.**

説明: FLOAT 定数内の E のあとには、1 つ以上の 10 進数 (任意で直前に符号が付けられる) が必要である。

---

**IBM1302I E The limit on the number of DEFAULT predicates in a block has already been reached. This and subsequent DEFAULT predicates in this block will be ignored.**

説明: 各ブロックに入れる DEFAULT 述部は 31 個以下でなければならない。

---

**IBM1303I E A second argument to the BUILTIN name built-in must be supplied for arrays with more than one dimension. A value of 1 is assumed.**

説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組み込み関数を 2 次元以上の配列に適用する場合は、2 つの引数が必要である。

```
dc1 a(5,10) fixed bin;  
do i = 1 to lbound(a);
```

---

**IBM1304I E Second argument to BUILTIN name built-in is not positive. A value of 1 is assumed.**

説明: DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組み込み関数では、2 番目の引数は正の値でなければならない。

---

**IBM1305I E Second argument to BUILTIN name built-in is greater than the number of dimensions for the first argument. A value of dimension count is assumed.**

説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組み込み関数に対する 2 番目の引数は、その配列引数の次元数以下でなければならない。

```
dc1 a(5,10) fixed bin;  
do i = 1 to lbound(a,3);
```

---

**IBM1306I E Repeated declaration of identifier is invalid and will be ignored.**

説明: レベル 1 の変数名は、同じブロック内で繰り返してはならない。

```
dc1 a fixed bin, a float;
```

---

**IBM1307I E Duplicate specification of arithmetic precision. Subsequent specification ignored.**

説明: 精度属性は、1 つの宣言の中で一度だけ指定する必要がある。

```
dc1 a fixed(15) bin(31);
```

---

**IBM1308I E Repeated declaration of identifier is invalid. The name will be replaced by an asterisk.**

説明: 同じ構造体または共用体内部では、特定のサブレベルの変数名は固有でなければならない。

```
dc1 1 a, 2 b fixed, 2 b float;
```

---

**IBM1309I E Duplicate specification of *attribute*.  
Subsequent specification ignored.**

説明: INITIAL などの属性は、同じ DECLARE ステートメントの要素について繰り返してはならない。

```
dcl a fixed init(0) bin init(2);
```

---

**IBM1310I E The attribute *character* conflicts with  
previous attributes and is ignored.**

説明: 属性は整合性のあるものでなければならない。

```
dcl a fixed real float;
```

---

**IBM1311I E EXTERNAL name contains no non-blank  
characters and is ignored.**

説明: 外部名には非空白文字をいくつか指定しなければならない。

```
dcl x external( ' ' );
```

---

**IBM1312I E WX literals should contain a multiple of  
4 hex digits.**

説明: WX リテラルはユニコード・ストリングを表すものであり、4 桁の 16 進数の倍数を指定しなければならない。

```
x = '00'wx;
```

---

**IBM1314I E ELSE clause outside of an open  
IF-THEN statement is ignored.**

説明: ELSE 文節が有効なのは、IF-THEN ステートメントの直後にある場合である。

```
do; if a > b then; end; else a = 0;
```

---

**IBM1315I E END label matches a label on an open  
group, but that group label is  
subscripted.**

説明: 添え字付きラベルを持つグループのための END

ステートメントには、添え字が付いたラベルが必要である。

```
a(1): do;  
...  
end a;
```

---

**IBM1316I E END label is not a label on any open  
group.**

説明: END ステートメントのラベルは、BEGIN、DO、PACKAGE、PROCEDURE、または SELECT を開始するステートメントの LABEL に一致していなければならない。

```
a: do;  
...  
end b;
```

---

**IBM1317I E An END statement may be missing after  
an OTHERWISE unit. One will be  
inserted.**

説明: SELECT ステートメント内の OTHERWISE ユニットのあとでは、END ステートメントのみが有効である。

```
select;  
  when ( ... )  
    do;  
    end;  
  otherwise  
    do;  
    end;  
display( .... );
```

---

**IBM1318I E The ENVIRONMENT option *option-name*  
conflicts with preceding ENVIRONMENT  
options. This option will be ignored.**

説明: ENVIRONMENT オプションの指定の中で矛盾が検出された。ENV(CONSECUTIVE INDEXED) を例にとると、INDEXED オプションは CONSECUTIVE オプションと矛盾する。

---

**IBM1319I E STRINGSIZE condition raised while  
evaluating expression. Result is truncated.**

説明: コンパイル時のユーザー式の変換中に、ターゲット・ストリングがソースより短いことが検出され、それが原因で STRINGSIZE 条件が発生した。



---

**IBM1320I E STRINGRANGE condition raised while evaluating expression. Arguments are adjusted to fit.**

説明: SUBSTR 参照内のすべての引数が定数または制限付きの式である場合は、参照はコンパイル時に評価される。引数が SUBSTR 組み込み関数用に記述された規則に従っていない場合は、STRINGRANGE 条件が発生する。

```
a = substr( 'abcdef', 5, 4 );
```

---

**IBM1321I E LEAVE/ITERATE label matches a label on an open DO group, but that DO group label is subscripted.**

説明: 添え字付きラベルを持つグループのための LEAVE/ITERATE ステートメントには、添え字が付いたラベルが必要である。

```
a(1): do;  
...  
leave a;
```

---

**IBM1322I E LEAVE/ITERATE label is not a label on any open DO group in its containing block.**

説明: LEAVE/ITERATE には、LEAVE/ITERATE ステートメントと同じブロック内の DO ループ開始のラベルを指定しなければならない。

```
a: do loop;  
begin;  
leave a;
```

---

**IBM1323I E ITERATE/LEAVE statement is invalid outside an open DO statement. The statement will be ignored.**

説明: ITERATE/LEAVE ステートメントは、DO グループ内部でのみ有効である。

```
a: begin;  
...  
leave a;  
...  
end a;
```

---

**IBM1324I E The name *name* occurs more than once in the EXPORTS clause.**

説明: package ステートメントの EXPORTS 文節内では、名前は固有でなければならない。

```
a: package exports( a1, a2, a1 );
```

---

**IBM1325I E The name *name* occurs in the EXPORTS clause, but is not the name of any level-1 procedure.**

説明: package ステートメントの EXPORTS 文節内では、個々の名前はそのパッケージ内のレベル 1 プロシージャの名前でなければならない。

```
a: package exports( a1, a2, a3 );
```

---

**IBM1326I E Variables declared without a name must be structure members or followed by a substructure list.**

説明: アスタリスクが使用できるのは、構造体名、共用体名、または構造体または共用体のメンバーの場合のみである。LIKE 属性を指定したレベル 1 の構造体名には、アスタリスクは使用できない。

```
dc1 * char(20) static init('who can use me');
```

---

**IBM1327I E The CHARACTER VARYING parameter to MAIN should be ASCII with the attribute NATIVE.**

説明: パラメーターが EBCDIC の場合、またはその属性が NONNATIVE の場合は、予想外の結果が生じることがある。

---

**IBM1328I E The CHARACTER VARYING parameter to MAIN should be EBCDIC with the attribute BIGENDIAN.**

説明: パラメーターが ASCII の場合、またはその属性が LITTLEENDIAN の場合は、予想外の結果が生じることがある。このメッセージは SYSTEM(MVS) などの場合にのみ適用される。

---



---

**IBM1330I E The I in an iSUB token must be bigger than zero. A value of 1 is assumed.**

説明: iSUB トークン内の I は、有効な次元数を表していなければならない。

```
dc1 b(8) fixed bin def(0sub,1);
```

---

**IBM1331I E The I in an iSUB token must have no more than 2 digits. A value of 1 is assumed.**

説明: iSUB トークン内の I は、1 桁または 2 桁の数字でなければならない。

```
dc1 b(8) fixed bin def(001sub,1);
```

---

**IBM1332I E The *format-item* format item requires an argument when used in GET statement. A value of 1 is assumed.**

説明: GET ステートメントに指定する場合は、A、B、および G フォーマット項目に幅を指定する必要がある。

```
get edit(name) (a);
```

---

**IBM1333I E Non-asterisk array bounds are not permitted in GENERIC descriptions.**

説明: 総称記述では、すべての配列境界をアスタリスクにする必要がある。

```
dc1 x generic ( e1 when( (10) fixed ), ...
```

---

**IBM1334I E String lengths and area sizes are not permitted in GENERIC descriptions.**

説明: 総称記述では、すべてのストリング長および領域サイズをアスタリスクにする必要がある。

```
dc1 x generic ( e1 when( char(10) ), ...
```

---

**IBM1335I E Entry description lists are not permitted in GENERIC descriptions.**

説明: 総称記述リスト中の ENTRY 属性をエントリー記述リストで修飾してはならない。

```
dc1 x generic ( e1 when( entry( ptr ) ), ...
```

---

**IBM1336I E GRAPHIC extent is reduced to *maximum value*.**

説明: GRAPHIC 変数の最大許容長は 16383 である。

---

**IBM1337I E GX literals should contain a multiple of 4 hex digits.**

説明: GX リテラルは漢字ストリングを表すものであり、4 桁の 16 進数の倍数を指定しなければならない。

```
x = '00'gx;
```

---

**IBM1338I E Upper bound is less than lower bound. Bounds will be reversed.**

説明: 変数の宣言で、上限が下限より小さい。これを訂正するために、上限と下限を入れ替える処理が行われる。例えば、DECLARE x(3:1) が、DECLARE x(1:3) に変更される。

---

**IBM1339I E Identifier is too long. It will be collapsed to *identifier*.**

説明: ID の最大長は、LIMITS コンパイラー・オプションの NAME サブオプションにより設定される。

---

**IBM1340I E Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* contains BIT data. NOMAP is assumed.**

説明: BIT データを含む引数が COBOL ルーチンへの呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```
dc1 f ext entry options( cobol );
```

```
dc1 1 a, 2 b bit(8), 2 c bit(8);
```

```
call f( a );
```

---

**IBM1341I E Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is or contains an UNION. NOMAP is assumed.**

説明: UNION データを含む引数が COBOL ルーチンへの呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```
dc1 f ext entry options( cobol );  
  
dc1 1 a union, 2 b char(4), 2 c fixed bin(31);  
  
call f( a );
```

---

**IBM1342I E** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* contains non-constant extents. NOMAP is assumed.

説明: 非定数エクステンツを含む引数が COBOL ルーチンへの呼び出し内に存在する。このような PL/I と COBOL 間の構造のマッピングはサポートされない。

```
dc1 f ext entry options( cobol );  
  
dc1 n static fixed bin init(17);  
  
dc1 1 a, 2 b char(n), 2 c fixed bin(31);  
  
call f( a );
```

---

**IBM1343I E** *nomap-suboption* is invalid as a suboption of *option*.

説明: "n" が 0 以上の整数である場合、サブオプションは ARGn と指定しなければならない。

```
dc1 f ext entry options( cobol nomap(arg0) );
```

---

**IBM1344I E** NOMAP specifications are valid only for ILC routines.

説明: NOMAP、NOMAPIN、および NOMAPOUT は、COBOL、FORTRAN、および ASM プロシージャおよびエントリーにのみ有効である。

---

**IBM1345I E** Initial level number in a structure is not 1.

説明: レベル 1 の DECLARE ステートメントが欠落している可能性がある。

```
dc1
```

```
2 a,  
3 b,  
3 c,
```

---

**IBM1346I E** INIT expression should be enclosed in parentheses.

説明: これは、あいまいさを避けるために必要である。例えば、すべてのエレメントを値 4 を用いて初期化するのか、最初のエレメントだけを値 9 を用いて初期化するのかが不明瞭になる。

```
dc1 a(5) fixed bin init( (5)+4 );
```

---

**IBM1347I E** B assumed to complete iSUB.

説明: 形式 1su の言語エレメントがない。

```
dc1 a(10) def b(1su, 1sub );
```

---

**IBM1348I E** Digit in BINARY constant is not zero or one.

説明: BINARY 定数では、個々の桁の数字は 0 または 1 でなければならない。

---

**IBM1349I E** Characters in BIT literals must be 0 or 1.

説明: BIT リテラルでは、各文字は 0 または 1 でなければならない。

---

**IBM1350I E** Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It will be ignored.

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではない。これは、NOT 記号または OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、それらの記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT および OR コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM1351I E** Characters in hex literals must be 0-9 or A-F.

説明: 16 進数リテラルでは、各文字は 0 から 9 または A から F のいずれかでなければならない。

---

**IBM1352I E** The statement element *character* is invalid. The statement will be ignored.

説明: 指定されているエレメントが無効なため、入力したステートメントは解析できなかった。

---

**IBM1353I E** Use of underscore as initial character in an identifier accepted although invalid under LANTLR(SAA).

説明: LANTLR(SAA) のもとでは、ID は英字または特別言語文字で開始されなければならない。この場合、ID は下線で始まっていてはならない。

LANTLR(SAA2) のもとでは、ID は下線で始まってもよいが、\_IBM で始まる名前は IBM で使用するために予約されている。

---

**IBM1354I E** Multiple argument lists are valid only with the last identifier in a reference.

説明: 形式 x(1)(2).y.z の参照が無効である。

---

**IBM1355I E** Empty argument lists are valid only with the last identifier in a reference.

説明: 形式 x().y.z の参照が無効である。

---

**IBM1356I E** Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be an OR symbol.

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではなく、直後に同じ文字が続いていた。これは、OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。OR コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM1357I E** Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be a NOT symbol.

説明: 示されている文字は PL/I 文字セットの一部ではなく、直後に =、<、または > 記号が続いていた。これは、NOT 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM1358I E** The scale factor specified in *BUILTIN name* built-in with a floating-point argument must be positive. It will be changed to 1.

説明: これは ROUND 組み込み関数に適用される。正の値以外の値は 1 に変更される。

```
dc1 x float bin(53);  
x = round( x, -1 );
```

---

**IBM1359I E** Names in *RANGE( identifier : identifier )* are not in ascending order. Order is reversed.

説明: 名前は昇順に指定しなければならない。

```
default range( h : a ) fixed bin;
```

---

**IBM1360I E** The name *identifier* has already been defined as a **FORMAT** constant.

説明: FORMAT 定数の名前を、LABEL 定数の名前としても使用することはできない。

```
f(1): format( a, x(2), a );  
f(2): ;
```

---

**IBM1361I E** The name *identifier* has already been defined as a **LABEL** constant.

説明: LABEL 定数の名前を、FORMAT 定数の名前としても使用することはできない。

```
f(1): ;  
f(2): format( a, x(2), a );
```

---

**IBM1362I E** The label *label-name* has already been declared. The explicit declaration of the label will not be accepted.

説明: ラベル定数配列用の宣言は許されない。

```
dc1 a(10) label variable;
```

```
a(1): ...
a(2): ...
```

---

**IBM1363I E Structure level greater than 255 specified. It will be replaced by 255.**

説明: サポートされる最大構造体レベルは 255 である。

```
dc1
  1 a,
    256 b,
    2 c,
```

---

**IBM1364I E Elements with level numbers greater than 1 follow an element without a level number. A level number of 1 is assumed.**

説明: 構造体レベルが欠落している可能性がある。

```
dc1
  a,
  2 b,
  2 c,
```

---

**IBM1365I E Statement type resolution requires too many lexical units to be examined. The statement will be ignored.**

説明: ステートメントが割り当てであるか別の PL/I ステートメントであるかを判別するには、そのステートメントの多くのエレメントを調べる必要がある。検査するエレメントの数が多すぎると、コンパイラーはそのステートメントにエラーのフラグを立てる。例えば、次のステートメントは、レクサー (lexer: 字句解析プログラム) が等号を検出するまでは DECLARE と見なされる。

```
dc1 ( a, b, c ) = d;
```

---

**IBM1366I E Level number following LIKE specification is greater than the level number for the LIKE specification. LIKE attribute will be ignored.**

説明: LIKE は、親の構造体または共用体では指定できない。

```
dc1
  1 a like x,
  2 b,
  2 c,
```

---

**IBM1367I E Statements inside a SELECT must be preceded by a WHEN or an OTHERWISE clause.**

説明: WHEN または OTHERWISE が欠落している可能性がある。

```
select;
  i = i + 1;
  when ( a > 0 )
  ...
```

---

**IBM1368I E The attribute *character* is invalid if it is not followed by an element with a greater logical level.**

説明: 示されている属性は、親構造体でのみ有効である。

```
dc1
  1 a,
  2 b union,
  2 c1 fixed bin(31),
  2 c2 float bin(21),
  ...
```

---

**IBM1369I E MAIN has already been specified in the PACKAGE.**

説明: OPTIONS(MAIN) は、PACKAGE 内の 1 つの PROCEDURE にしか指定できない。最初の指定以外はすべて無視される。

---

**IBM1370I E Extent expression is negative. It will be replaced by the constant 1.**

説明: エクステンツは正の値でなければならない。

```
dc1 x char(-10);
```

---

**IBM1371I E Structure element *identifier* is not dot qualified.**

説明: オプション RULES(NOLAXQUAL) のもとでは、すべての構造体エレメントは、1 つ以上の親の名前で修飾する必要がある。

---

**IBM1372I E EXTERNAL specified on internal entry point.**

説明: EXTERNAL 属性が有効なのは、外部プロシージャおよび外部エントリーの場合のみである。例えば、パッケージ以外の場合は最外部のプロシージャおよびその中に含まれているエントリー・ステートメントのみ、パッケージの場合は PACKAGE ステートメントの EXPORTS 文節にリストされているプロシージャおよびエントリーのみで、有効である。

```
a: proc;  
  b: proc ext('B');
```

---

**IBM1373I E Variable *variable name* is implicitly declared.**

説明: RULES(NOLAXDCL) オプションのもとでは、組み込み関数 SYSPRINT および SYSIN のコンテキスト宣言の場合を除き、すべての変数を宣言する必要がある。

---

**IBM1374I E Contextual attributes conflicting with PARAMETER will not be applied to *variable name*.**

説明: パラメーターに適用できるコンテキスト属性のみが適用される。例えば、CONSTANT および EXTERNAL は、ファイルのコンテキスト宣言に適用されるが、ファイルのパラメーターには適用されない。

```
a: proc( f );  
  
  open file( f );
```

---

**IBM1375I E The DEFINED variable *variable name* does not fit into its base variable.**

説明: DEFINED 変数に必要なビット、文字、またはグラフィックスの数は、ベースの変数内のビット、文字、またはグラフィックスの数を超えてはならない。

```
dc1 a char(10);  
  
dc1 b char(5) defined ( a ) pos( 8 );
```

---

**IBM1376I E Factoring of level numbers into declaration lists containing level numbers is invalid. The level numbers in the declaration list will be ignored.**

説明: 宣言リストに因数として組み込めるのは属性だけである。

```
dc1 1 a, 2 ( b, 3 c, 3 d ) fixed;
```

---

**IBM1377I E A scale factor has been specified as an argument to the *BUILTIN name* built-in, but the result of that function has type FLOAT. The scale factor will be ignored.**

説明: スケール因数は FIXED 値の場合にのみ有効である。

```
x = binary(1e0,4,2);
```

---

**IBM1378I E An arguments list or subscripts list has been provided for a GENERIC entry reference. It will be ignored.**

説明: GENERIC エントリー参照には、引数や添え字リストを含めることはできない。

```
dc1 t generic( sub1(10) when((*)),  
               sub2      when((*,*)) );
```

---

**IBM1379I E Locator qualifier for GENERIC reference is ignored.**

説明: GENERIC 参照はロケーターで修飾できない。

```
dc1 x generic ( ... );  
  
call p->x;
```

---

**IBM1380I E Target structure in assignment contains no elements with the ASSIGNABLE attribute. No assignments will be generated.**

説明: 構造体への割り当てを行うには、その構造体のエレメントが、割り当て可能な属性を備えていなければならない。

```
dc1
  1 a based,
  2 nonasgn fixed bin,
  2 nonasgn fixed bin;

p->a = 0;
```

---

**IBM1381I E DEFINED base for a BIT structure should be aligned.**

説明: バイト境界で位置合わせされていない変数に BIT 構造体 (または共用体) を定義すると、予想外の結果が生じることがある。特に、DEFINED 変数の副構造体が別のルーチンに渡された場合は、結果は予測できない。

---

**IBM1382I E INITIAL attribute is invalid for STATIC FORMAT variables. Storage class is changed to AUTOMATIC.**

説明: FORMAT 変数は、ブロック活動化情報を必要とするため、コンパイル時には初期化できない。変数が構造体のメンバーの場合は、ストレージ・クラスは AUTOMATIC に変更されず、代わりに重大メッセージが出される。

---

**IBM1383I E Labels on keyword statements are invalid and ignored.**

説明: DECLARE、DEFAULT、DEFINE の各ステートメント、WHEN 文節、OTHERWISE 文節には、ラベルを指定できない。

---

**IBM1384I E message**

説明: このメッセージは、バックエンド・エラー・メッセージを報告するために使用される。

---

**IBM1385I E Invalid DEFINED - string overlay defining attempted.**

説明: DEFINED 属性のベース変数は、DEFINED 変数と同じストリング型の UNALIGNED、NONVARYING ストリング変数で構成されていなければならない。

---

**IBM1386I E DEFINED base for a BIT variable should not be subscripted.**

説明: 2 番目の変数 (ベース) でビット変数を定義する場合、ベースは配列であってもよいが、添え字を付けてはならない。

```
dc1 a(20) bit(8) unaligned;
dc1 b bit(8) defined( a(3) );
```

---

**IBM1387I E The NODESCRIPTOR attribute is invalid when any parameters have \* extents. The NODESCRIPTOR attribute will be ignored.**

説明: パラメーターに \* エクステントを指定できるのは、記述子も一緒に渡す場合だけである。NODESCRIPTOR 属性は無視され、記述子はすべての配列、構造体、およびストリング引数について渡されたものと想定される。

```
a: proc( x ) options(nodescriptor);

dc1 x char(*);
```

---

**IBM1388I E The NODESCRIPTOR attribute is invalid when any parameters have the NONCONNECTED attribute.**

説明: パラメーターに NONCONNECTED 属性を指定できるのは、記述子も一緒に渡す場合だけである。

```
a: proc( x ) options(nodescriptor);

dc1 x(20) fixed bin nonconnected;
```

---

**IBM1389I E The identifier identifier is not the name of a built-in function. The BUILTIN attribute will be ignored.**

説明: BUILTIN 属性は、組み込み関数または組み込みサブルーチンの名前である ID にのみ適用できる。

---

**IBM1390I E note**

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 8 と共に使用される。



---

**IBM1391I E End-of-source has been encountered after an unmatched comment marker.**

説明: コメント終了マークが欠落している可能性がある。

---

**IBM1392I E End-of-source has been encountered after an unmatched quote.**

説明: 右引用符が欠落している可能性がある。

---

**IBM1393I E Item in OPTIONS list conflicts with other attributes in the declaration.**  
*option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは無効である。

```
dcl a file options( assembler );
```

---

**IBM1394I E Item in OPTIONS list is invalid for BEGIN blocks.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、BEGIN ブロックには無効である (PROCEDURE の場合には有効であることもある)。

```
begin options( assembler );
```

---

**IBM1395I E Item in OPTIONS list is invalid for PACKAGES.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、PACKAGE には無効である (PROCEDURE の場合には有効であることもある)。

```
a: package exports(*) options( assembler );
```

---

**IBM1396I E Item in OPTIONS list is invalid for PROCEDURES.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、PROCEDURE には無効である (ENTRY の場合には有効であることもある)。

```
a: procedure options( inter );
```

---

**IBM1397I E Item in OPTIONS list is invalid for nested PROCEDURES.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、ネストされた PROCEDURE には無効である (ネストされていない PROCEDURE には有効であることもある)。

```
a: proc;  
b: proc options( main );
```

---

**IBM1398I E Invalid item in OPTIONS list.**  
*option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、ステートメントまたは宣言でサポートされるオプションではない。

```
a: proc options( unknown );
```

---

**IBM1399I E Item in OPTIONS list is invalid for ENTRY statements.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リスト内の示されているエレメントは、ENTRY ステートメントには無効である (PROCEDURE には有効であることもある)。

```
a: entry options( chargraphic );
```

---

**IBM1400I E Item in OPTIONS list conflicts with preceding items.** *option-name is ignored.*

説明: オプション・リストのエレメントには整合性がなければならない。次の例の場合は、BYVALUE と BYADDR が矛盾しているため、整合性がない。

```
a: proc options( byvalue byaddr );
```

---

**IBM1401I E Parameter attributes have been specified for a variable that is not a parameter.**  
**The parameter attributes are ignored.**

説明: パラメーター属性 (BYVALUE または CONNECTED など) は、パラメーターの場合にのみ指定できる。



```
a: proc;  
  dcl x byvalue ptr;
```

---

**IBM1402I E Constant in POSITION attribute is less than 1.**

説明: POSITION 属性には正の値を指定しなければならない。

```
dcl a def b pos(-10);
```

---

**IBM1403I E The end of the source was reached before the logical end of the program. Null statements and END statements will be inserted as necessary to complete the program.**

説明: ソースには、すべての PACKAGE、PROCEDURE、BEGIN ブロック、DO グループ、および SELECT ステートメント用の END ステートメントと、すべての IF-THEN 文節および ELSE 文節用のステートメントが含まれていなければならない。

---

**IBM1404I E The procedure name *proc-name* has already been declared. The explicit declaration of the procedure name will not be accepted.**

説明: 内部プロシージャー用の宣言は許されない。

```
a: proc;  
  dcl b entry options(byvalue);  
  b: proc;
```

---

**IBM1405I E Only one description is allowed in a returns descriptor.**

説明: 1 つの関数からは 1 つの値しか戻せない。

```
dcl b entry returns( ptr, ptr );
```

---

**IBM1406I E The product of the repetition factor *repetition-factor* and the length of the constant *string* to which it is applied is greater than the maximum length allowed for a constant. The repetition**

**factor will be ignored.**

説明: 別のストリングに適用される反復因数が表すストリングは、反復因数のないストリングに適用されるものと同じ制限に従っていなければならない。

```
a = (32767) 'abc';
```

---

**IBM1407I E Scale factor is bigger than 127. It will be replaced by 127.**

説明: スケール因数は、-128 から 127 (両端の値を含む) の範囲内の値でなければならない。

---

**IBM1408I E Scale factor is less than -128. It will be replaced by -128.**

説明: スケール因数は、-128 から 127 (両端の値を含む) の範囲内の値でなければならない。

---

**IBM1409I E A SELECT statement may be missing. A SELECT statement, without an expression, will be inserted.**

説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節が SELECT ステートメントの外で見つかった。

---

**IBM1410I E Semicolon inserted after ELSE keyword.**

説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ELSE のあとに必要なステートメントの前にある。

```
do;  
  if a > b then  
    ...  
  else  
    end;
```

---

**IBM1411I E Semicolon inserted after ON clause.**

説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ON 条件のあとに必要なステートメントの前にある。

```
do;  
  ...  
  on zdiv  
  end;
```

---

**IBM1412I E Semicolon inserted after OTHERWISE keyword.**

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM1413I E Semicolon inserted after THEN keyword.**

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM1414I E Semicolon inserted after WHEN clause.**

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM1415I E Source file does not end with the logical end of the program.**

説明: ソース・ファイルには、最初の PACKAGE または PROCEDURE をクローズしている END ステートメントのあとに、ステートメントが含まれている。これらのステートメントは無視されるが、その存在がプログラミング・エラーを示す場合もある。

---

**IBM1416I E Subscripts have been specified for the variable *variable name*, but it is not an array variable.**

説明: 添え字を指定できるのは、配列のエレメントの場合だけである。

---

**IBM1417I E Second argument in SUBSTR reference is less than 1. It will be replaced by 1.**

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM1418I E Second argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.**

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM1419I E Third argument in SUBSTR reference is less than 0. It will be replaced by 0.**

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM1420I E The factor in *K/M constant* is too large and is replaced by *maximum factor*.**

説明: 最大 K 定数は 2097151K で、最大 M 定数は 2047M である。

---

**IBM1421I E More than 15 dimensions have been specified. Excess will be ignored.**

説明: 変数の最大許容次元数は、すべての継承次元も含めて、15 である。

---

**IBM1422I E Maximum of 500 LIKE attributes per block exceeded.**

説明: 1 ブロックに入れる LIKE 参照は 500 個以下でなければならない。LANGLVL(SAA2) では制限はない。

---

**IBM1423I E UNALIGNED attribute conflicts with AREA attribute.**

説明: すべての AREA 変数は ALIGNED でなければならない。

---

**IBM1424I E End of comment marker found when there are no open comments. Marker will be ignored.**

説明: コメント開始マークがないのに、\*/ が見つかった。

---

**IBM1425I E There is no compiler directive *directive*. Input up to the next semicolon will be ignored.**

説明: サポートされるコンパイラ指示のリストについては、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM1426I E Structure level of 0 replaced by 1.**

説明: 構造体レベル番号は正の値でなければならない。

---

**IBM1427I E Numeric precision of 0 replaced by 1.**

説明: 数値精度は正の値でなければならない。

---

**IBM1428I E X literals should contain a multiple of 2 hex digits.**

説明: X リテラルには、奇数の桁数が含まれていてはならない。

---

---

**IBM1429I E INITIAL attribute for REFER object  
variable name is invalid.**

説明: DCL 1 a BASED, 2 b FIXED BIN INIT(3), 2 c( n REFER(b)) では、'b' についての INITIAL 文節は無効であり、無視される。

---

**IBM1430I E UNSIGNED attribute for type type type  
type name conflicts with negative  
INITIAL values and is ignored.**

説明: ORDINAL 型を UNSIGNED 属性と共に宣言した場合は、指定する INITIAL 値は負でない値でなければならない。

---

**IBM1431I E PRECISION specified for type type type  
type name is too small to cover its  
INITIAL values and is adjusted to fit.**

説明: ORDINAL 型には、それについて定義された値の範囲をカバーできる大きさの精度を指定しなければならない。

```
define ordinal
  colors
    ( red      init(0),
      orange   init(256)
      yellow   init(512) ) unsigned prec(8);
```

---

**IBM1432I E The type type type type name is already  
defined. The redefinition is ignored.**

説明: ORDINAL 型は、1 つのブロック内で一度しか指定できない。

---

**IBM1433I E The name name occurs more than once  
in the RESERVES clause.**

説明: package ステートメントの RESERVES 文節内では、名前は固有でなければならない。

```
a: package reserves( a1, a2, a1 );
```

---

**IBM1434I E The name name occurs in the  
RESERVES clause, but is not the name  
of any level-1 STATIC EXTERNAL  
variable.**

説明: package ステートメントの RESERVES 文節内では、個々の名前はそのパッケージ内のレベル 1 の静的外部変数の名前でなければならない。

```
a: package reserves( a1, a2, a3 );
```

---

**IBM1435I E A precision value less than 1 has been  
specified as an argument to the BUILTIN  
name built-in. It will be replaced by 15.**

説明: 精度値は正の値でなければならない。

```
middle = divide( todo, 2, 0 );
```

---

**IBM1436I E The scale factor specified as an  
argument to the BUILTIN name built-in  
is out of the valid range. It will be  
replaced by the nearest valid value.**

説明: スケール因数は、-128 から 127 (両端の値を含む) の範囲内の値でなければならない。

```
f = fixed( i, 15, 130 );
```

---

**IBM1437I E The second argument to the BUILTIN  
name built-in is greater than the  
maximum FIXED BINARY precision. It  
will be replaced by the maximum value.**

説明: サポートされる FIXED BINARY 最大許容精度は LIMITS オプションの FIXEDBIN サブオプションにより決まる。

```
i = signed( n, 63 );
```

---

**IBM1438I E Excess arguments for ENTRY ENTRY  
name ignored.**

説明: ENTRY 参照の中に指定された引数の数が、その ENTRY の宣言でパラメーターとして定義されている数より多い。

```
dcl e entry( fixed bin );
call e( 1, 2 );
```

---

**IBM1439I E Excess arguments for *BUILTIN name* built-in ignored.**

説明: 示されている組み込み関数には、その組み込み関数でサポートされる数より多い数の引数が指定されている。

```
i = acos( j, k );
```

---

**IBM1441I E ENTRY/RETURNS description lists for comparands do not match.**

説明: 2 つの ENTRY 変数または定数の比較では、ENTRY 記述リストと RETURNS 記述リストが一致していなければならない。リンケージも一致する必要がある。

```
dc1 e1 entry( fixed ), e2 entry( float );  
  
if e1 = e2 then
```

---

**IBM1442I E The ENTRY/RETURNS description lists in the ENTRY to be assigned to *target variable* do not match those of the target variable.**

説明: ENTRY 変数または定数の割り当てでは、ソース用の ENTRY および RETURNS 記述リストが、ターゲット用のそれらの記述リストに一致していなければならない。リンケージも一致する必要がある。

```
dc1 e1 variable entry( fixed ),  
    e2 entry( float );  
  
e1 = e2;
```

---

**IBM1443I E An ENTRY/RETURNS description list in an ENTRY in the INITIAL list for *target variable* do not match those of the target variable.**

説明: ENTRY 変数または定数の初期化では、ソース用の ENTRY および RETURNS 記述リストが、ターゲット用の同様の記述リストに一致していなければならない。リンケージも一致する必要がある。

```
dc1 e1 variable entry( fixed );  
dc1 e2 variable entry( float ) init( e1 );
```

---

**IBM1444I E The ENTRY/RETURNS description lists in the RETURN statement do not match those in the corresponding RETURNS attribute**

説明: 関数が ENTRY 変数または定数を戻す場合は、戻される ENTRY 参照の中の ENTRY および RETURNS 記述リストが、収容プロシーチャーの RETURNS オプション内の同様の記述リストに一致していなければならない。リンケージも一致する必要がある。

```
a: proc returns( entry( float ) );  
  
    dc1 e1 entry( fixed );  
  
    return( e1 );
```

---

**IBM1445I E The ENTRY/RETURNS description lists for argument number *argument-number* in entry reference *entry name* do not match those in the corresponding parameter.**

説明: このメッセージは、リンケージが一致しない場合に表示される。

```
dc1 a entry( entry( float ) );  
  
dc1 e1 entry( fixed );  
  
call a( e1 );
```

---

**IBM1446I E Third argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.**

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM1447I E Literals with an X prefix are valid only in EXEC SQL statements.**

説明: PL/I ステートメントでは、16 進数リテラルは X 接尾部を用いて指定する必要がある。

---

**IBM1448I E Use of nonconstant extents in BASED variables without REFER accepted although invalid under LONGLVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語定義では、BASED 変数内のエクステントは、REFER オプションを使用する場合以外はすべて定数でなければならない。次に示すのは、無効な例である。

```
dc1 x based char(n);
```

---

**IBM1449I E Use of type function accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: 型関数は SAA レベル 1 言語の一部ではない。

---

**IBM1450I E keyword keyword accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: 示されているキーワード (下記の例では UNSIGNED) は、SAA レベル 1 言語に定義されていない。

```
dc1 x fixed bin unsigned;
```

---

**IBM1451I E Use of S, D and Q constants accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義に、S、D、および Q 浮動小数点定数が含まれていない。

---

**IBM1452I E Use of underscores in constants accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、数値定数および 16 進定数の中で下線を使用することは許されない。

---

**IBM1453I E Use of asterisks for names in declares accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、構造体エレメント名にアスタリスクを使用することは許されない。

---

**IBM1454I E Use of XN and XU constants accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義には、XN 定数および XU 定数が含まれていない。

---

**IBM1455I E Use of arguments with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: LANTLRVL(SAA) のもとでは、DATETIME 組み込み関数は引数をとることはできない。

```
s = datetime('DDMMYYYY');
```

---

**IBM1456I E Use of 3 arguments with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: LANTLRVL(SAA) のもとでは、VERIFY および INDEX 組み込み関数は、引数を 2 個だけとるものと見なされる。

```
i = verify( s, j, k );
```

---

**IBM1457I E Use of 1 argument with BUILTIN name built-in accepted although invalid under LANTLRVL(SAA).**

説明: LANTLRVL(SAA) のもとでは、DIM、LBOUND、および HBOUND 組み込み関数は 2 個の引数をとるものと見なされる。

```
i = dim( a );
```

---

**IBM1458I E GOTO is not allowed under RULES(NOGOTO).**

説明: RULES(NOGOTO) のもとでは、ソース・プログラムの中に GOTO ステートメントがあってはならない。

---

**IBM1459I E Uninitialized AUTOMATIC variables in a block should not be used in the prologue of that block.**

説明: ブロック内の AUTOMATIC 変数は、含まれている任意のブロックの宣言ステートメントおよび実行可能ステートメントの中で使用できるが、その変数を宣言するブロックの中では、実行可能ステートメントの中でしか使用できない。

```
dc1 x fixed bin(15) automatic;  
dc1 y(x) fixed bin(15) automatic;
```

---

**IBM1460I E Under RULES(ANS), nonzero scale factors are not permitted in declarations of FIXED BIN. Declared scale factor will be ignored.**

説明: RULES(IBM) ではスケールされた FIXED BIN は許されるが、RULES(ANS) でそれがサポートされるのは FIXED DECIMAL の場合だけである。

RULES(ANS) では、次の宣言のスケール因数は無視される。

```
dc1 x fixed bin(31,16);
dc1 y entry( fixed bin(31,16) );
```

---

**IBM1461I E Under RULES(ANS), nonzero scale factors are not permitted when the result of *BUILTIN* name has the attributes FIXED BIN. Specified scale factor will be ignored.**

説明: RULES(IBM) ではスケールされた FIXED BIN は許されるが、RULES(ANS) でそれがサポートされるのは FIXED DECIMAL の場合だけである。

RULES(ANS) では、次の組み込み関数のスケール因数は無視される。

```
dc1 (x,y) fixed bin(15,0);
put list( add(x,y,31,2) );
put list( bin(x,31,2) );
put list( prec(x,31,2) );
```

---

**IBM1462I E Expression in comparison interpreted with DATE attribute.**

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンとして有効な値を取り得る式であれば、日付の被比較数と同じ DATE 属性を持っているものと見なされる。

---

**IBM1463I E Operand with DATE attribute is invalid except in compare or assign. DATE attribute will be ignored.**

説明: 比較は、DATE 属性を持つオペランドを使用できる唯一の 2 項演算である。そのようなオペランドを他の演算で使用すると、DATE 属性は無視される。したがって、次のコードでは、加算にフラグが立てられ、DATE 属性は無視される。

```
dc1 x char(5) date('YYDDD');
put list( x + 1 );
```

---

**IBM1464I E DATE attribute ignored in comparison with non-date expression.**

説明: 比較では、片方の被比較数の属性が DATE であれば、もう一方も同じ属性でなければならない。日付でない方が日付パターンに無効な値をとれない式であれば、DATE 属性は無視される。

---

**IBM1465I E Source in assignment has the DATE attribute, but target variable does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 割り当ての中のターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならない。ターゲットが疑似変数の場合は、代わりにメッセージ 1466 が出される。

```
dc1 x char(6);
x = date();
```

---

**IBM1466I E Source in assignment has the DATE attribute, but target does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 割り当ての中のソースの属性が DATE であれば、ターゲットも同じ属性でなければならない。

---

**IBM1467I E Source in INITIAL clause for variable name has the DATE attribute but the target does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: INITIAL 式の属性が DATE であれば、ターゲットも同じ属性でなければならない。

---

**IBM1468I E Argument number *argument-number* in entry reference *entry name* has the DATE attribute but the corresponding parameter does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 引数とパラメーターは一致しなければならない。次に示すのは、一致していない例である。

```
dc1 x entry( char(6) );
call x( date() );
```



---

**IBM1469I E Source in RETURN statement has the DATE attribute, but the corresponding RETURNS option does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: RETURN で戻される式の属性と RETURNS オプションの属性は一致しなければならない。次に示すのは、一致していない例である。

```
x: proc returns( char(6) );  
    ...  
    return( date() );
```

---

**IBM1470I E An ID option must be specified for the INCLUDE preprocessor.**

説明: INCLUDE プリプロセッサには他のオプションはすべて無効である。

---

**IBM1471I E The ID option specified for the INCLUDE preprocessor is invalid.**

説明: INCLUDE プリプロセッサ ID オプションには、INCLUDE ディレクティブを指定したストリングから成るサブオプションが 1 つ必要である。

---

**IBM1472I E A closing right parenthesis is missing from the ID option specified for the INCLUDE preprocessor.**

説明: INCLUDE プリプロセッサ ID オプションは、右括弧で閉じる必要がある。

---

**IBM1473I E The syntax of the preprocessor INCLUDE directive is incorrect.**

説明: プリプロセッサの ID オプションの中で指定されたプリプロセッサ INCLUDE ディレクティブで始まるステートメントの後には名前を指定する必要がある。名前の後のセミコロンはオプションである。

---

**IBM1474I E Source in assignment does not have the DATE attribute, but target variable does. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 割り当ての中のターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならない。ターゲットが疑似変数の場合は、代わりにメッセージ 1475 が出される。

```
dc1 x char(6) date('YYMMDD');  
x = '';
```

---

**IBM1475I E Target in assignment has the DATE attribute, but source does not. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 割り当ての中のターゲットの属性が DATE であれば、ソースも同じ属性でなければならない。

---

**IBM1476I E Source in INITIAL clause for variable name does not have the DATE attribute but the target does. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 変数の属性が DATE であれば、その変数の INITIAL 値もすべて同じ属性でなければならない。

---

**IBM1477I E Argument number *argument-number* in entry reference *entry name* does not have the DATE attribute but the corresponding parameter does. The DATE attribute will be ignored.**

説明: 引数とパラメーターは一致しなければならない。次に示すのは、一致していない例である。

```
dc1 x entry( char(6) date('YYMMDD') );  
call x( '' );
```

---

**IBM1478I E Source in RETURN statement does not have the DATE attribute, but the corresponding RETURNS option does. The DATE attribute will be ignored.**

説明: RETURN で戻される式の属性と RETURNS オプションの属性は一致しなければならない。次に示すのは、一致していない例である。

```
x: proc returns( char(6) date('YYMMDD') );  
    ...  
    return( '' );
```

---

**IBM1480I E Multiple closure of groups is not allowed under RULES(NOMULTICLOSE).**

説明: RULES(NOMULTICLOSE)のもとでは、ソース・プログラムの中に複数のグループ閉止があってはならない。



---

**IBM1481I E BYNAME assignment statements are not allowed under RULES(NOBYNAME).**

説明: RULES(NOBYNAME) のもとでは、ソース・プログラムの中に BYNAME 代入ステートメントがあってはならない。

---

**IBM1482I E The variable *variable name* is declared without any data attributes.**

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、括弧が欠落している可能性がある。RULES(LAXDCL) のもとでは、これは W-レベル・メッセージである。

```
dc1 a, b fixed bin;
```

---

**IBM1483I E The structure member *variable name* is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.**

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d のレベル番号はおそらく 3 が正しい。RULES(LAXDCL) のもとでは、これは W-レベル・メッセージである。

```
dc1 a, b fixed bin;
  1 a,
  2 b,
    2 c,
    2 d;
```

---

**IBM1484I E An unnamed structure member is declared without any data attributes. A level number may be incorrect.**

説明: デフォルトの属性が与えられるが、宣言にエラーがある場合もある。例えば次の例では、c および d のレベル番号はおそらく 3 が正しい。RULES(LAXDCL) のもとでは、これは W-レベル・メッセージである。

```
dc1 a, b fixed bin;
  1 a,
  2 *,
    2 c,
    2 d;
```

---

**IBM2400I E Compiler backend issued error messages to STDOUT.**

説明: STDOUT を参照して、コンパイラー・バックエンドによって発行されたメッセージを調べること。

---

**IBM2401I E Missing character assumed before character.DECLARE and other nonexecutable statements should not have labels.**

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。RULES(LAXPUNC) のもとでは、テキストは同じだが重大度の低いメッセージが出される。

```
xx: dc1 test fixed bin;
```

---

**IBM2402I E *variable name* is declared as BASED on the ADDR of *variable name*, but *variable name* requires more storage than *variable name*.**

説明: BASED 変数に必要なストレージの量は、その基本となる変数が提供する量を超えないものでなければならない。

```
dc1 a char(10);
dc1 b char(5) based(addr(a));
```

---

**IBM2403I E PROCESS statements are not permitted under the NOPROCESS option.**

説明: NOPROCESS オプションが有効な場合、ソースに PROCESS ステートメントが含まれていてはならない。

---

**IBM2404I E *variable name* is declared as BASED on the ADDR of *variable name*, but *variable name* requires more storage than remains in the enclosing level 1 structure *variable name* after the location of *variable name*.**

説明: BASED 変数に必要なストレージの量は、その基本となる変数が提供する量を超えないものでなければならない。

```

dcl 1 a, 2 a1 char(10), 2 a2 char(10);

dcl b char(15) based(addr(a2));

```

---

**IBM2405I E Even decimal precisions are not allowed under RULES(NOEVENDEC).**

**説明:** RULES(NOEVENDEC) を指定した場合、偶数精度を指定して宣言された FIXED DECIMAL データがあってはならない。

```

dcl a fixed dec(10);

```

---

**IBM2406I E Precision outside VALUE clause will be ignored.**

**説明:** DEFAULT ステートメントでは、数値精度は VALUE 文節内にも指定する必要がある。

```

dft range(*) fixed bin(31);

```

---

**IBM2407I E Length outside VALUE clause will be ignored.**

**説明:** DEFAULT ステートメントでは、ストリングの長さは VALUE 文節内にも指定する必要がある。

```

dft range(*) bit(8);

```

---

**IBM2408I E AREA size outside VALUE clause will be ignored.**

**説明:** DEFAULT ステートメントでは、AREA のサイズは VALUE 文節内にも指定する必要がある。

```

dft range(*) area(10000);

```

---

**IBM2409I E RETURN statement without an expression is invalid inside a subprocedure that specified the RETURNS attribute.**

**説明:** 関数内のすべての RETURN ステートメントには、戻される値を指定しなければならない。

```

a: proc returns( fixed bin );

return;

```

---

**IBM2410I E Function *function name* contains no valid RETURN statement.**

**説明:** 関数には RETURN ステートメントが少なくとも 1 つは含まれていなければならない。

---

**IBM2411I E STRINGOFGRAPHIC( CHARACTER ) option is ignored because argument to STRING built-in function is possibly not contiguous.**

**説明:** 引数に VARYING であるエレメントが含まれているか、または引数が配列の NONCONNECTED スライスである場合、STRINGOFGRAPHIC( CHARACTER ) オプションは無視される。

---

**IBM2412I E Procedure has no RETURNS attribute, but contains a RETURN statement. A RETURNS attribute will be assumed.**

**説明:** プロシージャに RETURN ステートメントが含まれている場合は、PROCEDURE ステートメントに RETURNS 属性を指定する必要がある。

```

a: proc;
  return( 0 );
end;

```

---

**IBM2413I E The attribute *attribute* should be specified only on parameters and descriptors.**

**説明:** 属性は整合性のあるものでなければならない。

```

dcl a fixed based connected;

```

---

**IBM2414I E The *option* option conflicts with the *option* option. The IBM default of *option* will be used instead.**

**説明:** 指定されたオプションは競合しており、一緒には使用できない。ASCII システムでは、GRAPHIC および EBCDIC オプションを指定した場合に、コンパイラはこのメッセージを生成する。一方、EBCDIC システムでは、GRAPHIC および ASCII オプションを指定した場合に、コンパイラはこのメッセージを生成する。

---

**IBM2415I E Without APAR *number*, compiler would generate incorrect code for this statement.**

説明: 示されている APAR により、このステートメントでのコンパイラー問題が修正される。

---

**IBM2416I E The SEPARATE suboption of TEST is not supported when the LINEDIR option is in effect.**

説明: LINEDIR オプションが有効のときは、TEST オプションの NOSEPARATE サブオプションだけがサポートされる。

---

**IBM2417I E In FETCHABLE code compiled with NORENT NOWRITABLE(PRV), it is invalid to ALLOCATE or FREE a CONTROLLED variable unless it is a PARAMETER.**

説明: FETCHABLE コードでは、すべての CONTROLLED 変数がパラメーターであることが必要。

---

**IBM2418I E Variable *variable* is unreferenced.**

説明: RULES(NOUNREF) において、参照されていないすべてのレベル 1 の AUTOMATIC 変数について、コンパイラーはこのメッセージを発行する。

---

**IBM2419I E HGPR is invalid and ignored unless the ARCH option is 5 or greater.**

説明: もし ARCH オプションが 5 より大きくない場合は、必要な命令は ARCH(5) 以降でのみ使用可能であるため、HGPR オプションは無視される。

---

**IBM2420I E DFP is invalid and ignored unless the ARCH option is 7 or greater.**

説明: もし ARCH オプションが 7 より大きくない場合は、必要な命令は ARCH(7) 以降でのみ使用可能であるため、FLOAT(DFP) オプションは無視される。

---

**IBM2421I E A file should not be closed in its ENDFILE block.**

説明: あるファイルに対する ENDFILE ブロックで、ENDFILE ブロック内でそのファイルを閉じるのは無効である。

---

**IBM2422I E Under the DFP option, the HEXADEC attribute is not supported for FLOAT DEC.**

説明: FLOAT(DFP) オプションを指定した場合、すべての FLOAT DECIMAL は DFP として処理され、HEXADEC として宣言されない可能性がある。属性は FLOAT BIN では有効である。

---

**IBM2423I E Under the DFP option, the IEEE attribute is not supported for FLOAT DEC.**

説明: FLOAT(DFP) オプションを指定した場合、すべての FLOAT DECIMAL は DFP として処理され、IEEE として宣言されない可能性がある。属性は FLOAT BIN では有効である。

---

**IBM2424I E Scale factors are not allowed in FLOAT declarations.**

説明: スケール係数は、FIXED BIN または FiXED DEC の宣言でのみ有効である。次の最初の宣言は無効で、その後の宣言のいずれかに変更する必要がある。

```
dc1 a1 float dec(15,2);
```

```
dc1 a2 fixed dec(15,2);  
dc1 a3 float dec(15);
```

---

**IBM2425I E Statement with ELSE IF should be rewritten using SELECT.**

説明: RULES(NOELSEIF) のもとでは、ELSE の直後に IF 文が続くステートメントについて、コンパイラーはこのメッセージを発行する。

---

**IBM2426I E Maximum nesting of DO statements has been exceeded.**

説明: DO 文のネストが、MAXNEST コンパイラー・オプションの DO サブオプションで指定された値を超えている。

---

**IBM2427I E Maximum nesting of IF statements has been exceeded.**

説明: IF 文のネストが、MAXNEST コンパイラー・オプションの IF サブオプションで指定された値を超えている。

---

**IBM2428I E Maximum nesting of PROC and BEGIN statements has been exceeded.**

説明: PROC および BEGIN ステートメントのネストが、MAXNEST コンパイラー・オプションの BLOCK サブオプションで指定された値を超えている。

---

**IBM2429I E CMPAT(V3) requires that 8-byte integers be allowed. The second value in the FIXEDBIN suboption of the LIMITS option will be set to 63.**

説明: LIMITS(FIXEDBIN(31,31)) を指定した CMPAT(V3) オプションの使用はサポートされていない。CMPAT(V3) によってさまざまな組み込み関数 (HBOUND など) が FIXED BIN(63) の結果を返すため、LIMITS の FIXEDBIN サブオプションの少なくとも 2 番目の値は 63 にする必要がある (つまり、LIMITS(FIXEDBIN(31,63)) または LIMITS(FIXEDBIN(63,63)) を有効にする必要がある)。

---

**IBM2430I E The LINESIZE value specified in the OPEN of file *file name* is not compatible with the RECSIZE specified in its declare.**

説明: ファイルが F フォーマットで、PRINT ファイルではない場合は、LINESIZE は RECSIZE 以下にする必要がある。ファイルが F フォーマットで、PRINT ファイルである場合は、LINESIZE は RECSIZE 未満にする必要がある。ファイルが V フォーマットで、PRINT ファイルではない場合は、LINESIZE は RECSIZE-4 以下にする必要がある。ファイルが V フォーマットで、PRINT ファイルである場合は、LINESIZE は RECSIZE-4 未満にする必要がある。

---

**IBM2431I E The *option* option conflicts with the GOFF option. NOGOFF will be used instead.**

説明: 指定されたオプションは、GOFF オプションでは使用できない。GOFF オプションはコンパイルを続行するためにオフになる。これは、例えば NOWRITABLE(PRV) オプションおよび COMMON オプションに適用される。

---

**IBM2432I E The attribute *character* is invalid with parameters and is ignored.**

説明: 例えば、INITIAL 属性は、パラメーターとともに使用すると無効である (ストレージが別の場所に割り振られているため)。

```
dcl a fixed bin parameter initial( 0 );
```

---

**IBM2433I E The attribute *character* is invalid with DEFINED and is ignored.**

説明: 例えば、INITIAL 属性は、DEFINED 変数とともに使用すると無効である (ストレージが別の場所に割り振られているため)。

```
dcl b char(1) initial( '' ) defined(a);
```

---

**IBM2434I E Under RULES(NOLAXENTRY), all ENTRY declares must specify a parenthesized parameter list, even if empty.**

説明: RULES(NOLAXENTRY) では、すべての ENTRY 宣言をプロトタイプ化する必要がある。ENTRY にパラメーターがない場合は、単に ENTRY としてではなく、ENTRY() として宣言する必要がある。

---

## 第 5 章 コンパイラー重大メッセージ (1500 から 2399)

---

**IBM1500I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has type *source type*, which is invalid for a parameter with type *target type*.

説明: 引数の型は、対応するパラメーターの型に変換できる型でなければならない。

---

**IBM1501I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has a different strong type than the corresponding parameter.

説明: パラメーターが強力に型付けされている場合、それに渡す引数も同じ型でなければならない。

---

**IBM1502I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has type *source type*, which is invalid for a parameter with type *target type*. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: 引数の型は、対応するパラメーターの型に変換できる型でなければならない。

---

**IBM1503I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has type *source type*, which is invalid for a parameter with type LIMITED ENTRY.

説明: LIMITED ENTRY パラメーターに渡すことができるのは、EXTERNAL ENTRY CONSTANT、ネストされていない PROCEDURE を表す ENTRY CONSTANT、または LIMITED 属性を持つ ENTRY VARIABLE だけである。

---

**IBM1504I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has type POINTER, which is invalid for an OFFSET parameter without an AREA qualifier.

説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

---

**IBM1505I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has type POINTER, which is invalid for a POINTER parameter since the OFFSET argument is not an OFFSET variable declared with an AREA qualifier.

説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換できる。

---

**IBM1506I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* has a different ORDINAL type than the corresponding parameter.

説明: ORDINAL は、異なる ORDINAL 型の他の ORDINAL に渡すことはできない。

---

**IBM1507I S** Arrays of label constants may not be passed as arguments.

説明: 配列を LABEL 変数の配列に割り当て、その配列を渡すことができる。

```
lx(1): ... ;  
lx(2): ... ;  
call x( lx );
```

---

**IBM1508I S** Too few arguments have been specified for the ENTRY *ENTRY name*.

説明: 引数の数は、ENTRY 宣言内のパラメーターの数に一致しなければならない。

---

**IBM1509I S** Argument to variable name pseudovalue must be ASSIGNABLE.

説明: 疑似変数を用いて行う割り当てのターゲットは、NONASSIGNABLE 属性を持っていてはならない。

```
dcl a static nonasgn char(7) init('example');  
unspec(a) = 'b';
```

---

**IBM1510I S** First argument to *variable name* pseudovariable must be ASSIGNABLE.

説明: 疑似変数を用いて行う割り当てのターゲットは、NONASSIGNABLE 属性を持っていてはならない。

```
dc1 a static nonasgn char(7) init('example');  
substr(a,1,2) = 'tr';
```

---

**IBM1511I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is an aggregate, but the parameter description specifies a scalar.

説明: スカラーを集合に変換することはできない。

```
dc1 a entry( fixed bin ), b(10) fixed bin;  
call a( b );
```

---

**IBM1512I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is a scalar, but the parameter description specifies an aggregate to which it cannot be passed.

説明: 非 AREA スカラーを非 CONTROLLED スカラー配列に渡す場合以外は、ダミー集合引数はサポートされておらず、配列には \* として指定された境界があってはならない。スカラーを集合に割り当て、その集合を渡すことはできる。

```
dc1 a entry( 1, 2 fixed bin, 2 fixed bin );  
call a( 0 );
```

---

**IBM1513I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is an aggregate that does not exactly match the corresponding parameter description.

説明: ダミー集合引数はサポートされていない。エンタリー記述に集合パラメーターが記述されている場合は、渡される引数はそのパラメーターの記述に一致していなければならない。

---

**IBM1514I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is an aggregate with more members than its corresponding parameter description.

説明: ダミー集合引数はサポートされていない。エンタリー記述に集合パラメーターが記述されている場合は、渡される引数はそのパラメーターの記述に一致していなければならない。

---

**IBM1515I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is an aggregate with fewer members than its corresponding parameter description.

説明: ダミー集合引数はサポートされていない。エンタリー記述に集合パラメーターが記述されている場合は、渡される引数はそのパラメーターの記述に一致していなければならない。

---

**IBM1516I S** The number of dimensions in the subelements of argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* and in its corresponding parameter description do not match.

説明: ダミー集合引数はサポートされていない。エンタリー記述に集合パラメーターが記述されている場合は、渡される引数はそのパラメーターの記述に一致していなければならない。

---

**IBM1517I S** The upper and lower bounds in the subelements of argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* and in its corresponding parameter description do not match.

説明: ダミー集合引数はサポートされていない。エンタリー記述に集合パラメーターが記述されている場合は、渡される引数はそのパラメーターの記述に一致していなければならない。

---

**IBM1518I S** The number of dimensions for argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* and in its corresponding parameter description do not match.

説明: 配列の引数とパラメーターは、次元数が同じでなければならない。

```
dc1 a entry( (*,*) fixed bin ),
```



```
        b (10) fixed bin;  
  
call a( b );
```

---

**IBM1519I S The upper and lower bounds for argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* and in its corresponding parameter description do not match.**

説明: 配列の引数とパラメーターは、上限と下限がそれぞれ同じでなければならない。

```
dc1 a entry( (0:10) fixed bin ),  
        b (10) fixed bin;  
  
call a( b );
```

---

**IBM1520I S Charset 48 is not supported.**

説明: 文字セット 48 は現在ではもはやサポートされていない。ソース・コードは文字セット 60 に変換する必要がある。

---

**IBM1521I S Not enough virtual memory is available to continue the compile.**

説明: コンパイルには使用可能な量より多くの仮想メモリーが必要である。コンパイラー・オプション NOTEST、NOXREF、NOATTRIBUTES、NOAGGREGATE のうちの 1 つ以上を指定すると役立つことがある。

---

**IBM1522I S *variable* cannot be SET unless an IN clause is specified.**

説明: オフセット変数が AREA 参照なしで宣言されている場合は、IN 文節が AREA 参照を指定しない限り、そのオフセット変数を ALLOCATE ステートメントまたは LOCATE ステートメントに設定することはできない。

---

**IBM1523I S Argument to *BUILTIN name* built-in must be an AREA reference.**

説明: 組み込み関数 AVAILABLEAREA は AREA 用だけに定義される。

---

**IBM1524I S *BUILTIN name* (x) is undefined if ABS(x) > 1.**

説明: 式に、制限付きの式に適用される組み込み関数 ASIN または ACOS が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

---

**IBM1525I S ATANH(x) is undefined if x is REAL and ABS(x) >= 1.**

説明: 式に、制限付きの式に適用される組み込み関数 ATANH が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

---

**IBM1526I S Argument to *BUILTIN name* must have derived mode REAL.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数に COMPLEX モードが指定されている。

---

**IBM1527I S First argument to *BUILTIN name* built-in must have locator type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その最初の引数が POINTER 型でも OFFSET 型でもない。

---

**IBM1528I S First argument to *BUILTIN name* built-in must have derived mode REAL.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その最初の引数に COMPLEX モードが指定されている。このメッセージは、例えば、2 つの引数を指定する ATAN および ATAND 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1530I S Second argument to *BUILTIN name* built-in must have derived mode REAL.**

説明: 式に、示されている組み込み関数が含まれているが、その 2 番目の引数に COMPLEX モードが指定されている。このメッセージは、例えば、2 つの引数を指定する ATAN および ATAND 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1531I S *BUILTIN name* argument has invalid type.**

説明: 式に参照 BINARYVALUE(x) が含まれているが、x の型が POINTER、OFFSET、ORDINAL 以外の型である。



---

**IBM1532I S E35 sort exit routines must use a 32-bit linkage.**

説明: 他のリンケージはすべて無効である。

---

**IBM1533I S BUILTIN name argument must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数がストリング型でも数値型でもない。

---

**IBM1534I S BUILTIN name result would be too long.**

説明: REPEAT または COPY 組み込み関数の結果は、ベースのストリング型の最大許容長を超えてはならない。

---

**IBM1535I S BUILTIN name argument must have type REAL FLOAT.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数の型が REAL FLOAT 以外の型である。このメッセージは、例えば、HUGE や RADIX などの浮動小数点照会組み込み関数、および EXPONENT や SUCC などの浮動小数点操作組み込み関数に適用される。

---

**IBM1536I S BUILTIN name argument must be a reference.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数が参照ではない。

---

**IBM1537I S BUILTIN name argument must be an array expression.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数が配列式ではない。このメッセージは、例えば、組み込み関数 ALL、ANY、SUM、および PROD に適用される。

---

**IBM1538I S BUILTIN name argument must be a FILE reference.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数が FILE ではない。このメッセージは、例えば、LINENO および PAGENO などの I/O 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1539I S \* is invalid as a BUILTIN function argument.**

説明: 引数がオプションである場合を除き、BUILTIN 関数の引数として値を指定する必要がある。

```
dc1 a float;
```

```
a = sqrt(*);
```

---

**IBM1540I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have derived mode REAL.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数に COMPLEX モードが指定されている。このメッセージは MAX および MIN 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1541I S Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、そこに指定されている引数が非計算型である。このメッセージは MAX および MIN 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1542I S First argument to BUILTIN name built-in must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その最初の引数がストリング型でも数値型でもない。

---

**IBM1543I S Argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.**

説明: これは RANK 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1545I S First argument to BUILTIN name built-in must be an array.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その最初の引数が配列ではない。このメッセージは、例えば DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1546I S Second argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.**

説明: これは PLIFILL 組み込みサブルーチンに適用される。

---

**IBM1547I S Second argument to *BUILTIN* name  
built-in must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、2 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。

---

**IBM1548I S *BUILTIN* function may not be used inside  
a BEGIN block.**

説明: PLISTSIZE 組み込み関数はプロシージャー内でのみ使用できる。

---

**IBM1549I S *BUILTIN* function may be used only in  
procedures with LINKAGE(SYSTEM).**

説明: PLISTSIZE 組み込み関数は、OPTLINK、PASCAL などのリンケージが指定されたプロシージャー内では使用できない。

---

**IBM1550I S Argument to the *BUILTIN* name  
pseudovariable must be an EVENT  
variable.**

説明: このメッセージは COMPLETION および STATUS 疑似変数に適用される。

---

**IBM1551I S Argument to the *BUILTIN* name  
pseudovariable must be a TASK  
variable.**

説明: このメッセージは PRIORITY 疑似変数に適用される。

---

**IBM1552I S Third argument to *BUILTIN* name  
built-in must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、3 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。このメッセージは、例えば SUBSTR および CENTER 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1554I S Argument to *BUILTIN* name built-in must  
be either a NONVARYING BIT array  
reference or else an array expression  
with known length.**

説明: ALL および ANY 組み込み関数は、2 つの型の配列式に制限されている。NONVARYING BIT 配列参照の配列式、あるいは既知の長さを持つ配列式である。次に示す例のうち、最初の 5 つはこれらの制限を満たしているが、その他の例は制限を満たしていない。

```
dc1 a(10) bit(16) varying;  
dc1 b(10) bit(16);
```

```
if all( b ) then ...  
if any( a ^= ''b ) then ...  
if all( a = b & a ) then ...  
if any( ''b ^= b ) then ...  
if all( a = ''b | b = ''b ) then ...  
if any( a ) then ...  
if all( substr(b,1,n) ) then ...
```

---

**IBM1555I S Second argument to *BUILTIN* name  
built-in must have computational type.**

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、2 番目の引数がストリング型でも数値型でもない。

---

**IBM1556I S Third argument to *BUILTIN* name  
built-in would force STRINGRANGE.**

説明: 組み込み関数 INDEX、SEARCH、または VERIFYR のいずれかに 3 番目の引数を指定する場合、その引数は正の値でなければならない。SEARCHR および VERIFYR の場合は、負でない値でなければならない。

---

**IBM1557I S Second argument to *BUILTIN* name  
built-in must be positive.**

説明: 組み込み関数 CENTER、LEFT、および RIGHT の 2 番目の引数は 0 または負の値であってはならない。

---

**IBM1558I S Argument to VALID built-in must have  
the attributes FIXED DECIMAL or  
PICTURE.**

説明: VALID 組み込み関数の引数には、示されている属性そのものが指定されていなければならない。これらの属性に変換可能なだけでは不十分である。

---

**IBM1559I S SQRT(x) is undefined if x is REAL and  
x < 0.**

説明: 式には、制限付きの式に適用される BUILTIN 関数 SQRT が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

---

**IBM1560I S** *BUILTIN function (x) is undefined if x is REAL and x <= 0.*

説明: 式には、制限付きの式に適用される組み込み関数が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。このメッセージは、例えば LOG、LOG2、および LOG10 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1561I S** *RULES(ANS) does not allow ROUND to be applied to FIXED BIN.*

説明: RULES(ANS) では FIXED BIN の非ゼロ・スケール因数は許されない。したがって、ROUND を FIXED BIN (または BIT) 引数に適用することはできない。

---

**IBM1562I S** *Argument to BUILTIN name built-in has invalid type.*

説明: HANDLE 組み込み関数の引数は構造体型でなければならず、逆に、TYPE 組み込み関数の引数はハンドルでなければならない。

---

**IBM1563I S** *Second argument to BUILTIN name built-in must be nonnegative.*

説明: 組み込み関数 CHARACTER、BIT、および GRAPHIC の 2 番目の引数は 0 以上でなければならない。

---

**IBM1564I S** *Too few arguments have been specified for the BUILTIN name built-in.*

説明: 必要最低数の引数を指定する必要がある。

---

**IBM1566I S** *BUILTIN name (x) is undefined for x outside the supported domain.*

説明: 式には、制限付きの式に適用される組み込み関数が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数のサポートされる定義域外の数値になった。

---

**IBM1568I S** *BUILTIN function (x,y) is undefined if x=0 and y=0.*

説明: 式には、制限付きの式に適用される組み込み関数 ATAN または ATAND が含まれているが、その制限付き式の評価結果がその関数の定義域外の数値になった。

---

**IBM1569I S** *BUILTIN name argument must be a CONNECTED reference.*

説明: 示されている組み込み関数の引数は、(例えば式またはリテラルでなく) 参照でなければならず、かつその参照は CONNECTED でなければならない。

---

**IBM1570I S** *BUILTIN name argument must be a reference to a level 1 CONTROLLED variable.*

説明: ALLOCATION 組み込み関数は、構造体メンバーまたは非 CONTROLLED 変数と共に使用することはできない。

---

**IBM1571I S** *BUILTIN name argument must be a reference to a level 1 BYADDR parameter.*

説明: OMITTED 組み込み関数は、BYVALUE パラメーター、構造体メンバー、または非パラメーターと共に使用することはできない。

---

**IBM1573I S** *The use of \* as an argument is permitted only for parameters declared with the OPTIONAL attribute.*

説明: エントリー宣言に OPTIONAL 属性を追加するか、\* を実引数に置き換える必要がある。

---

**IBM1575I S** *Argument number argument number to BUILTIN name built-in must have type POINTER or OFFSET.*

説明: PLIMOVE および COMPARE などの組み込み関数の示されている引数はロケーターでなければならない。

---

**IBM1576I S** *Third argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.*

説明: これは HEXIMAGE 組み込みサブルーチンに適用される。

---

**IBM1577I S** *First argument to BUILTIN name built-in must have type POINTER.*

説明: これは OFFSET 組み込み関数に適用される。

---

---

**IBM1578I S First argument to *BUILTIN name* built-in must have type OFFSET.**

説明: これは POINTER 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1579I S Second argument to *BUILTIN name* built-in must have type AREA.**

説明: これは OFFSET および POINTER 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1580I S First argument to *BUILTIN name* built-in is an OFFSET value.**

説明: PLIMOVE および COMPARE などの組み込み関数の最初の引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならない。

---

**IBM1581I S First argument to *BUILTIN name* built-in is an OFFSET variable declared without an AREA qualifier.**

説明: PLIMOVE および COMPARE などの組み込み関数の最初の引数が OFFSET 変数の場合は、オフセットをアドレスに変換できるように、その OFFSET 変数を AREA 修飾子と共に宣言する必要がある。

---

**IBM1582I S Argument number *argument number* to *BUILTIN name* built-in is an OFFSET value.**

説明: PLIMOVE および COMPARE などの組み込み関数の示されている引数の属性が OFFSET の場合、それは OFFSET 値でなく、OFFSET 参照でなければならない。

---

**IBM1583I S Argument number *argument number* to *BUILTIN name* built-in is an OFFSET variable declared without an AREA qualifier.**

説明: PLIMOVE および COMPARE などの組み込み関数の示されている引数が OFFSET 変数の場合は、オフセットをアドレスに変換できるように、その OFFSET 変数を AREA 修飾子と共に宣言する必要がある。

---

**IBM1584I S Second argument to *BUILTIN name* built-in must have type OFFSET.**

説明: これは OFFSETDIFF 組み込み関数に適用される。

---

---

**IBM1585I S Second argument to *BUILTIN name* built-in must have type POINTER.**

説明: これは POINTERDIFF 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1586I S Argument to *STRING* built-in function/pseudovisible must be CONNECTED.**

説明: STRING 組み込み関数および疑似変数は、非連続配列クロスセクションや、CONNECTED 属性を用いて宣言されていない配列パラメーターには適用できない。

---

**IBM1587I S Argument number *argument number* to *BUILTIN name* built-in must have the ENTRY attribute.**

説明: その他の引数型はすべて無効である。このメッセージは、PLISRTx 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1588I S First argument to *BUILTIN name* built-in must have type GRAPHIC.**

説明: これは CHARGGRAPHIC 組み込み関数に適用される。例えば次の例では、g を char でなく graphic として宣言するのが正しい。

```
dc1 c char(10);
dc1 g char(5);

c = charg( g );
```

---

**IBM1589I S *BUILTIN name* argument must not have any subscripts.**

説明: LOCATION および BITLOCATION 組み込み関数は添え字付きの参照には適用できない。

---

**IBM1590I S Argument to *STRING* built-in function/pseudovisible must not be a UNION and must not contain a UNION.**

説明: STRING 組み込み関数および疑似変数は、UNION または UNION を含む構造体には適用できない。

---

---

**IBM1591I S** All members of an argument to the **STRING** built-in function/pseudovvariable must have the **UNALIGNED** attribute.

説明: **STRING** 組み込み関数および疑似変数は、**ALIGNED** 属性を持つエレメントを含む構造体または配列には適用できない。

---

**IBM1592I S** All members of an argument to the **STRING** built-in function/pseudovvariable must have the **NONVARYING** attribute.

説明: **STRING** 組み込み関数および疑似変数は、**VARYING** ストリングを含む構造体または配列には適用できない。

---

**IBM1593I S** All members of an argument to the **STRING** built-in function/pseudovvariable must have string type.

説明: **STRING** 組み込み関数および疑似変数は、非計算型、またはピクチャー以外の算術型を含む構造体または配列には適用できない。

---

**IBM1594I S** All members of an argument to the **STRING** built-in function/pseudovvariable must have the same string type.

説明: **STRING** 組み込み関数および疑似変数は、異なるストリング型 (例えば **BIT** ストリングと **CHARACTER** ストリング) を含む構造体または配列には適用できない。

---

**IBM1595I S** First argument to **BUILTIN** name built-in must have type **REAL** **FLOAT**.

説明: これは、**HUGE** および **EXPONENT** などの浮動小数点照会および操作組み込み関数に適用される。

---

**IBM1596I S** Second argument to **BUILTIN** name built-in must have type **CHARACTER**.

説明: これは **EDIT** 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1597I S** **BUILTIN** name argument must have type **TASK**.

説明: これは **PRIORITY** 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1598I S** **BUILTIN** name argument must have type **EVENT**.

説明: このメッセージは **COMPLETION** および **STATUS** 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1599I S** The **BUILTIN** function variable name may not be used as a pseudovvariable.

説明: 示されている組み込み関数は疑似変数ではなく、疑似変数として使用することもできない。

---

**IBM1600I S** Source to **BUILTIN** name pseudovvariable must be scalar.

説明: 配列、構造体、または共用体を組み込み関数 **ONCHAR**、**ONSOURCE**、または **ONGSOURCE** に割り当てるのは無効である。

---

**IBM1601I S** The identifier identifier is not the name of a built-in function. Any use of it is unsupported.

説明: **BUILTIN** 属性は、組み込み関数または組み込みサブルーチンの名前である **ID** にのみ適用できる。

---

**IBM1602I S** Fourth argument to **BUILTIN** name built-in must have the attributes **REAL** **FIXED** **BIN(31,0)**.

説明: これは **PLISRTx** 組み込み関数に適用される。例えば次の例では、**rc** を **fixed bin(15)** でなく **fixed bin(31)** として宣言するのが正しい。

```
dcl rc fixed bin(15);

call plisrta( 'SORT FIELDS=(1,80,CH,A) ',
              'RECORD TYPE=F,LENGTH=(80) ',
              256000,
              rc );
```

---

**IBM1603I S** **BUILTIN** name argument must not have the **CONSTANT** attribute.

説明: これは、**ADDR** および類似の組み込み関数に適用される。例えば、**ADDR** 組み込み関数をラベル定数に適用するのは無効である。

---

**IBM1604I S** **BUILTIN** function argument must be nonnegative.

説明: 組み込み関数 **LOW** および **HIGH** の引数は 0 以上でなければならない。

---

**IBM1605I S** Argument to **ENTRYADDR** built-in must be an **ENTRY** variable or an **EXTERNAL ENTRY** constant.

説明: **ENTRYADDR** 組み込み関数は、**ENTRY** 以外の



ものまたは INTERNAL ENTRY 定数には適用できない。

---

**IBM1606I S** Argument to *variable name*  
pseudovvariable must be a reference.

説明: 疑似変数は式には適用できない。

```
unspec( 12 ) = '00'b4;
```

---

**IBM1607I S** First argument to *variable name*  
pseudovvariable must be a reference.

説明: SUBSTR 疑似変数は式には適用できない。

```
substr( 'nope', 1, 1 ) = 'd';
```

---

**IBM1608I S** Argument to *variable name*  
pseudovvariable must be a scalar.

説明: コンパイラーは、配列、構造体、または共用体に適用される、示されている疑似変数をサポートしていない。

---

**IBM1609I S** First argument to *variable name*  
pseudovvariable must be a scalar.

説明: コンパイラーは、配列、構造体、または共用体に適用される、示されている疑似変数をサポートしていない。

---

**IBM1610I S** Argument to *variable name*  
pseudovvariable must be COMPLEX.

説明: REAL および IMAG 疑似変数は、COMPLEX 算術変数に対してのみ適用できる。

---

**IBM1611I S** First argument to SUBSTR  
pseudovvariable must have string type.

説明: SUBSTR 疑似変数は、数値型変数や非計算型値には適用できない。

---

**IBM1612I S** Argument to the ENTRYADDR  
pseudovvariable must be an ENTRY  
variable.

説明: ENTRYADDR 疑似変数は ENTRY 変数に対してのみ適用できる。

---

**IBM1613I S** Argument to *BUILTIN name* built-in has  
attributes that conflict with *file attribute*.

説明: 示されている組み込み関数は、示されている属性と矛盾する属性を持つファイル定数には適用できない。

---

**IBM1614I S** Argument to *BUILTIN name* built-in has  
attributes that conflict with STREAM.

説明: 示されている組み込み関数は、非 STREAM ファイルには適用できない。

---

**IBM1615I S** Argument to *BUILTIN name* built-in has  
attributes that conflict with PRINT.

説明: 示されている組み込み関数は、非 PRINT ファイルには適用できない。

---

**IBM1616I S** Attributes and ENVIRONMENT options  
for file *file name* conflict.

説明: 宣言ステートメント上の指定されているファイル属性と ENVIRONMENT オプションが矛盾している。次の DECLARE ステートメントは、この種の矛盾がある例である。

```
dcl file f1 direct env(consecutive);
```

---

**IBM1617I S** DIRECT attribute for file *file name*  
needs ENVIRONMENT option  
specification of INDEXED, REGIONAL,  
RELATIVE, or VSAM.

説明: DIRECT ファイル属性を使用するには、ENVIRONMENT オプションに INDEXED、REGIONAL、RELATIVE、または VSAM を指定する必要がある。

```
dcl file f1 direct env(relative);
```

---

**IBM1618I S** Syntax of the %INCLUDE statement is  
incorrect.

説明: %INCLUDE のあとには、名前とセミコロンか、または括弧で囲んだ 2 番目の名前とセミコロンを指定する必要がある。

---

**IBM1619I S** File specification after %INCLUDE is  
too long.

説明: ファイル指定の最大長は 8 文字である。

---

**IBM1620I S File specification missing after %INCLUDE.**

説明: %INCLUDE のあとにはファイル名が必要である。セミコロンだけを指定することはできない。

---

**IBM1621I S NODESCRIPTOR attribute is invalid if any parameters have bit alignment.**

説明: パラメーターが、位置合わせされていないビット・ストリング、または、全体が位置合わせされていないビット・ストリングからなる配列または構造体である場合は、OPTIONS(NODESCRIPTOR) を指定することも暗黙に指定することもできない。

---

**IBM1622I S The number of elements and dimension specifications in an aggregate must not exceed 131071.**

説明: エレメントおよび次元仕様の数が 131071 を超える集合の場合、記述子用に必要となるストレージが大きくなりすぎる。

---

**IBM1623I S The dot-qualified reference *reference name* is unknown.**

説明: 示されている参照は、それが参照されているブロックの中で宣言されている構造体または共用体のメンバーでも、そのブロックを含むブロックの中で宣言されている構造体または共用体のメンバーでもない。

---

**IBM1625I S Extent must be a scalar.**

説明: 配列境界、ストリング長、または AREA サイズを指定する式は、配列、構造体、または共用体への参照であってはならない。

---

**IBM1626I S Extent must have computational type.**

説明: 配列境界、ストリング長、または AREA サイズを指定する式は、数値型またはストリング型でなければならない。

---

**IBM1627I S Subscript expressions must be scalars.**

説明: 添え字として使用する式は、配列、構造体、または共用体参照であってはならない。

---

**IBM1628I S Index number *index number* into the array *variable name* must have computational type.**

説明: 添え字として使用できるのは、数値型またはストリング型の式のみである。

---

**IBM1629I S Extents for STATIC variable are not constant.**

説明: STATIC 変数内の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、コンパイル時に評価結果が定数にならなければならない。

---

**IBM1630I S Number of dimensions in arrays do not match.**

説明: 配列を別の配列に割り当てるときは、2 つの配列の次元数が同じでなければならない。

---

**IBM1631I S Upper and lower bounds in arrays do not match.**

説明: 配列を別の配列に割り当てるときは、2 つの配列間で、各次元の上限および下限が同じでなければならない。

---

**IBM1632I S Index number *index number* into the variable *variable name* is less than the lower bound for that dimension.**

説明: このようなプログラムを実行すると、ほとんどの場合、記憶保護例外が発生する。

```
dc1 a(5:10) fixed bin(31);  
a(1) = 0;
```

---

**IBM1633I S Index number *index number* into the variable *variable name* is greater than the upper bound for that dimension.**

説明: このようなプログラムを実行すると、ほとんどの場合、記憶保護例外が発生する。

```
dc1 a(5:10) fixed bin(31);  
a(20) = 0;
```

---

**IBM1634I S Number of dimensions in subelements of structures do not match.**

説明: 構造体割り当ておよび構造体式の中では、配列であるサブエレメントはすべて次元数が同じでなければならない。

```
dc1  
1 a,
```



```

2 b(8)      fixed bin,
2 c         char(10);

dcl
1 x,
2 y(8,9)    fixed bin,
2 z         char(10);

a = x;

```

---

**IBM1635I S Upper and lower bounds in subelements of structures do not match.**

**説明:** 構造体割り当ておよび構造体式の中では、配列であるサブエレメントはすべて境界が同じでなければならない。

```

dcl
1 a,
2 b(8)      fixed bin,
2 c         char(10);

dcl
1 x,
2 y(9)      fixed bin,
2 z         char(10);

a = x;

```

---

**IBM1636I S Substructuring in subelements of structures do not match.**

**説明:** 構造体割り当ておよび構造体式の中で、1 つの構造体の中のどれかのエレメント自体が構造体である場合は、他のすべての構造体内の対応するエレメントも類似の構造体でなければならない。

---

**IBM1637I S Number of subelements in structures do not match.**

**説明:** 構造体割り当ておよび構造体式の中では、すべての構造体間でエレメント数が同じでなければならない。

---

**IBM1638I S Structures and unions are not permitted in GENERIC descriptions.**

**説明:** GENERIC 記述の中で使用できるのは、スカラーおよびスカラーの配列だけである。

---

**IBM1639I S The aggregate *aggregate-name* contains only noncomputational values. The aggregate will be ignored.**

**説明:** PUT または GET ステートメントの中では、ス

トリングまたは算術変数を含まない集合は使用できない。

---

**IBM1640I S The aggregate *aggregate-name* contains one or more unions and cannot be used in stream I/O.**

**説明:** PUT または GET ステートメントの中では、1 つ以上の UNION ステートメントを含む集合は使用できない。

---

**IBM1641I S References to slices of the array of structures *structure-name* are not permitted.**

**説明:** 構造体の配列は、その全体を参照するか、またはエレメント単位で参照しなければならない。

```

dcl
1 a(8,9),
2 b      fixed bin,
2 c      char(10);

a(2,*) = 0;

```

---

**IBM1642I S References to slices of the array of unions *union-name* are not permitted.**

**説明:** 共用体の配列は、その全体を参照するか、またはエレメント単位で参照しなければならない。

```

dcl
1 a(8,9) union,
2 b      fixed bin,
2 c      char(10);

a(2,*) = 0;

```

---

**IBM1643I S Each dimension of an array must contain no more than 2147483647 elements.**

**説明:** 配列用の DIMENSION 組み込み関数の値を計算することが必要である。DECLARE x(x:y) では、(y-x+1) が 214748648 未満でなければならない。

---

**IBM1644I S Aggregate contains more than 15 logical levels.**

**説明:** 可能な最大物理レベルは 255 であるが、最大論理レベルは 15 である。

---

**IBM1645I S Data aggregate exceeds the maximum length.**

説明: 位置合わせされていないビットを含む集合のサイズは 2\*\*28 バイト未満で、その他の集合は 2\*\*31 未満でなければならない。

---

**IBM1646I S SIZE would be raised in assigning TO value to control variable.**

説明: TO の値が、FIXED 変数または PICTURE 変数の保持できる最大値より大きい場合、その変数によって制御されるループが原因となり、SIZE が発生する可能性がある。例えば、以下に示す 1 つ目のコード・フラグメントでは、x に 99 より大きな値が割り当てられることはない。例えば、以下に示す 2 つ目のコード・フラグメントでは、y に 32767 より大きな値が割り当てられることはない。

```
dc1 x pic'99';

do x = 1 to 100;
  put skip list( x );
end;

dc1 y fixed bin(15);

do y = 1 to 32768;
  put skip list( y );
end;
```

---

**IBM1647I S Too few subscripts specified for the variable *variable name*.**

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

---

**IBM1648I S Too many subscripts specified for the variable *variable name*.**

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

---

**IBM1649I S The number of inherited dimensions plus the number of member dimensions exceeds 15.**

説明: 次元数が 15 を超える配列はサポートされていない。

```
dc1
  1 dim7(2,3,4,5,6,7,8),
  2 dim7more(2,3,4,5,6,7,8)
```

```
3 dim2many(2,3) fixed bin,
3 * fixed bin,
2 * char(10);
```

---

**IBM1650I S The LIKE reference is neither a structure nor a union.**

説明: LIKE 参照は、スカラーまたはスカラーの配列であってはならない。

```
dc1
  a fixed bin,
  1 b like a;
```

---

**IBM1651I S The LIKE reference is ambiguous.**

説明: LIKE 参照には、それを固有にするための十分な修飾が必要である。

```
dc1
  1 x like b,
  1 a,
  2 b,
  3 c,
  3 d,
  2 e,
  3 f,
  3 g,
  1 h,
  2 b,
  3 j,
  3 k;
```

---

**IBM1652I S Neither the LIKE reference nor any of its substructures can be declared with the LIKE attribute.**

説明: LIKE から LIKE を宣言することはサポートされていない。

```
dc1
  1 a,
  2 b1 like c,
  2 b2 like c,
  1 c,
  2 d fixed bin,
  2 e fixed bin;
dc1
  1 x like a;
```

---

**IBM1653I S The LIKE reference must not be a member of a structure or union declared with the LIKE attribute.**

説明: LIKE から LIKE を宣言することはサポートされていない。

```
dc1
  1 a,
    2 b1 like c,
    2 b2 like c,
  1 c,
    2 d fixed bin,
    2 e fixed bin;
dc1
  1 x like a.b1;
```

---

**IBM1654I S The LIKE reference is unknown.**

説明: LIKE 参照は、LIKE 属性指定を含むブロック内で既知のものでなければならない。

---

**IBM1655I S Only CONTROLLED variables can be passed to CONTROLLED parameters.**

説明: パラメーターが controlled として宣言されている場合は、非制御変数および演算子付きの式をそのパラメーターに渡すことはできない。

```
dc1 c char(20);

call a(c);

a: proc( b );
  dc1 b controlled char(*);
```

---

**IBM1656I S A CONTROLLED variable passed to a CONTROLLED parameter must have the same attributes as that parameter.**

説明: 算術属性の相違は許されない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dc1 x fixed bin(15) controlled;

call a(x);

a: proc( b );
  dc1 b controlled fixed bin(31);
```

---

**IBM1657I S A subscript has been specified for the non-array variable *variable name*.**

説明: 添え字は配列エレメント参照の中でのみ使用できる。

---

**IBM1658I S Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is an array expression requiring a temporary array with strings of unknown length.**

説明: スtringの一時配列は、string長が判明している場合にのみサポートされる。

```
dc1 a entry, (b(10),c(10)) char(20) var;

call a( b || c );
```

---

**IBM1659I S After LIKE expansion, aggregate would contain more than 15 logical levels.**

説明: LIKE 拡張後の論理レベルの合計数が 15 を超えてはならない。

---

**IBM1660I S The size ( *record-size* ) of the record conflicts with the RECSIZE ( *resize* ) specified in the ENVIRONMENT attribute.**

説明: ステートメントを実行すると、RECORD 条件が発生する。

```
dc1 datei      file record output
               env( fb recsize (80) total );

dc1 satzaus    char (100);

write file(datei) from(satzaus);
```

---

**IBM1661I S Aggregates cannot be assigned to scalars.**

説明: スカラーにはスカラーのみを割り当てることができる。

---

**IBM1662I S Unsupported use of union or structure containing a union.**

説明: 共用体および共用体を含む構造体は、ADDR または UNSPEC などの組み込み関数への引数として使用する場合以外は、式の中では使用できない。

---

**IBM1663I S Unsupported or invalid use of structure expression.**

説明: 構造体式は、スカラーの配列などに割り当てることとはできない。

---

**IBM1664I S Array expressions cannot be assigned to non-arrays.**

説明: 配列式は、構造体やスカラーなどに割り当てることはできない。

---

**IBM1665I S E15 sort exit routines must have the RETURNS attribute.**

説明: E15 ソート出口に RETURNS 属性が必要なのは、この出口がソート・ライブラリー・ルーチンから関数として呼び出されるからである。

---

**IBM1666I S E15 sort exit routines must return a CHARACTER string.**

説明: E15 ソート出口は、NONVARYING、VARYING、または VARYINGZ CHARACTER ストリングを戻すことができるが、これは文字ストリングでなければならない。

---

**IBM1667I S Target in assignment is NONASSIGNABLE.**

説明: 代入ステートメント内のターゲットは、NONASSIGNABLE 属性を持つものであってはならない。

---

**IBM1668I S Target in assignment is a function reference.**

説明: 代入ステートメントのターゲットは、配列、構造体、共用体、またはスカラー参照でなければならない。関数参照は割り当てのターゲットにはできない。

---

**IBM1669I S Target in assignment is a UNION.**

説明: UNION への割り当てはサポートされていない。

---

**IBM1670I S A PROCEDURE containing ENTRY statements with differing RETURNS attributes must return values BYADDR.**

説明: ENTRY ステートメントを含む PROCEDURE で、PROCEDURE ステートメントと ENTRY ステートメントがすべて同じ RETURNS 属性を持っていない場合は、すべての値に対し BYADDR を戻さなければならない。DFT(RETURNS(BYADDR)) でコンパイルしてこれを強制実行するか、RETURNS 属性の各セットに BYADDR 属性を追加することができる。例えば、次のプログラムを DFT(RETURNS(BYADDR)) でコンパイルするか、“fixed bin” を “fixed bin byaddr” に変更する必要がある。

```
a: proc;  
  return;  
b: entry returns( fixed bin );  
  return( 1729 );  
end;
```

---

**IBM1671I S The source in a structure assignment must be a scalar expression or a matching structure.**

説明: 構造体割り当てのソースは、スカラーの配列や、ターゲットに一致しない構造体であってはならない。

---

**IBM1672I S In multiple BY NAME assignments, if one target is an array of structures, then all must be.**

説明: BY NAME 割り当ては、配列と非配列の混合をターゲットにすることはできない。

```
dc1 1 a, 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;  
dc1 1 b(3), 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;  
dc1 1 c, 2 a1 fixed bin, 2 a2 fixed bin;  
  
a,b = c, by name;
```

---

**IBM1673I S The target in a compound concatenate and assign must be a VARYING or VARYINGZ string.**

説明: NONVARYING ストリングへの割り当てに使用できるのは、単純代入演算子だけである。

---

**IBM1674I S Target in assignment contains UNIONS.**

説明: 割り当てのターゲットに UNION が含まれていてはならない。

---

**IBM1675I S FROMALIEN option cannot be used with MAIN.**

説明: この 2 つのオプションは同時に指定することはできない。

---

**IBM1676I S Source in assignment to LIMITED ENTRY must be either a non-nested ENTRY constant or another LIMITED ENTRY.**

説明: ネストされたプロシーチャーを表す ENTRY 定数、および LIMITED 属性を持つものとして宣言されて

いない変数は、LIMITED ENTRY 属性を持つ変数に割り当てることはできない。

---

**IBM1677I S** Assignment of ENTRY to *target type* is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: 引数リストのない ENTRY 定数または変数は呼び出されないの、ENTRY 変数にしか割り当てることはできない。

---

**IBM1678I S** Assignment of *source type* to *target type* is invalid.

説明: ターゲットの属性がソースの属性と矛盾している。

---

**IBM1679I S** Assignment of POINTER to OFFSET is invalid unless the OFFSET is declared with an AREA qualifier.

説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

---

**IBM1680I S** Assignment of OFFSET to POINTER is invalid unless the OFFSET is declared with an AREA qualifier.

説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換できる。

---

**IBM1681I S** The number of preprocessor invocations specified exceeds the maximum number (25) allowed.

説明: PP オプションの中または MACRO オプションと組み合わせて指定できるプリプロセッサ呼び出しは、25 回までである。

---

**IBM1682I S** The target in a BY NAME assignment must be a structure.

説明: BY NAME 割り当てのターゲットに配列またはスカラーは指定できない。

---

**IBM1683I S** Set of matching names in the expansion of BY NAME assignment must contain either all structures or no structures.

説明: 例えば、名前による割り当て  $x = y$  において、 $x$  と  $y$  の両方にメンバー  $z$  が直接含まれている場合

は、 $x.z$  と  $y.z$  の両方が構造体であるか、 $x.z$  と  $y.z$  のどちらも構造体ではない。

---

**IBM1684I S** Number of dimensions in the BY NAME corresponding elements *variable name* and *variable name* do not match.

説明: BY NAME 割り当てにおいて、一致する名前を持つ配列は次元数が同じでなければならない。

```
dc1
  1 a,
    2 b(4,5) bin(31,0),
    2 c      bin(31,0);
dc1
  1 x,
    2 b(4)   bin(31,0),
    2 c      bin(31,0);
```

a = x, by name;

---

**IBM1685I S** Upper and lower bounds in BY NAME corresponding elements *variable name* and *variable name* do not match.

説明: BY NAME 割り当てにおいて、一致する名前を持つ配列は下限と上限がそれぞれ同じでなければならない。

```
dc1
  1 a,
    2 b(1:5) bin(31,0),
    2 c      bin(31,0);
dc1
  1 x,
    2 b(0:4) bin(31,0),
    2 c      bin(31,0);
```

a = x, by name;

---

**IBM1686I S** BY NAME assignment contains UNIONS.

説明: BY NAME 割り当てのターゲットの構造体には、どのような UNION も含まれていてはならない。ソース内の名前に一致する名前が含まれていない UNION も例外ではない。ソース式にも、共用体または共用体を含む構造体が含まれていなければならない。

---

**IBM1687I S** *reserved name* cannot be declared with OPTIONS other than ASM.

説明: DLI コンパイラー・オプションを指定する場合は、OPTIONS(ASM) 以外の OPTIONS を指定して PLITDLI を宣言することはできない。

---

**IBM1688I S** *reserved name cannot be declared with an entry description list.*

説明: DLI コンパイラー・オプションを指定する場合は、エントリー記述リストを伴う PLITDLI 宣言することはできない。

---

**IBM1689I S** *reserved name cannot be declared as a function.*

説明: DLI コンパイラー・オプションを指定する場合は、PLITDLI を関数として宣言することはできない。

---

**IBM1690I S** *OPTIONS( language-name ) is not supported for functions.*

説明: 関数 (つまり RETURNS 属性を伴って宣言するエントリー) は、OPTIONS(ASM) または OPTIONS(COBOL) を指定して宣言することはできない。

---

**IBM1691I S** *Extents in ENTRY descriptors must be asterisks or restricted expressions with computational type.*

説明: ENTRY 記述子の中の個々の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、アスタリスクで指定するか、計算型の制限付き式を用いて指定しなければならない。

---

**IBM1692I S** *An ENTRY invoked as a function must have the RETURNS attribute.*

説明: デフォルトの RETURNS 属性はない。

```
dc1 e entry;  
  
a = e();
```

---

**IBM1693I S** *call-option option repeated in CALL statement.*

説明: TASK、EVENT、および PRIORITY オプションは、CALL ステートメントの中で 1 回ずつしか指定できない。

---

**IBM1694I S** *Reference in CALL statement must not be a built-in function.*

説明: x が組み込みサブルーチン、ENTRY 定数、または ENTRY 変数である場合以外は、CALL x は無効である。組み込み関数は組み込み参照ではない。例えば、"Call SQRT(x)" は無効である。

---

**IBM1695I S** *Reference in CALL statement must either be a built-in subroutine or have type ENTRY.*

説明: x が組み込みサブルーチン、ENTRY 定数、または ENTRY 変数である場合以外は、CALL x は無効である。

---

**IBM1696I S** *RETURN statement without an expression is invalid inside a subprocedure that specified the RETURNS attribute.*

説明: 関数内のすべての RETURN ステートメントには、戻される値を指定しなければならない。

```
a: proc returns( fixed bin );  
  
return;
```

---

**IBM1697I S** *RETURN statement is invalid inside a PROCEDURE that did not specify the RETURNS attribute.*

説明: RETURN(x) の形式のステートメントが有効なのは、RETURNS 属性と共に定義されている PROCEDURE の中で使用する場合のみである。

---

**IBM1698I S** *RETURN statement with an expression is invalid inside a BEGIN in a PROCEDURE that does not have the RETURNS(BYADDR) attribute.*

説明: BEGIN ブロック内で RETURN(x) の形式のステートメントが有効なのは、その BEGIN ブロックを囲む PROCEDURE が、明示指定またはデフォルトにより RETURNS(BYADDR) 属性を持つ場合のみである。

---

**IBM1699I S** *Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an aggregate. This conflicts with the BYVALUE option.*

説明: 配列、構造体、および共用体には BYVALUE を渡すことはできない。

---

**IBM1700I S** *Argument number argument-number in ENTRY reference ENTRY name is an AREA reference with unknown size. This conflicts with the BYVALUE option.*

説明: BYVALUE を渡すことができる相手は固定サイ



ズの AREA 変数に限られる。

---

**IBM1701I S** Argument number *argument-number* in ENTRY reference *ENTRY name* is a string with unknown size. This conflicts with the BYVALUE option.

説明: BYVALUE を渡すことができる相手は固定サイズのストリングに限られる。

---

**IBM1702I S** The attribute keyword attribute is invalid as a RETURNS subattribute.

説明: 構造体および共用体に戻すことはできない。

---

**IBM1703I S** Reference in CALL statement must not be an aggregate reference.

説明: CALL 参照はスカラーでなければならない。

```
dc1 ea(10) entry;

call ea;
```

---

**IBM1704I S** Too many argument lists have been specified for the variable *variable name*.

説明: 1 つの関数に付随する引数リストは 1 つだけでなければならない。ただし、ENTRY を戻す関数の場合は、戻された ENTRY がさらに ENTRY を戻す場合を除き、2 つの引数リストを持つことができる。

---

**IBM1705I S** RETURN expression with attribute *source type* is invalid for RETURNS options specifying the attribute *target type*.

説明: RETURN 式の型は、RETURNS オプションに指定されている型に変換できるものでなければならない。

```
a: proc returns( pointer )

    return( 0 );
end;
```

---

**IBM1706I S** RETURN expression with attribute *source type* is invalid for RETURNS options specifying the attribute *target type*. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.

説明: RETURN 式の型は、RETURNS オプションに指

示されている型に変換できるものでなければならない。

```
a: proc returns( pointer )

    dc1 f entry returns( pointer );
    return( f );
end;
```

---

**IBM1707I S** RETURN expression with attribute *source type* is invalid for RETURNS options specifying the attribute LIMITED ENTRY.

説明: LIMITED ENTRY を戻す関数内で RETURNS 式として指定できるのは、EXTERNAL ENTRY CONSTANT、ネストされていない PROCEDURE を表す ENTRY CONSTANT、または LIMITED 属性を持つ ENTRY VARIABLE でなければならない。

---

**IBM1708I S** RETURN expression with attribute POINTER is invalid for RETURNS options specifying the attribute OFFSET since the OFFSET attribute is not declared with an AREA qualifier.

説明: POINTER 式は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、OFFSET に変換できる。

---

**IBM1709I S** RETURN expression with attribute OFFSET is invalid for RETURNS options specifying the attribute POINTER since the OFFSET expression is not an OFFSET variable declared with an AREA qualifier.

説明: OFFSET 変数は、OFFSET が AREA 修飾子と共に宣言されている場合にのみ、POINTER に変換できる。

---

**IBM1710I S** ORDINAL type in RETURN expression and RETURNS option must match.

説明: 序数を戻す関数では、RETURN 式の中での ORDINAL の型は、この関数が戻すものと同じでなければならない。

```
a: proc returns( ordinal color );

    dc1 i ordinal intensity;
    return( i );
end;
```

---

**IBM1711I S Expression in RETURN statement must be scalar.**

説明: RETURN ステートメントの中の式は、配列、構造体、共用体であってはならない。

---

**IBM1712I S External name specification must be a non-null string.**

説明: EXTERNAL('') は無効である。

---

**IBM1713I S Function *function name* contains no RETURN statement.**

説明: 関数には RETURN ステートメントが少なくとも 1 つは含まれていなければならない。

---

**IBM1714I S Extents in RETURNS descriptors must be constants.**

説明: RETURNS 記述子の中の個々の配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、計算型の制限付き式を用いて指定しなければならない。ENTRY 記述子の場合と異なり、アスタリスクは使用できない。

---

**IBM1715I S Exit from an ON-unit via RETURN is invalid.**

説明: ON ユニットまたはそれに含まれている BEGIN ブロックの中では、RETURN ステートメントは使用できない。ただし、その含まれているブロックが、さらに、その ON ユニット内部に定義されているプロシージャに含まれている場合を除く。

---

**IBM1716I S FORMAT expression must be a scalar value.**

説明: FORMAT リストの中の式は、SKIP 文節も含めて、スカラー値を表すものでなければならない。

---

**IBM1717I S FORMAT expression must have computational type.**

説明: FORMAT リストの中の式は、SKIP 文節も含めて、FIXED BIN(31) に変換できるように計算型のもでなければならない。

---

**IBM1718I S *source type* is invalid as a boolean expression.**

説明: IF、WHILE、UNTIL、SELECT、または WHEN 文節の中の式は、BIT(1) に変換できるように計算型のもでなければならない。

---

**IBM1719I S ENTRY is invalid as a boolean expression. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: IF、WHILE、UNTIL、SELECT、または WHEN 文節の中の式は、BIT(1) に変換できるように計算型のもでなければならない。ENTRY をプール式として使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1720I S Expression for calculating size of variable with adjustable extents is too complicated. Variable may be defined in terms of itself.**

説明: 変数のサイズ計算で使用する式は、その変数を持つ可能性がある値に依存するものであってはならない。これは、その変数用のストレージを割り振れるようになるまではこの種の値は存在しないからである。

---

**IBM1721I S Expression contains too many nested subexpressions.**

説明: コンパイラーが式を評価するために使用するスペースを使い果たした。式をもっと単純な式に書き直す必要がある。

---

**IBM1722I S The number of error messages allowed by the MAXMSG option has been exceeded.**

説明: メッセージ数が MAXMSG コンパイラー・オプションで設定されている制限を超過すると、コンパイルは終了する。

---

**IBM1723I S Result of concatenating two literals is too long.**

説明: 2 つのストリング・リテラルを連結した結果のストリング・リテラルの長さは、派生ストリング型のリテラルの最大許容長を超えてはならない。

---

**IBM1724I S Addition of source type and target type is invalid.**

説明: 加算に使用するオペランドの一方は計算型であり、もう一方は計算型またはロケーターでなければならない。

---

**IBM1725I S Addition of source type and target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1726I S Subtraction of target type from source type is invalid.**

説明: 減算の第 1 オペランドは、計算型またはロケータでなければならない。第 2 オペランドは、第 1 オペランドがロケータである場合にのみ、ロケータとすることができる。そうでない場合は、第 2 オペランドは計算型でなければならない。

---

**IBM1727I S Subtraction of target type from source type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1728I S Multiplication of source type by target type is invalid.**

説明: 乗算のオペランドはどちらも計算型でなければならない。

---

**IBM1729I S Multiplication of source type by target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1730I S Division of source type by target type is invalid.**

説明: 除算のオペランドはどちらも計算型でなければならない。

---

**IBM1731I S Division of source type by target type is invalid. If an ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY を算術オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1732I S Unsupported use of aggregate expression.**

説明: 集合式は、代入ステートメントの中のソースとしてのみ使用できる。また、制限付きで、組み込み関数 ANY または ALL への引数としても使用できる。

---

**IBM1733I S Concatenate operands must have computational type.**

説明: 連結できるのは、ストリング型または数値型の式だけである。

---

**IBM1734I S Operand in a prefix expression is not computational.**

説明: 接頭演算子 (正符号、負符号、および論理否定) は、ストリング型または数値型の式にのみ適用できる。

---

**IBM1735I S AREA variables may not be compared.**

説明: AREA 変数については関係演算は定義できない。

---

**IBM1736I S Comparison of source type to target type is invalid.**

説明: 計算型は他の計算型とのみ比較でき、非計算型は同様な非計算型とのみ比較できる。

---

**IBM1737I S Comparison of ENTRY to target type is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY は他の ENTRY とのみ比較できる。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1738I S Comparison of source type to ENTRY is invalid. If the ENTRY should be invoked, an argument list must be provided.**

説明: ENTRY は他の ENTRY とのみ比較できる。

ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1739I S TASK variables may not be compared.**

説明: TASK 変数について関係演算が定義されていない。

---

**IBM1740I S Comparison of an OFFSET to a POINTER is invalid since the OFFSET comparand is not an OFFSET variable declared with an AREA qualifier.**

説明: OFFSET を POINTER と比較できるのは、OFFSET を POINTER に変換できる場合に限られる。そのためには、OFFSET を AREA 修飾子付きで宣言する必要がある。

---

**IBM1741I S Operands in comparison have differing strong types.**

説明: ストロング型の変数の比較は、両方の型が同じでない限り無効である。

```
dc1 hp handle point;
dc1 hr handle rectangle;

if hp = hr then
  ...
```

---

**IBM1742I S Compared ORDINALs must have the same ORDINAL type.**

説明: ORDINAL は ORDINAL 型が異なる他の ORDINAL と比較することはできない。

---

**IBM1743I S Source and target in assignment have differing strong types.**

説明: ストロング型の変数の割り当ては、両方の型が同じでない限り無効である。

---

**IBM1744I S Conversion of ORDINALs is invalid unless both have the same ORDINAL type.**

説明: ORDINAL は、ORDINAL 型が異なる他の ORDINAL に割り当ててはできない。

---

**IBM1745I S In a function that returns a strong type, the type in any RETURN expression must be the same as that returned by the function.**

説明: 例えば、型付き構造体を戻す関数の中の RETURN 式は同じ構造体型のものでなければならない。

---

**IBM1746I S VALUE and STATIC INITIAL expressions must be constant.**

説明: これらの式は、コンパイル時に定数に換算できるものでなければならない。

```
dc1 a fixed bin static nonassignable init(0);
dc1 m fixed bin value( a );
dc1 n fixed bin static init( a );
```

---

**IBM1747I S Function cannot be used before the function's descriptor list has been scanned.**

説明: これはコンパイラーの制約である。プログラム内の宣言およびブロックの順序を変える必要がある。例えば、次の宣言は逆の順序にする必要がある。

```
dc1 a char( csize( x, y ) );
dc1 csize entry( char(2), fixed bin )
      returns( fixed bin );
```

---

**IBM1748I S Extents of automatic variables must not depend on the extents of automatic variables declared later in the same block.**

説明: プログラム内の宣言の順序を変えなければならない。例えば、次の宣言は逆の順序にする必要がある。

```
dc1 a char( length(b) ) auto;
dc1 b char( 10 ) auto;
```

---

**IBM1749I S VALUE and INITIAL expressions must be scalars.**

説明: 集合式は、INITIAL 式および VALUE 式としては無効である。

---

**IBM1750I S INITIAL attribute is invalid for the  
STATIC LABEL variable *variable-name*  
since it has the MEMBER attribute.**

説明: LABEL 変数にはブロック活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。この変数が構造体のメンバーでなかったとすれば、ストレージ・クラスは AUTOMATIC に変更され、E レベルのメッセージが代わりに出される。

---

**IBM1751I S INITIAL attribute is valid for the  
STATIC ENTRY variable *variable-name*  
only if it has the LIMITED attribute.**

説明: LIMITED 属性を持たない ENTRY 変数にはブロック活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。

---

**IBM1753I S INITIAL attribute is invalid for the  
STATIC FORMAT variable  
*variable-name*.**

説明: FORMAT 変数にはブロック活動化情報が必要であるため、コンパイル時には初期化できない。この変数が構造体のメンバーでない場合、ストレージ・クラスは AUTOMATIC に変更され、代わりにエラー・メッセージが出される。

---

**IBM1754I S An asterisk iteration factor can be  
applied only to the last expression in the  
INITIAL item list for *variable-name*.**

説明: アスタリスク反復因数で変数の初期化が完了するので、その後さらに初期値を続けることはできない。

```
dc1 a(10) fixed bin init( 1, 2, (*) 0, 8 );
```

---

**IBM1755I S An asterisk iteration factor cannot be  
used in the nested INITIAL item list for  
*variable-name*.**

説明: アスタリスク反復因数は、ネストされていない INITIAL 項目リストの中でのみ使用できる。次の例は無効である。

```
dc1 a(20) fixed bin init( (2) ( 1, (*) 2 ) );
```

---

**IBM1756I S The scalar variable *variable-name* has an  
INITIAL list with more than one item.**

説明: 複数のエレメントから成る INITIAL リストを持つことができるのは配列のみである。

```
dc1 a fixed bin init( 1, 2 );
```

---

**IBM1757I S LABEL constant in STATIC INITIAL  
for the variable *variable-name* must be in  
the same block as the LABEL being  
initialized.**

説明: ストレージ・クラスを AUTOMATIC に変更する必要がある。

```
lx;;  
  
subproc: proc;  
  
    dc1 la static label init( lx );  
  
end;
```

---

**IBM1758I S Only one element in the STATIC  
UNION *variable-name* may have the  
INITIAL attribute.**

説明: STATIC UNION の複数のエレメントに INITIAL 値があると、どれを優先させるかの判別ができない。

```
dc1  
  1 a union static,  
    2 b fixed bin(31) init( 17 ),  
    2 c fixed bin(15) init( 19 );
```

---

**IBM1759I S Non-null INITIAL values are not  
supported for the STATIC  
NONCONNECTED array *variable-name*  
since it has the attributes UNALIGNED  
BIT.**

説明: 継承次元を持つ STATIC UNALIGNED BIT 変数の場合にサポートされる INITIAL 値は、'b に等しいビット・ストリングだけである。

```
dc1  
  1 a(10,2) static,  
    2 b1 bit(1) init( (20) '1'b ),  
    2 b2 bit(1) init( (20) '0'b );
```



---

**IBM1760I S LABEL constant in the STATIC INITIAL list for *variable-name* must not be an element of a LABEL CONSTANT array.**

説明: 添え字付き LABEL を添え字なしの LABEL で置き換えるか、ストレージ・クラスを AUTOMATIC に変更する必要がある。

```
lx(1);;
lx(2);;

dcl la(2) static label init( lx(2), lx(1) );
```

---

**IBM1761I S ENTRY reference in INITIAL clause for the STATIC ENTRY variable *variable-name* must not be FETCHABLE.**

説明: DCL x ENTRY LIMITED INIT(y) の中の変数 y は FETCHABLE であってはならない。y は FETCH や RELEASE ステートメントで使用してはならない。y は OPTIONS(FETCHABLE) 属性を持っていってはならない。

---

**IBM1762I S INITIAL iteration factor must have computational type.**

説明: INITIAL リストの中の反復因数は、数字型またはストリング型でなければならない。

---

**IBM1763I S INITIAL iteration factor must be a scalar.**

説明: INITIAL リスト内の反復因数は、配列、構造体、または共用体であってはならない。

---

**IBM1764I S The BYVALUE attribute is invalid for strings of nonconstant length.**

説明: 非固定長のストリングはアドレスにより受け渡ししなければならない。

```
a: proc( x );
  dcl x char(*) byvalue;
```

---

**IBM1765I S Length of string with the VALUE attribute must be a constant or an asterisk.**

説明: 示されているストリングは、固定長か、またはそれぞれの VALUE により決定される長さのものでなければならない。

```
dcl a fixed bin automatic;
dcl s char(a) value('variable length');
```

---

**IBM1766I S VALUE for *variable-name* must be evaluated before its first use.**

説明: 名前付き定数は、使用の前に評価されなければならない。宣言の順序を変えて、個々の名前付き定数が、それぞれの最初の使用の前に宣言されるようにする。

```
dcl a char(n) static init( 'tooSoon' );
dcl n fixed bin value( 7 );
```

---

**IBM1767I S Control variable in DO statement must not be a named constant.**

説明: 名前付き定数は、DO ループ内の制御変数として使用することはできない。

```
dcl n fixed bin value( 7 );

do n = 1 to 5;
```

---

**IBM1768I S Control variable in DO statement must have VARIABLE attribute.**

説明: 定数は、DO ループ内の制御変数として使用することはできない。

```
dcl ex external entry, (ev1, ev2) entry;

do ex = ev1, ev2;
```

---

**IBM1769I S Control variable has type POINTER, but TO expression does not.**

説明: DO ループ内の制御変数が POINTER 型である場合は、TO 式は POINTER 型でなければならない。このコンテキストでは、OFFSET から POINTER への暗黙の変換はサポートされない。

---

**IBM1770I S Control variable in loop with TO clause must have computational or locator type.**

説明: TO 文節を伴う DO ループの中では、制御変数は、「より小」または「より大」の比較が可能な型のものでなければならない。これが可能なのは、計算型とロケータ型だけである。



---

**IBM1771I S** The *variable name* **BUILTIN** function may be used as a pseudovariable in a **DO-loop** only if the length of the pseudovariable reference is known at compile time.

説明: SUBSTR および UNSPEC を DO ループ内の疑似変数として使用できるのは、コンパイル時にそれぞれの派生長が判明している場合に限られる。

---

**IBM1772I S** Source in **DO** loop initialization must be scalar.

説明: DO a = b TO c の形式の DO ループでは、b はスカラーでなければならない。

---

**IBM1773I S** Control variable in **DO** statement must be a scalar.

説明: DO x = .. の形式の DO ループでは、x はスカラーでなければならない。

---

**IBM1774I S** Compiler restriction: control variable in **DO** statement must not be a **BASED** or **CONTROLLED** string or area that has non-constant extent.

説明: DO x = .. の形式の DO ループでは、x がストリングまたはエリアである場合は、x は固定サイズであるか、静的、自動、または定義済みでなければならない。

---

**IBM1775I S** **BY** expression must have computational type.

説明: DO ループの BY 文節内の式は、ストリング型または数値型でなければならない。この式はゼロと比較できるものでなければならないので、ロケータ型であってはならない。

---

**IBM1776I S** **BY** expression must not be **COMPLEX**.

説明: DO ループの BY 文節内の式は、REAL でなければならない。

```
dc1 z cplx float;
```

```
do jx = 1 to 10 by z;
```

---

**IBM1777I S** **TO** expression must not be **COMPLEX**.

説明: DO ループの TO 文節内の式は、REAL でなければならない。

```
dc1 z cplx float;
```

```
do jx = 1 to z;
```

---

**IBM1778I S** Control variable in loop with **TO** clause must not be **COMPLEX**.

説明: TO 文節を伴う DO ループの中では、制御変数は、「より小」または「より大」の比較が可能な型のものでなければならない。数値型の場合、これが可能なのはその数値型が REAL の場合に限られる。

---

**IBM1779I S** **TO** expression must have computational type.

説明: DO ループの TO 文節内の式は、ストリング型または数値型でなければならない。

---

**IBM1780I S** **SIGNAL ANYCONDITION** is invalid.

説明: ON ANYCONDITION は、他の方法ではトラップされない条件をトラップするために使用できるが、ANYCONDITION シグナルは送信できない。

---

**IBM1781I S** And, or and exclusive-or of *source type* and *target type* is invalid.

説明: ビット単位オペランドは計算型のものでなければならない。

---

**IBM1782I S** And, or and exclusive-or of *source type* and *target type* is invalid. If an **ENTRY** should be invoked, an argument list must be provided.

説明: ENTRY をビット単位オペランドとして使用することはできない。ENTRY が、呼び出すべき関数である場合は、引数リスト (左括弧と右括弧のみのものであってもよい) を指定しなければならない。

---

**IBM1783I S** **BASED** variable without an implicit qualifier must be explicitly qualified.

説明: BASED( reference ) ではなく BASED として宣言される変数は、常に明示的に修飾されていなければならない。変数が STORAGE などの組み込み関数への引数である場合も、この条件が満たされていなければならない。

---

**IBM1784I S** The ENTRY *variable-name* may not be used as a locator qualifier since it does not have the RETURNS attribute.

説明: 関数は、ロケータ修飾子として (そして、ロケータを戻す場合に限り) 使用できるが、サブプロシージャはロケータ修飾子としては使用できない。

---

**IBM1785I S** The variable *variable-name* is used as a locator qualifier, but it is not a scalar.

説明: ロケータ修飾子として使用できるのはスカラーだけである。

---

**IBM1786I S** BUILTIN name built-in may not be used as a locator qualifier.

説明: 示されている組み込み関数は、POINTER を戻さないの、ロケータ修飾子としては使用できない。

---

**IBM1787I S** The ENTRY *variable-name* may not be used as a locator qualifier.

説明: x(...)->y は、修飾 AREA を伴って宣言された POINTER か OFFSET を戻す場合以外は無効である。

---

**IBM1789I S** The qualifier *variable-name* does not have locator type.

説明: ロケータ修飾子として使用できるのは、修飾 AREA を伴って宣言された POINTER および OFFSET だけである。

---

**IBM1790I S** Locator qualification is invalid for *variable-name*.

説明: ロケータ修飾子は BASED 変数の場合のみ有効である。

---

**IBM1791I S** The locator qualified reference *reference name* is ambiguous.

説明: 参照はすべてあいまいでないものでなければならない。

---

**IBM1792I S** The locator qualified reference *reference name* is unknown.

説明: ロケータで修飾された参照は明示宣言しておかなければならない。BASED 変数は暗黙的には宣言できない。

---

**IBM1793I S** The variable name BUILTIN function may not be used as a pseudovisible in a DO-loop.

説明: DO ループ内で疑似変数として使用できるのは、IMAG、REAL、SUBSTR、および UNSPEC だけである。

---

**IBM1794I S** Too many implicit locators are needed to resolve the qualification for a variable. Variable may be based on itself.

説明: 暗黙的に修飾される変数は、完全に修飾するために 15 個を超える修飾子を必要とするものであってはならない。15 個を超える修飾子が必要な場合は、修飾子間の相互依存関係が強すぎることを意味する。

```
dc1 a pointer based(b);  
dc1 b pointer based(a);  
a = null();
```

---

**IBM1795I S** The OFFSET variable *variable-name* may not be used as a locator qualifier since it was not declared with an AREA specification.

説明: OFFSET 変数をロケータ修飾子として使用できるのは、ポインター値に変換できる場合に限られる。そのためには、OFFSET を AREA 修飾付きで宣言する必要がある。

---

**IBM1796I S** Qualifier must be a scalar.

説明: 配列、構造体、および共用体は、ロケータ修飾子として使用することはできない。

---

**IBM1797I S** BASED variables may not contain extents with nonconstant values if other extents use the REFER option.

説明: REFER オプションは、同じく非定数式により設定されるエクステンツを持つ BASED 変数の中で使用することはできない。

---

**IBM1798I S** Invalid scale factor in PICTURE specification.

説明: ピクチャー文字 F は、固定小数点 10 進数のピクチャー・スケール因数を指定する。V ピクチャー文字の後に続く数字の数から、F に指定されている整数を引いた値は、-128 から 127 の範囲内になければならない。

---

**IBM1799I S Invalid characters in PICTURE specification.**

説明: ピクチャー指定に使用できるのは、文字データの場合は A X 9 のみで、数字データの場合は 9 V Z \* , . / B S + - \$ CR DB Y K E F < > のみである。挿入文字 < > の間の文字はこの規則に影響を受けない。

---

**IBM1800I S Invalid characters in the F scaling factor.**

説明: ピクチャー文字 F は、固定小数点 10 進数のピクチャー・スケール因数を指定する。フォーマットは F(n) で、n は -128 から 127 の範囲の任意の符号付き整数である。

---

**IBM1801I S A character PICTURE string may have only A, X, or 9.**

説明: ピクチャー指定に使用できるのは、文字データの場合は A、X、または 9 のみである。その他の文字は使用できない。

---

**IBM1802I S Invalid precision in PICTURE fixed decimal precision.**

説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドの桁数は、1 から、LIMITS(FIXEDDEC) オプションで指定されている最大値までの範囲内でなければならない。

---

**IBM1803I S Too many T, I, or R appear in the PICTURE specification.**

説明: T、I、または R は、ピクチャー指定の中のオーバーパンチ文字である。固定小数点数の指定に含めることができるオーバーパンチ文字は 1 つだけである。浮動小数点指定には、2 つ含めることができる (1 つは仮数フィールドの中、1 つは指数フィールドの中)。

---

**IBM1804I S PICTURE specifications in C-format items must be arithmetic.**

説明: C フォーマット項目の中では PICTURE 指定は使用できない。

---

**IBM1805I S Precision in numeric PICTURE must NOT be less than 1.**

説明: 数値データ・ピクチャー指定の中の精度フィールドには、少なくとも 1 個の数字が含まれていなければならない。

---

**IBM1806I S The precision in FIXED DECIMAL PICTURE is too big.**

説明: 固定小数点数ピクチャー指定の中の精度は、LIMITS コンパイラー・オプションに指定されている数を超えてはならない。

---

**IBM1807I S Precision in FLOAT DECIMAL PICTURE is too big.**

説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の精度は、ハードウェアにより 18 桁に制限される。

---

**IBM1808I S PICTURE string is empty.**

説明: ヌル・ピクチャー・ストリング ('P) は無効である。

---

**IBM1809I S Exponent in FLOAT PICTURE is too long. Exponent will be truncated to fit.**

説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数の桁数は 4 に制限されている。

---

**IBM1810I S Exponent in FLOAT PICTURE has no digits.**

説明: 浮動小数点数ピクチャー指定の中の指数が欠落している。ゼロの場合でも入力しなければならない。

---

**IBM1811I S Exponent in PICTURE specification cannot contain V.**

説明: V は暗黙の小数点を指定する。したがって、指数フィールドの中では使用できない。

---

**IBM1812I S FLOAT PICTURE cannot contain CR, DB or F.**

説明: クレジット (CR)、デビット (DB)、およびスケール因数 (F) は FIXED ピクチャー指定の中でのみ使用できる。

---

**IBM1813I S PICTURE specification is too long. Excess characters are truncated on the right.**

説明: ピクチャー指定の長さに対するコンパイラーの制約は、次のとおりである。

fixed decimal: 254  
float decimal: 253  
character data: 511

---

**IBM1814I S PICTURE string has an invalid floating insertion character string.**

説明: 浮動挿入ストリングは < > で区切られる。浮動は > 文字により行われる。ストリングには、区切り文字自体を除くどの文字でも含めることができる。浮動挿入ストリングに < および > の文字を含めるには、これらの不等号括弧はエスケープ・フォーマットで使しなければならない。文字 < を指定するには << を使用し、文字 > を指定するには <> を使用しなければならない。したがって、例えば、<aaa<<bbb<>ccc> は挿入ストリング aaa<bbb>ccc を表す。

---

**IBM1815I S BUILTIN name is a built-in subroutine. It should be used only in CALL statements and not as a function.**

説明: 組み込みサブルーチンを関数として使用できない。呼び出すことしかできない。例えば、次のコードは無効である。

```
dcl pliretc builtin;  
  
rc = pliretc( 16 );
```

---

**IBM1816I S keyword item variable name is not computational.**

説明: 式は算術またはストリングでなければならない。

```
dcl x label variable;  
put list( x );
```

---

**IBM1817I S The KEYTO reference must be of type CHARACTER or GRAPHIC.**

説明: KEYTO 参照のデータ型は文字またはグラフィックでなければならない。参照は、非数値ピクチャー・ストリング指定を持つ変数でもよい。

---

**IBM1818I S I/O-option conflicts with previous options on the I/O-stmt statement.**

説明: 入出力ステートメント上のオプションの 1 つが前のオプションと矛盾している。

```
open file(f1) input output;  
read file(f) into(x) set(p);
```

---

**IBM1819I S The I/O-option option is multiply specified on the I/O-stmt statement.**

説明: 各オプションはそれぞれ 1 回だけ指定できる。

```
read file(f1) ignore(1) ignore(2);
```

---

**IBM1820I S Mandatory I/O-option option not specified on the I/O-stmt statement.**

説明: 必須のステートメント・エレメントが指定されていない。

```
open output;  
write file(x);
```

---

**IBM1821I S Reference for from-into-option is an invalid element or aggregate type.**

説明: レコード入出力ステートメント内の FROM 文節または INTO 文節に、無効なスカラー参照または集合参照が指定されている。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl f1 file;  
read file(f1) into(f1);
```

---

**IBM1822I S The keyword-type expression must be computational.**

説明: レコード入出力ステートメント・オプション KEY または KEYFROM の中の式は、計算型データでなければならない。

---

**IBM1823I S SET reference must have locator type.**

説明: ALLOCATE または LOCATE ステートメントの SET 文節の中の参照は、POINTER 型または OFFSET 型でなければならない。

---

**IBM1824I S keyword expression must be scalar.**

説明: 示されているキーワード文節内の式はスカラーでなければならない。このキーワード文節として使用できるのは、IF、UNTIL、WHILE、WHEN、KEY、KEYFROM、または KEYTO 文節でなければならない。

```
dcl f1 file;  
dcl x char(10);  
dcl z(10) char(10);  
read file(f1) into(x) key(z);
```

---

**IBM1825I S The reference in the *keyword* clause cannot be a built-in function reference.**

説明: レコード入出力オプション KEYTO、FROM、INTO、および SET に対する参照は、組み込み関数であってはならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl f1 file;
dcl x char(10);
read file(f1) into(hex(x));
```

---

**IBM1826I S The reference in the *keyword* clause cannot be a function invocation.**

説明: レコード入出力オプション KEYTO、FROM、INTO、および SET に対する参照は、エントリーであってはならない。

---

**IBM1827I S The reference in the *keyword* clause must have CHARACTER type.**

説明: 指定された参照は無効である。これは文字型のものでなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl p pointer;
display ('what is your name?') reply(p);
```

---

**IBM1828I S The reference in the *keyword* clause must be a scalar variable.**

説明: 指定された参照は無効である。これはスカラーでなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl z(10) char(10);
display ('what is your name?') reply(z);
```

---

**IBM1829I S The attributes of the argument in the *clause* clause conflict with its usage.**

説明: 宣言された属性は、ステートメント内での用途と矛盾している。

```
dcl f file stream;
read file(f) into(x);
```

---

**IBM1830I S *keyword* expression is not computational.**

説明: 式は算術またはストリングでなければならない。

```
dcl p pointer;
put list( ptradd(p,2) );
```

---

**IBM1831I S The LOCATE reference *variable-name* is not implicitly qualified and is invalid without a SET clause.**

説明: LOCATE ステートメントの中に SET 文節を指定する必要がある。

```
dcl f file;
dcl x char(10) based;
locate x file(f1);
```

---

**IBM1832I S SET reference must have POINTER type.**

説明: FETCH ステートメントの SET 文節内の参照は POINTER 型でなければならない。このコンテキストでは OFFSET 型はサポートされていない。

---

**IBM1833I S The aggregate reference in the *from-into* clause clause must be CONNECTED.**

説明: レコード入出力ステートメント・オプション FROM または INTO で指定されている参照が無効である。参照は接続されていなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl f1 file;
dcl 1 a(3),
    2 b(4) char(4),
    2 c(4) char(4);

read file(f1) into(b);
```

---

**IBM1834I S The expression in IGNORE must be computational.**

説明: READ ステートメントの IGNORE オプション内で指定される式は計算型でなければならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dcl a area;

read file(f1) ignore(a);
```

---

**IBM1835I S The LOCATE reference *variable-name* is not a level-1 BASED variable.**

説明: LOCATE 参照は構造体メンバーであってはならず、ストレージ属性 BASED を持っていなければならない。



---

**IBM1836I S INITIAL attribute is invalid for structures.**

説明: INITIAL 属性は、スカラーまたはスカラーの配列の場合にのみ有効である。

---

**IBM1837I S The reference in the keyword clause cannot be a named constant.**

説明: 指定された参照は無効である。これは名前付き定数であってはならない。このメッセージは、例えば次のような場合に出される。

```
dc1 f1 file;
dc1 x char(2);
dc1 val fixed bin(15) value(4);

read file(f1) into(x) keyto(val);
```

---

**IBM1838I S The attributes of argument-number conflict with its usage in data directed I/O.**

説明: データ・ディレクティブ入出力の中でサポートされるのは、AUTOMATIC、CONTROLLED、PARAMETER、STATIC、および暗黙的に修飾された BASED 変数だけである。

```
dc1 q based;
put data(q);
```

---

**IBM1839I S DATA-directed I/O does not support references with locators.**

説明: 一時変数を使用するか、LIST または EDIT ディレクティブ入出力を使用する必要がある。

---

**IBM1840I S Subscripted references are not allowed in GET DATA.**

説明: 一時変数を使用するか、GET LIST または GET EDIT を使用する必要がある。

---

**IBM1841I S The first argument in the keyword -format item is invalid.**

説明: フォーマット引数が有効な範囲外にある。

```
put edit('hi') (a( -1) );
```

---

**IBM1842I S The field width specified in the keyword -format item is too small for complete input or output of the data item.**

説明: 指定された幅が小さいため処理を完了できない。

```
put edit(10190) (f(3));
```

---

**IBM1843I S The fractional digits specified in the keyword -format item is invalid.**

説明: 小数桁数は、フィールド幅以下の負ではない値でなければならない。

---

**IBM1844I S The argument in the R-format item is not a format constant or format variable.**

説明: R フォーマット項目への引数は、フォーマット定数またはフォーマット変数でなければならない。

---

**IBM1845I S The significant digits specified in E-format item is invalid.**

説明: 有効数字の桁数は、小数桁数以上、かつフィールド幅以下で、負ではない値でなければならない。

---

**IBM1846I S The format-item format item is invalid with GET/PUT STRING.**

説明: G、L、PAGE、LINE、SKIP、および COLUMN フォーマット項目は、STRING オプションを使用する GET/PUT EDIT ステートメント内で使用することはできない。

---

**IBM1847I S GOTO target is inside a (different) DO loop.**

説明: GOTO のターゲットは DO ループの中であってはならない。ただし、GOTO 自身が DO ループ内にある場合を除く。

---

**IBM1848I S The INCLUDE file for include-stmt-arg could not be found.**

説明: INCLUDE ファイルが見つからないかオープンできない。

---

**IBM1849I S Under CMPAT(V1), bounds must not be greater than 32767.**

説明: CMPAT(V1) のもとでは、境界は -32768 から 32767 の範囲内になければならない。この範囲外の境界



を使用するには、別の CMPAT オプションを指定する。

---

**IBM1850I S Under CMPAT(V1), bounds must not be less than -32768.**

説明: CMPAT(V1) のもとでは、境界は -32768 から 32767 の範囲内になければならない。この範囲外の境界を使用するには、別の CMPAT オプションを指定する。

---

**IBM1851I S The INCLUDE file *include-file-name* could not be opened.**

説明: インクルード・ソース・ファイルをオープンしようとしたときに予期しないエラーが起きた。

---

**IBM1852I S The preprocessor *preprocessor* is not known to the compiler.**

説明: PP コンパイラー・オプションで不明なプリプロセッサが指定されている。

---

**IBM1853I S Variable in *statement* must be a FETCHABLE entry constant.**

説明: FETCH および RELEASE ステートメント内の引数は、FETCHABLE 入り口定数でなければならない。

---

**IBM1854I S Fetch of the PP name preprocessor failed with ONCODE= *oncode*.**

説明: コンパイラーは、プリプロセッサ用の PP-DEF インストール・オプションで指定されているモジュールをロードしようとした。

---

**IBM1855I S Preprocessor PP name terminated abnormally with ONCODE= *oncode-value*.**

説明: コンパイラーが呼び出したプリプロセッサの中で終了エラーが検出された。

---

**IBM1856I S Fetch of the user exit initialization routine failed with ONCODE= *oncode*.**

説明: コンパイラーは、ユーザー出口をロードできなかった。

---

**IBM1857I S User exit routine terminated abnormally with ONCODE= *oncode-value*.**

説明: コンパイラーは、ユーザー出口の中に終了エラーを検出した。

---

**IBM1858I S Compile aborted by user exit.**

説明: ユーザー出口でコンパイルが打ち切られ、戻りコードが 16 に設定された。

---

**IBM1859I S The first statement must be a PROCEDURE or PACKAGE statement.**

説明: 他のすべてのステートメントは、PACKAGE または PROCEDURE ステートメントに囲まれていなければならない。

---

**IBM1860I S PACKAGE statement must be the first statement in the program.**

説明: PACKAGE ステートメントをプログラム内の他のステートメントのあとに置くことはできない。

---

**IBM1861I S All statements other than DECLARE, DEFAULT and PROCEDURE statements must be contained inside a PROCEDURE.**

説明: このメッセージが生じるのは、例えば、最初の PROCEDURE ステートメントが無効な場合や、PROCEDURE に含まれている END ステートメントが多すぎる場合である。

---

**IBM1862I S Statements are nested too deep.**

説明: PROCEDURE、DO、SELECT、および類似のステートメントのネスト数が、コンパイラーでサポートされている数より多い。もっと単純になるようにプログラムを書き直す必要がある。

---

**IBM1863I S Variables declared in a PACKAGE outside of any PROCEDURE must have the storage class STATIC, BASED or CONTROLLED or must be DEFINED on STATIC.**

説明: AUTOMATIC 変数は PROCEDURE の中で宣言されていなければならない。PROCEDURE の外部で宣言される DEFINED 変数は STATIC 上で定義されていなければならない。

---

**IBM1864I S The function name built-in is not supported.**

説明: 示されている組み込み関数に対するサポートは中止された。

---

**IBM1865I S The only BASED variables supported in data-directed i/o are those that have constant extents and that are implicitly qualified by simple variables.**

説明: BASED 変数を暗黙に修飾する変数は、配列、構造体、または共用体の一部ではないスカラーでなければならない、AUTOMATIC または STATIC ストレージ属性のいずれかを持つ POINTER なければならない。

---

**IBM1866I S The keyword statement is not supported.**

説明: 示されているステートメントに対するサポートは中止された。

---

**IBM1867I S The pseudovariable variable name is not supported.**

説明: 示されている疑似変数に対するサポートは中止された。

---

**IBM1868I S Invalid use of iSUB.**

説明: iSUB 参照は DEFINED 文節内でだけ許される。

---

**IBM1869I S ALLOCATE with attribute lists is not supported.**

説明: 例えば、下記はどちらもサポートされていない。

```
allocate x(5);
allocate y char(10);
```

---

**IBM1870I S ON statement cannot specify both SYSTEM and an ON-unit.**

説明: ON ステートメントで SYSTEM 処置が指定されている場合は、同時に ON ユニットも指定することはできない。

```
on error system stop;
```

---

**IBM1871I S The reference in the CONDITION condition must have type CONDITION.**

説明: CONDITION(x) の x が、CONDITION 型を持たない変数を参照している。

---

**IBM1872I S The reference in the condition-name condition must have type FILE.**

説明: 示されている FILE 条件内の参照の型が FILE ではない。

---

**IBM1873I S Nesting of DO statements exceeds the maximum.**

説明: DO ステートメントの最大ネスト深度は 50 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM1874I S Nesting of IF statements exceeds the maximum.**

説明: IF ステートメントの最大ネスト深度は 50 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM1875I S Nesting of SELECT statements exceeds the maximum.**

説明: SELECT ステートメントの最大ネスト深度は 50 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM1876I S Nesting of blocks exceeds the maximum.**

説明: ブロックの最大ネスト深度は 30 である。

---

**IBM1878I S The reference in the EVENT clause must have type EVENT.**

説明: 他の型の参照は無効である。

---

**IBM1879I S The reference in the TASK clause must have type TASK.**

説明: 他の型の参照は無効である。

---

**IBM1880I S Reference must have FILE type.**

説明: ファイル変数または定数が必要である。

```
dcl x format variable;
open file(x);
```

---

**IBM1881I S The reference reference name is ambiguous.**

説明: 参照を固有なものにするには十分な修飾を与えないなければならない。

---

**IBM1882I S** The **ALLOCATE** reference *variable-name* is not a level-1 **BASED** or **CONTROLLED** variable.

説明: **ALLOCATE** ステートメントの中の参照はレベル 1 の変数名でなければならず、これらの変数は **BASED** または **CONTROLLED** 属性を持っていないなければならない。

---

**IBM1883I S** The **ALLOCATE** reference *variable-name* is not implicitly qualified and is invalid without a **SET** clause.

説明: **ALLOCATE** ステートメント内で **SET** 文節を指定する必要がある。

```
dc1 a based;

allocate a;
```

---

**IBM1884I S** The reference *variable-name* in the **GENERIC** attribute list is not a scalar **ENTRY** reference.

説明: 他の型の参照は無効である。

---

**IBM1885I S** **IN** option reference must have **AREA** type.

説明: 他の型の参照は無効である。

---

**IBM1886I S** The **REFER** object name *reference name* is ambiguous.

説明: 名前を固有にするために、十分な修飾を与える必要がある。

```
dc1
  1 a based,
  2 b1,
    3 c      bit(8) aligned,
    3 d      char(10),
  2 b2,
    3 c      bit(8) aligned,
    3 d      char(10),
  2 e( n refer(c)) char(10);
```

---

**IBM1887I S** The **REFER** object *reference name* must be an element of the same structure where it is used, and must precede its first usage in that structure.

説明: 示されている **REFER** オブジェクトは、別の構

造体内で宣言することはできず、また、最初の使用の後には同じ構造体内でも宣言できない。

---

**IBM1888I S** The **REFER** object *reference name* must have computational type.

説明: **REFER** オブジェクトを **REAL FIXED BIN(31,0)** に、またその逆に、安全に変換できることが必要である。

```
dc1
  1 a based,
  2 b,
    3 c      pointer,
    3 d      char(10),
  2 e( n refer(c)) char(10);
```

---

**IBM1889I S** The **REFER** object *reference name* must be a scalar.

説明: **REFER** オブジェクトは、自身の宣言の中にも、その親の中にも次元を持つことはできない。

```
dc1
  1 a based,
  2 b(8),
    3 c      fixed bin,
    3 d      char(10),
  2 e( n refer(c)) char(10);
```

---

**IBM1890I S** The **REFER** object *reference name* must precede the first level-2 element containing a **REFER**.

説明: 宣言の中のエレメントの順序を変更して、すべての **REFER** オブジェクトが、**REFER** を含む最初のレベル 2 のエレメントより前にくるようにする必要がある。

```
dc1
  1 a based,
  2 b      fixed bin,
  2 c      char( n refer(b) ),
  2 d      fixed bin,
  2 e      char( n refer(d) );
```

---

**IBM1891I S** **REFER** is not allowed on non-BASED variables.

説明: **REFER** は **BASED** 変数の宣言の中でのみ使用できる。

---

**IBM1892I S** The REFER object *reference name* must have constant length.

説明: REFER オブジェクトがストリングである場合は、固定長でなければならない。

---

**IBM1893I S** REFER is allowed only on members of structures and unions.

説明: REFER はスカラーまたはスカラーの配列の宣言の中のみでは使用できない。

---

**IBM1894I S** FREE references must not be subscripted.

説明: ステートメント FREE x の中の x は添え字も引数も持つことはできない。

---

**IBM1895I S** Operations involving OPTIONS(*language-name*) routines are not supported if the DIRECTED option applies.

説明: DIRECTED(ASM) オプションを使用する場合は、OPTIONS(ASM) を伴って宣言された ENTRY については比較および割り当てはサポートされていない。同様に、DIRECTED(COBOL) オプションを使用する場合は、OPTIONS(COBOL) を伴って宣言された ENTRY については比較および割り当てはサポートされていない。

---

**IBM1896I S** OPTIONS(*language-name*) is not supported for ENTRY VARIABLES if the DIRECTED option applies.

説明: DIRECTED(ASM) オプションを使用する場合は、OPTIONS(ASM) を伴う ENTRY VARIABLES を宣言することはできない。同様に、DIRECTED(COBOL) オプションを使用する場合は、OPTIONS(COBOL) を伴う ENTRY VARIABLES を宣言することはできない。

---

**IBM1897I S** Simple defining is supported only for scalars, for structures with constant extents matching those in the base variable, and for arrays of such scalars and structures as long as the array is not based on a controlled variable.

説明: 単純定義を意図していない場合は、POSITION(1) を指定して強制的にストリング定義を行う必要がある。

---

**IBM1898I S** The base reference in the DEFINED attribute cannot be a built-in or type function.

説明: 変数は他のユーザー変数としてのみ定義できる。

---

**IBM1899I S** The base variable in the DEFINED attribute cannot be BASED, DEFINED or CONSTANT.

説明: DEFINED およびベース変数を UNION に変換する。

---

**IBM1900I S** Extents for DEFINED bit structures must be constant.

説明: ビット・ストリングからなる DEFINED 構造体および共用体のすべての境界およびストリング長は、定数でなければならない。

---

**IBM1901I S** POSITION attribute is invalid without the DEFINED attribute.

説明: DEFINED 属性のない POSITION 属性は意味を持たない。

---

**IBM1902I S** The expression in the POSITION attribute must have computational type.

説明: POSITION 式は、数値型またはストリング型でなければならない。

---

**IBM1903I S** The expression in the POSITION attribute for bit string-overlay defining must be an integer constant.

説明: コンパイラーは、POSITION 属性をスキャンするときに、式を整数定数に評価できなければならない。

---

**IBM1904I S** Variable following the free clause must be level-1 and either BASED or CONTROLLED.

説明: FREE キーワードの直後には基底付き変数または被制御変数でなければならない。

---

**IBM1905I S** IN or SET option invalid after the CONTROLLED variable in the ALLOCATE or FREE clause.

説明: ALLOCATE または FREE ステートメントの中の被制御変数の直後に無効なオプションがある。

---

---

**IBM1906I S** The reference qualifying an OFFSET attribute must be a scalar AREA reference.

説明: 示されている AREA 参照を使用して OFFSET 変数を修飾するのは無効である。参照はスカラーでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dcl a(10) area;
dcl o      offset(a);
```

---

**IBM1907I S** Extents for CONTROLLED variables cannot be specified using asterisks or REFER.

説明: 被制御変数について指定されているエクステントが無効である。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dcl c(*) char(10) controlled;
```

---

**IBM1908I S** Extents for attribute variables cannot be specified using asterisks or REFER.

説明: AUTOMATIC 変数および DEFINED 変数のエクステントは、式により指定しなければならない。

---

**IBM1909I S** The attribute attribute conflicts with the attribute attribute.

説明: 示されている属性 (例えば PARAMETER と INITIAL) は、同時には指定できない。

---

**IBM1910I S** The attributes given in the declaration for identifier conflict with its use as a parameter.

説明: パラメーターは CONTROLLED 以外のストレージ属性を持つことはできない。また、パラメーターは、BUILTIN、CONDITION、CONSTANT、EXTERNAL、および GENERIC のいずれの属性も持つことはできない。

---

**IBM1911I S** Repeated specifications of the unsubscripted statement label character are in error.

説明: ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

---

**IBM1912I S** Indices specified for the LABEL character have already been specified.

説明: ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

---

**IBM1913I S** ON-units may not be labeled. All such labels will be ignored.

説明: ON 文節に関連した BEGIN ブロックまたはステートメントは、ラベルを持つことはできない。

---

**IBM1914I S** GOTO target must be a LABEL reference.

説明: GOTO x の x は LABEL 型でなければならない。x の型は FORMAT であってはならない。

---

**IBM1915I S** GOTO target must be a scalar.

説明: GOTO x の x は配列であってはならない。

---

**IBM1916I S** The procedure/entry proc-name has already been defined.

説明: 姉妹プロシージャは、同じ名前を持つことはできない。

```
a: proc;
b: proc;
end;
b: proc;
end;
end;
```

---

**IBM1917I S** Program contains no valid source lines.

説明: ソースにまったくステートメントが含まれていないか、または含まれているステートメントがすべて無効である。

---

**IBM1918I S** All the names in the ORDINAL ordinal-name have been previously declared.

説明: ORDINAL 内のどの名前も別のところで宣言されていてはならない。既に宣言されている場合は、ORDINAL 定義が誤って反復されたものと考えられる。

---

**IBM1919I S The EXTERNAL name *string* is specified for the differing internal names *name* and *name*.**

説明: 各 EXTERNAL 名はそれぞれ INTERNAL 名を 1 つだけ持っていなければならない。したがって、例えば次の宣言は、2 つの異なる内部名 X および Y について外部名 Z を指定しているので、無効である。

```
dc1 X fixed bin(31) ext('Z');
dc1 Y fixed bin(31) ext('Z');
```

---

**IBM1920I S FIXED BINARY constant contains too many digits.**

説明: FIXED BINARY 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDBIN サブオプションで設定する。

---

**IBM1921I S FIXED DECIMAL constant contains too many significant digits.**

説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDDEC サブオプションで設定する。

---

**IBM1922I S Exponent in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum.**

説明: FLOAT BINARY 定数の指数に 5 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM1923I S Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more significant digits than the implementation maximum.**

説明: FLOAT BINARY 定数の仮数に 64 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM1924I S Exponent in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum.**

説明: FLOAT DECIMAL 定数の指数に 4 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM1925I S Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more significant digits than the implementation maximum.**

説明: FLOAT DECIMAL 定数の小数部に、プラットフォーム

オームで許可されている桁の最大数を超える値を含めることはできない。

---

**IBM1926I S Constants must not exceed 8192 bytes.**

説明: プログラム内で定数を表すために使用するバイト数は、8192 を超えてはならない。この制限は、内部表記が外部表記の 8 分の 1 のバイト数しか消費しないビット・ストリングにも適用される。

---

**IBM1927I S SIZE condition raised by attempt to convert *source-value* to *target-attributes***

説明: ソース値がターゲットのドメイン内にない。

```
dc1 x fixed bin(15);
x = 172900;
```

---

**IBM1928I S ERROR raised while building CEEUOPT from PLIXOPT.**

説明: コンパイラーが PLIXOPT から CEEUOPT を作成する際に、ERROR 条件が発生した。コンパイラーによって使用されている LE API にエラーが生じた可能性がある。IBM サービスに連絡してください。

---

**IBM1929I S Unable to open file *file-name* in routine *proc-name* ( *line-number* ).**

説明: コンパイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する、示されている一時ファイルをオープンできなかった。TMP 環境変数の値を検査する必要がある。

---

**IBM1930I S Unable to write to file *file-name* . Disk may be full.**

説明: コンパイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する一時ファイルに書き込むことができなかった。TMP 環境変数が指しているディスクがいっぱいになっている可能性がある。

---

**IBM1932I S Unable to close file *file-name* in routine *proc-name* ( *line-number* ).**

説明: コンパイラーは、コード生成モジュールとの通信に使用する、示されている一時ファイルをクローズできなかった。TMP 環境変数の値を検査する必要がある。

---



---

**IBM1933I S Unable to open temporary files because the path and filename are too long.**

説明: TMP 変数が指すソース・ファイルまたはディレクトリーの名前を短くする必要がある。

---

**IBM1934I S If a parameter is a structure with nonconstant extents, only matching structures are supported as arguments.**

説明: 構造体を一時変数に割り当ててその一時変数を渡すか、エントリー宣言内のパラメーター記述を省略する。

---

**IBM1935I S Structure expressions as arguments are not supported for undescribed parameters.**

説明: 構造体を一時変数に割り当ててその一時変数を渡すか、エントリー宣言内でパラメーターを記述する。

---

**IBM1936I S Invocation of compiler backend ended abnormally.**

説明: コンパイラーのバックエンドが見つからなかったか、回復不能のエラーを検出した。後者の問題は、Intel の場合はディスクのフリー・スペース不足、z/Series の場合はジョブの領域サイズ不足が原因で生じることがある。そうでない場合は、IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1937I S Extents for parameters must be asterisks or restricted expressions with computational type.**

説明: パラメーターについては、各配列境界、ストリング長、および AREA サイズは、アスタリスクで指定するか、または計算型の制限付き式で指定しなければならない。

---

**IBM1938I S Message file *file name* not found.**

説明: メッセージは、現行ディレクトリーの中、または、DPATH 環境変数が指すディレクトリーのどれかの中になければならない。

---

**IBM1939I S Exponentiation operands must have computational type.**

説明: 指数のオペランドは数値型またはストリング型でなければならない。

---

**IBM1940I S *note***

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 12 と共に使用される。

---

**IBM1941I U *note***

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 16 と共に使用される。

---

**IBM1942I S The scale factor specified in *BUILTIN name* built-in must be a restricted expression with integer type.**

説明: これは、すべての精度処理組み込み関数に適用される。

---

**IBM1943I S The number of error messages allowed by the FLAG option has been exceeded.**

説明: メッセージ数が FLAG コンパイラー・オプションで設定されている制限を超過すると、コンパイルは終了する。

---

**IBM1944I S The precision specified in *BUILTIN name* built-in must be a restricted expression with integer type.**

説明: これは、すべての精度処理組み込み関数に適用される。

---

**IBM1945I S Extents for BASED variable may not contain asterisks.**

説明: BASED 変数内のエクステントは、定数か、または、REFER オプションで指定されているものでなければならない。

---

**IBM1946I S Reference must be an AREA variable.**

説明: 指定された参照は無効である。AREA 変数が必要である。

---

**IBM1947I S The reference to the GENERIC variable *GENERIC variable name* cannot be resolved.**

説明: GENERIC 参照の中の引数リストは、その GENERIC の WHEN 文節のどれかの中の総称記述子に一致していなければならない。OTHERWISE 文節が指定されている場合は、引数リストのエレメント数は、OTHERWISE エントリー参照と同じでなければならない。

---

**IBM1948I S** *condition-name* **condition with ONCODE=**  
*oncode-value* **raised while evaluating**  
**restricted expression.**

説明: 制限付き式のコンパイル時評価により条件が発生した。

```
display( 1/0 );
```

---

**IBM1949I S** **Parameter name *identifier* appears more**  
**than once in parameter list.**

説明: パラメーター・リスト内の ID はどれも固有のものでなければならない。

```
a: proc( b, c, b );
```

---

**IBM1951I S** *storage class* **variables must be named.**

説明: CONTROLLED 属性を持つ変数は名前が付いていなければならない。EXTERNAL 属性を持つ変数は、その EXTERNAL 属性自体により名前が与えられる場合以外は、名前の代わりに \* をとることはできない。

---

**IBM1952I S** **INITIAL CALL cannot be used to**  
**initialize STATIC data.**

説明: INITIAL CALL は実行時に評価されなければならない。これを使用して初期化できるのは STATIC 以外のデータだけである。

---

**IBM1953I S** **The attributes of the EXTERNAL**  
**variable *variable name* do not match**  
**those in its previous declaration.**

説明: EXTERNAL 変数は 1 つのコンパイル単位内の複数のプロシージャーの中で宣言できるが、それらの宣言間で属性が一致していなければならない。

---

**IBM1954I S** **The base reference in the DEFINED**  
**attribute must be CONNECTED.**

説明: 変数は NONCONNECTED 参照上の DEFINED であってはならない。

---

**IBM1955I S** **Repeated declarations of the EXTERNAL**  
**attribute *variable name* are not supported.**

説明: EXTERNAL FILE 定数および CONDITION は、1 つのコンパイル単位の中で 1 回だけ宣言できる。最外部の 1 つを除くすべての宣言を削除する。

---

**IBM1956I S** **ITERATE is valid only for iterative**  
**DO-groups.**

説明: ITERATE は型 I の DO グループの中では使用できない。

---

**IBM1957I S** **The WAIT event number specification**  
**must be computational.**

説明: WAIT ステートメント内で待機項目数を表す式を使用するのは無効である。式は計算型のものでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dcl e event;  
dcl p pointer;  
wait (e) (p);
```

---

**IBM1958I S** **References in the WAIT statement must**  
**be of type EVENT.**

説明: WAIT ステートメント内のイベント参照が無効である。これは EVENT 型のものでなければならない。次の例のような場合はこのメッセージが出される。

```
dcl e entry;  
wait (e);
```

---

**IBM1959I S** **Invalid aggregate expression specified in**  
**WAIT statement.**

説明: WAIT ステートメント内の参照にはスカラーを使用できる。有効な集合参照は、イベントの単純配列だけである。構造体、共用体、および、構造体または共用体の配列には、エラーとしてフラグが立てられる。

---

**IBM1960I S** *type type type type name* **is not defined.**

説明: 宣言の中で ORDINAL x を使用する場合、x は定義済みの ORDINAL 型でなければならない。

---

**IBM1961I S** **INITIAL values for *type type type type***  
***name* must be in increasing order.**

説明: ORDINAL 定義内の INITIAL 文節に指定されている値は、厳密に昇順になっていなければならない。

---

**IBM1962I S** **INITIAL values for *type type type type***  
***name* must be less than 2G.**

説明: ORDINAL 値は、FIXED BIN(31) 変数の範囲内に収まっていなければならない。

---

**IBM1963I S** *BUILTIN name argument must have  
ORDINAL type.*

説明: ORDINAL ではない引数を伴う組み込み関数が式に含まれている。このメッセージは、例えば、ORDINALNAME、ORDINALPRED、およびORDINALSUCC 組み込み関数に適用される。

---

**IBM1964I S** *The attributes derived from the  
PROCEDURE statement for the ENTRY  
constant variable name do not match  
those in its explicit declaration.*

説明: PROCEDURE ステートメントのラベルは、その名前が付いた ENTRY 定数の宣言を構成する要素の 1 つとなる。この名前は DECLARE 宣言にも現れているが、この 2 つの宣言の間で属性が一致しない。

---

**IBM1965I S** *There is more than one element named  
reference name in the class structure  
name.*

説明: 参照はすべてあいまいでないものでなければならない。

---

**IBM1966I S** *There is no element named reference  
name in the class structure name.*

説明: HANDLE 修飾参照は明示宣言されていなければならない。

---

**IBM1967I S** *The ENTRY variable-name may not be  
used as a handle since it does not have  
the RETURNS attribute.*

説明: 関数は、ハンドルとして (そしてハンドルを戻す場合のみ) 使用できるが、サブプロシージャはハンドルとしては使用できない。

---

**IBM1968I S** *The ENTRY variable-name may not be  
used as a handle.*

説明:  $x(\dots) \Rightarrow y$  は、 $x$  が HANDLE を戻す場合以外は無効である。

---

**IBM1969I S** *The variable variable-name is used as a  
handle, but it is not a scalar.*

説明: ハンドルとして使用できるのはスカラーだけである。

---

**IBM1970I S** *BUILTIN name built-in may not be used  
as a handle.*

説明: 示されている組み込み関数はハンドルとしては使用できない。

---

**IBM1971I S** *The GENERIC variable variable-name  
may not be used as a handle.*

説明: GENERIC 参照はハンドルとして使用できない。

---

**IBM1972I S** *variable-name may not be used as a  
handle.*

説明:  $x \Rightarrow y$  は、 $x$  が HANDLE 属性を持っている場合以外は無効である。

---

**IBM1976I S** *DBCS characters are allowed only in G  
and M constants.*

説明: 16 進ストリング (接尾部 X、BX、B4、GX、XN のいずれかで終わっているストリング)、ビット・ストリング (接尾部 B で終わっているストリング)、および接尾部 M で終わっていない文字ストリングには、SBCS 文字以外の文字を含めることはできない。

---

**IBM1977I S** *SBCS characters are not allowed in G  
constants.*

説明: SBCS と DBCS の混在が許されるのは M 定数の中だけである。

---

**IBM1978I S** *Invalid use of SBCS encoded as DBCS.*

説明: コメント以外では、SBCS を DBCS としてエンコードできるのは ID の一部として使用する場合だけである。

---

**IBM1981I S** *BUILTIN function may not be used  
outside a procedure.*

説明: 示されている組み込み関数はプロシージャの中でのみ使用できない。

---

**IBM1984I S** *File filename could not be opened.*

説明: 示されているファイルがオープンできなかった。ファイルの名前が正しいこと、そして、そのファイルが存在し、正しい属性を持っており、それにアクセスするために必要な許可があることを確認する必要がある。

---

**IBM1985I S File *filename* could not be found.**

説明: 現行ディレクトリー内の、該当の環境変数により指定されているパスに、該当のファイルが存在しない。ファイル名を正しく入力したことを確認する必要がある。

---

**IBM1986I S The path for file *filename* could not be found.**

説明: 指定されたドライブに該当パスが存在しないか、またはパスの入力に誤りがある。

---

**IBM1987I S File *filename* could not be opened because too many files have been opened.**

説明: オープン・ファイルの最大限度数に達した。プラットフォームによっては、オープン・ファイルの数にシステムしきい値があるが、コンパイラーにも 2047 個のインクルード・ファイルという限界がある。

---

**IBM1988I S File *filename* could not be opened due to an access violation.**

説明: ファイルが使用中か、または、必要な特権を持っていないファイルをオープンしようとした。

---

**IBM1989I S File name or extension for *filename* is too long.**

説明: ファイル名または拡張子の長さが上限を超えている。

---

**IBM1990I S File name *filename* has invalid format.**

説明: z/OS UNIX の場合を除き、ファイル名に引用符を含めてはならない。z/OS UNIX では、ファイル名に引用符が含まれている場合、そのファイル名は PDS メンバーを指定する。

---

**IBM1991I S The load of the SQL preprocessor failed with ONCODE= *oncode*. DB2/2 must be properly installed before the SQL preprocessor can be loaded.**

説明: コンパイラーは、SQL プリプロセッサをロードしようとしたができなかった。DB2/2 が正しくインストールされていることを確認する必要がある。

---

**IBM1992I S A file name must be specified.**

説明: コマンド構文は次のとおりである。

```
PLI {d:}{path}filename{.ext} {( options)}
```

---

**IBM1993I S Compilation terminated by ATTENTION condition.**

説明: コンパイル中に CTL-BRK を押すと、コンパイルは停止する。

---

**IBM1994I S Internal compiler error: storage header has been overwritten**

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1995I S Internal compiler error: storage tail has been overwritten.**

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1996I S Internal compiler error: free amount *free request size* does not match allocated size *allocated size*.**

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1997I S Internal compiler error: no WHEN clause satisfied within *module name***

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1998I S Internal compiler error: protection exception in *module name***

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM1999I S *note***

説明: このメッセージは、コンパイラーのバックエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM2001I S A LICENSE REQUEST WAS DENIED FOR PL/I, PID 5655-B22. THE REQUEST ENDED WITH STATUS CODE STATUS CODE AND RETURN CODE RETURN CODE. THE COMPILATION WILL BE TERMINATED.**

説明: システムに IBM ライセンス・マネージャーがインストールされているが、PL/I コンパイラーの使用ライセンスをユーザーが所有しているかどうかの検査要求が失敗した。

---

**IBM2002I S Close of file *filename* failed. There may be a space problem.**

説明: ファイルを閉じようとしたときにエラーが起きた。

---

**IBM2003I S Write to file *filename* failed. There may be a space problem.**

説明: ファイルに書き込もうとしたときにエラーが起きた。

---

**IBM2004I S ATTACH reference must be declared with either a null argument list or with an argument list specifying only one argument.**

説明: ATTACH 参照を引数リストなしで宣言してある場合は、宣言を変更して、ヌル引数リストを表す一對の括弧を追加する必要がある。

---

**IBM2005I S ATTACH reference must be an ENTRY reference.**

説明: GENERIC 参照および組み込みサブルーチンは付加できない。

---

**IBM2006I S ATTACH reference cannot be a function reference.**

説明: ATTACH 参照は、戻される値が ENTRY である場合でも、RETURNS 属性を持っていてはならない。

---

**IBM2007I S ATTACH reference must use LINKAGE(SYSTEM).**

説明: デフォルトのリンケージがオーバーライドされた場合を除き、ATTACH 参照の宣言では OPTIONS(LINKAGE(SYSTEM)) を指定しなければならない。

---

**IBM2008I S ATTACH reference cannot be FETCHABLE.**

説明: FETCH ステートメントまたは RELEASE ステートメント内では ATTACH 参照は使用できない。

---

**IBM2009I S ATTACH reference cannot be a nested procedure.**

説明: ATTACH 参照は、外部参照であることが必要とされるが、レベル 1 のプロシーチャーでなければならない。

---

**IBM2010I S ATTACH reference, if an ENTRY variable, must be a LIMITED ENTRY.**

説明: ENTRY VARIABLE の宣言内で LIMITED 属性を指定する必要がある。

---

**IBM2011I S ATTACH reference, if it has an argument, must declare that argument as POINTER BYVALUE.**

説明: ATTACH ステートメントでは他の引数型はサポートされていない。

---

**IBM2012I S The *attribute* keyword *attribute* is invalid in an ALIAS descriptor.**

説明: RETURNS 記述子と同様に、STRUCTURE、UNION、および DIMENSION 属性は使用できない。したがって次の例は無効である。

```
define alias array (10) fixed bin;  
  
define alias point 1, 2 fixed bin, 2 fixed bin;
```

---

**IBM2013I S Only one description is allowed in an ALIAS definition.**

説明: 構文では、別名定義の中の名前の後に記述リストを続けることが許されているが、その記述リストはただ 1 つの記述のみからなるものでなければならない。次の例は無効である。

```
define alias x fixed bin, float bin;
```



---

**IBM2014I S Extents in type descriptors must be constant.**

説明: ALIAS および STRUCTURE 記述子の中では、各ストリング長および AREA サイズは、制限付きの式で指定しなければならない。RETURNS 記述子と同様に、アスタリスクおよび非定数式は使用できない。

---

**IBM2015I S VALUE attribute conflicts with data type.**

説明: VALUE 属性を使用できるのは、ポインター、オフセット、ハンドル、序数のほか、計算データ型の場合だけである。

---

**IBM2016I S VALUE and INITIAL attributes are not allowed with typed structures.**

説明: VALUE 属性はスカラーでのみ有効であり、INITIAL 属性は型付き構造体では使用できない。

---

**IBM2017I S INITIAL TO is valid only for NATIVE POINTER.**

説明: INITIAL TO は、NONNATIVE POINTER では無効である。また、非 POINTER の場合も、アドレスの割り当てができないためこれは無効である。

---

**IBM2018I S INITIAL TO is supported only for STATIC variables.**

説明: INITIAL TO は、STATIC 以外のストレージ・クラスに属する変数用にはサポートされていない。

---

**IBM2019I S Unsupported LINKAGE used with the LIST attribute.**

説明: OPTIONS(LINKAGE(OPTLINK)) を指定するか、Windows の場合は LIST 属性を持つパラメーターのある PROCEDURE または ENTRY に OPTIONS(LINKAGE(CDECL)) を指定してから、再コンパイルする必要がある。

---

**IBM2020I S There is more than one element named *reference name* in the typed structure *structure name*.**

説明: 参照はすべてあいまいでないものでなければならない。

---

**IBM2021I S There is no element named *reference name* in the structure *structure name*.**

説明: 構造体参照はすべて明示宣言されていなければならない。

---

**IBM2022I S The ENTRY *variable-name* may not be used as a typed structure qualifier since it does not have the RETURNS attribute.**

説明: 関数は、型付き構造体修飾子として (そして型付き構造体を戻す場合のみ) 使用できるが、サブプロシージャは型付き構造体修飾子としては使用できない。

---

**IBM2023I S The ENTRY *variable-name* may not be used as a typed structure qualifier.**

説明:  $x(\dots) \Rightarrow y$  は、 $x$  が型付き構造体を戻す場合以外は無効である。

---

**IBM2024I S The array variable *variable-name* may be used as a typed structure qualifier only if it is completely subscripted before its dot qualification.**

説明: 例えば、 $x$  がメンバー  $m$  を持つ構造体  $t$  の配列である場合は、 $x.m(2)$  は無効である。ただし、 $x(2).m$  は有効である。

---

**IBM2025I S *BUILTIN name* built-in may not be used as a typed structure qualifier.**

説明: 示されている組み込み関数は、型付き構造体修飾子としては使用できない。

---

**IBM2026I S The GENERIC variable *variable-name* may not be used as a typed structure qualifier.**

説明: GENERIC 参照は型付き構造体修飾子として使用できない。

---

**IBM2027I S *variable-name* may not be used as a structure qualifier.**

説明:  $x.y$  は、 $x$  が構造体、共用体、または、型付き構造体を戻す関数である場合以外は無効である。

---

**IBM2028I S TYPEs must be defined before their use.**

説明: 型  $x$  に対する DEFINE STRUCTURE または DEFINE ALIAS ステートメントは、 $x$  を属性型として使用する位置より前に置かれていなければならない。次



の 2 つのステートメントは順序を逆にする必要がある。

```
dc1 x type point;

define structure
1 point
2 x fixed bin(31),
2 y fixed bin(31);
```

---

**IBM2029I S DEFINE STRUCTURE must specify a structure or union type.**

説明: DEFINE STRUCTURE ステートメントでは、レベル番号付きの構造体または共用体型を指定しなければならない。

```
define structure int fixed bin;
```

---

**IBM2030I S INITIAL attribute is invalid in structure definitions.**

説明: 定義済みの構造体型は、割り当てを介して初期化されなければならない。

---

**IBM2031I S Storage attributes are invalid in structure definition.**

説明: AUTOMATIC や BYADDR などのストレージ属性は、構造体型と共に宣言された変数により指定されなければならない。

---

**IBM2032I S DEFINE STRUCTURE may not specify an array of structures.**

説明: 構造体定義内のレベル 1 の名前は DIMENSION 属性を持つことはできない。

---

**IBM2033I S Only one description is allowed in a structure definition.**

説明: 構文では、構造体定義の中の名前の後に記述リストを続けることが許されているが、その記述リストはただ 1 つの構造体記述のみからなるものでなければならない。次の例は無効である。

```
define structure
1 point
2 x fixed bin(31),
2 y fixed bin(31),
```

```
1 rectangle
2 upper_left type point,
2 lower_right type point;
```

---

**IBM2034I S The argument to the type function *type* function must be an ordinal type name.**

説明: 型関数 FIRST および LAST への引数は型名で、その型は序数タイプでなければならない。

---

**IBM2035I S The argument to the type function *type* function must be a structure type name.**

説明: 型関数 NEW への引数は型名で、その型は構造体型でなければならない。

---

**IBM2036I S The second argument to the type function *type* function must have locator type.**

説明: BIND 型関数への第 2 引数は、第 1 引数に指定されている構造体型へのハンドルに変換されるポインターまたはオフセット値でなければならない。

---

**IBM2037I S The first argument to the type function *type* function must be a structure type name.**

説明: 型関数 BIND への最初の引数は型名で、その型は構造体型でなければならない。

---

**IBM2038I S *BUILTIN* name argument must have HANDLE type.**

説明: HANDLE ではない引数を伴う組み込み関数が式に含まれている。

---

**IBM2039I S Argument to variable name pseudovalue must be a HANDLE.**

説明: TYPE 疑似変数は HANDLE に対してのみ適用できる。

---

**IBM2040I S The argument to the type function *type* function must be a defined type.**

説明: 型関数 SIZE への最初の引数は、定義される型の名前でなければならない。

---

**IBM2041I S The first argument to the type function *type* function must be a defined type.**

説明: 型関数 CAST への最初の引数は、定義される型の名前でなければならない。

---

**IBM2042I S The second argument to the type function type function must be a scalar.**

説明: 型関数 CAST への 2 番目の引数はスカラーでなければならない。

---

**IBM2043I S The second argument to the type function type function must have the same size as the first argument.**

説明: 型関数 CAST への 2 番目の引数のサイズは、最初の引数である型のサイズと同じでなければならない。

---

**IBM2044I S The get storage function to BUILTIN name must be a LIMITED ENTRY with LINKAGE(OPTLINK) and an appropriate entry description list.**

説明: この関数は次のように宣言する必要がある。

```
dcl get entry( pointer byvalue,
               fixed bin(31) byaddr,
               fixed bin(31) byaddr )
returns( pointer );
```

---

**IBM2045I S The free storage function to BUILTIN name must be a LIMITED ENTRY with LINKAGE(OPTLINK) and an appropriate entry description list.**

説明: この関数は次のように宣言する必要がある。

```
dcl free entry( pointer byvalue,
                pointer byvalue,
                fixed bin(31) byvalue );
```

---

**IBM2046I S Descriptors must not be needed for any parameter to an ENTRY with a variable number of arguments.**

説明: エントリーが可変数の引数を持つ場合、つまりそのエントリーの最後のパラメーターが LIST 属性を持っている場合に、必須パラメーターのどれかが記述子を持つ可能性があるときは、OPTIONS(NODESCRIPTOR) が指定されていること、およびこの指定が有効であることが必要である。

---

**IBM2047I S The VARGLIST built-in function may be used only inside procedures whose last parameter had the LIST attribute.**

説明: VARGLIST 組み込み関数は、最後のパラメーターが LIST 属性を持っているプロシージャに渡された可変引数リストのアドレスを取得する。この種のルーチ

ンのサブプロシージャの中、または、まったくパラメーターを持たないか、LIST 属性を持つものとして宣言されたパラメーターを持たないプロシージャの中では、この関数は使用できない。

---

**IBM2048I S The LIST attribute may be specified only on non-nested procedures, external entry constants, and limited entry variables.**

説明: LIST 属性を使用すると可変引数リストが作成されるが、ネストされたプロシージャ、または LIMITED 属性なしで宣言されたエントリー変数では、この種の引数リストは使用できない。

---

**IBM2049I S The LIST attribute may be specified only on the last element of an entry description list.**

説明: LIST 属性は、そのあとに 0 個以上のパラメーターを指定できることを示しているが、これらのパラメーターは記述できない。

---

**IBM2050I S Descriptors are supported for Fortran only for scalar character strings.**

説明: OPTIONS( FORTRAN DESCRIPTOR ) が適用される場合は、文字ストリングを除くすべてのパラメーターは、固定エクステントを持っていないなければならない。

---

**IBM2051I S Descriptors are not supported for Fortran for routines defined by or containing ENTRY statements.**

説明: ENTRY ステートメントまたは ENTRY ステートメントを含むプロシージャに OPTIONS( FORTRAN DESCRIPTOR ) が適用される場合は、すべてのパラメーターが固定エクステントを持っていないなければならない。

---

**IBM2052I S A function defined by a PROCEDURE containing ENTRY statements must return aggregate values BYADDR.**

説明: PROCEDURE ステートメントの RETURNS オプションで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの RETURNS(BYADDR) サブオプションが有効な状態になっていないなければならない。

---

**IBM2053I S A function defined by an ENTRY statement must return aggregate values BYADDR.**

説明: ENTRY ステートメントの RETURNS オプションで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの RETURNS(BYADDR) サブオプションが有効になっていないなければならない。

---

**IBM2054I S A PROCEDURE containing ENTRY statements must receive all non-pointer parameters BYADDR.**

説明: パラメーターの宣言の中で BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの BYADDR サブオプションが有効な状態になっていないなければならない。

---

**IBM2055I S An ENTRY statement must receive all parameters BYADDR.**

説明: パラメーターの宣言の中で BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの BYADDR サブオプションが有効な状態になっていないなければならない。

---

**IBM2056I S ENTRY statement is not allowed in DO loops.**

説明: ENTRY ステートメントは、非反復 DO グループ内では使用できるが、反復 DO ループ内では使用できない。

---

**IBM2057I S RETURN statement is invalid inside a BEGIN in a PROCEDURE that contains ENTRY statements.**

説明: RETURN ステートメントが BEGIN ブロック内で有効なのは、その BEGIN ブロックを囲む PROCEDURE に ENTRY ステートメントが含まれている場合のみである。

---

**IBM2058I S In a PROCEDURE without the RETURNS option, any ENTRY statement must use BYADDR for its RETURNS value.**

説明: ENTRY ステートメントの RETURNS オプションで BYADDR が指定されているか、DEFAULT ステートメントの RETURNS(BYADDR) サブオプションが有効になっていないなければならない。

---

**IBM2059I S OPTIONS(FORTRAN) is invalid if any parameters are UNALIGNED BIT.**

説明: OPTIONS(FORTRAN) の場合、固定長の ALIGNED BIT ストリングのみが有効である。

---

**IBM2060I S Attributes may not be specified in ALLOCATEs of BASED variables.**

説明: 属性は、CONTROLLED 変数の ALLOCATE の中でのみ指定できる。

---

**IBM2061I S Attributes specified for *variable-name* in ALLOCATE statement do not match those in its declaration.**

説明: CHARACTER などの属性を ALLOCATE ステートメント内で指定できるのは、割り振られる変数の宣言の中でもその属性が指定されている場合に限られる。

---

**IBM2062I S Structuring specified in ALLOCATE of *variable-name* does not match that in its declaration.**

説明: 構造体に関する ALLOCATE ステートメントでは、宣言の中で指定されているすべてのレベルを指定しなければならず、新しいレベルは指定できない。

---

**IBM2063I S Specification of extent for *variable-name* in ALLOCATE statement is invalid since it was declared with a constant extent.**

説明: CHARACTER などの属性を ALLOCATE ステートメント内で指定できるのは、アスタリスクまたは非定数式により割り振られる変数の宣言の中でもその属性が指定されている場合に限られる。

---

**IBM2064I S The extent specified for the lower bound for dimension *dimension-value* of *variable-name* in ALLOCATE statement is invalid since that variable was declared with a different constant extent.**

説明: CONTROLLED 変数の境界が定数として宣言されている場合は、その変数に関するどの ALLOCATE ステートメントでも同じ定数値としてその境界を指定しなければならない。

---

**IBM2065I S The extent specified for the upper bound for dimension *dimension-value* of *variable-name* in ALLOCATE statement is invalid since that variable was declared with a different constant extent.**

説明: CONTROLLED 変数の境界が定数として宣言されている場合は、その変数に関するどの ALLOCATE ステートメントでも同じ定数値としてその境界を指定しなければならない。

---

**IBM2075I S ENTRY types and arguments in type function must be LIMITED.**

説明: 型関数 CAST と組み合わせて使用される ENTRY 型または引数には、属性 LIMITED を指定する必要がある。

---

**IBM2076I S FLOAT types and arguments in type function must be NATIVE REAL.**

説明: 型関数 CAST と組み合わせて使用される FLOAT 型または引数には、属性 NATIVE REAL を指定する必要がある。

---

**IBM2077I S FIXED BIN types and arguments in type function must be REAL with scale factor zero.**

説明: 型関数 CAST と組み合わせて使用される FIXED BIN 型または引数には、属性 REAL PRECISION(p,0) を指定する必要がある。

---

**IBM2078I S Types with the attributes attributes are not supported as the target of the type function function.**

説明: 型関数 CAST への最初の引数は、属性 REAL FIXED BIN(p,0) または NATIVE REAL FLOAT のどちらかを指定した型でなければならない。

---

**IBM2079I S Arguments with the attributes attributes are not supported as the source in the type function function.**

説明: 型関数 CAST への 2 番目の引数には、属性 REAL FIXED BIN(p,0) または NATIVE REAL FLOAT のどちらかを指定する必要がある。

---

**IBM2080I S DATE pattern is invalid.**

説明: サポートされる DATE パターンのリストについては、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2081I S DATE attribute is valid only with NONVARYING CHARACTER, FIXED DECIMAL and arithmetic PICTURE.**

説明: 示されているもの以外の型では、DATE 属性を使用することはできない。

---

**IBM2082I S DATE attribute conflicts with non-zero scale factor.**

説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値のスケール因数が 0 の場合だけである。

---

**IBM2083I S DATE attribute conflicts with COMPLEX attribute.**

説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値が REAL の場合だけである。

---

**IBM2084I S DATE attribute conflicts with PICTURE string containing characters other than 9.**

説明: DATE 属性を PICTURE に対して使用できるのは、PICTURE がすべて 9 で構成されている場合だけである。

---

**IBM2085I S Length of DATE pattern and base precision do not match.**

説明: DATE 属性を数値に対して使用できるのは、数値の精度が DATE パターンの長さと同じ場合だけである。

---

**IBM2086I S Length of DATE pattern and base length do not match.**

説明: DATE 属性をストリングに対して使用できるのは、ストリングの長さが DATE パターンの長さと同じ場合だけである。

---

**IBM2087I S DATE attribute conflicts with adjustable length.**

説明: DATE 属性をストリングに対して使用できるのは、ストリングが定数長を使用して宣言されている場合だけである。

---

**IBM2088I S Response file is too large. Excess will be ignored.**

説明: 応答ファイルから作成されるオプション・ストリングは、長さが 32767 文字未満でなければならない。

---

**IBM2089I S Line in response file is longer than 100 characters. That line and rest of file will be ignored.**

説明: 応答ファイル内の各行の文字数は、100 文字を超えてはならない。

---

**IBM2090I S The keyword statement cannot be used under SYSTEM(CICS).**

説明: 示されているステートメントは、CICS 環境では使用できない。

---

**IBM2091I S DISPLAY with REPLY cannot be used under SYSTEM(CICS).**

説明: REPLY を指定した DISPLAY は、CICS 環境では使用できない。

---

**IBM2092I S The BUILTIN name built-in function cannot be used under SYSTEM(CICS).**

説明: 示されている組み込み関数は、CICS 環境では使用できない。

---

**IBM2093I S The keyword statement cannot be used under SYSTEM(CICS) except with SYSPRINT.**

説明: 示されている入出力ステートメントは、ステートメントで使用されているファイルが SYSPRINT でない限り、CICS 環境では使用できない。

---

**IBM2094I S Source in CAST to FLOAT must be FLOAT, FIXED or ORDINAL.**

説明: FLOAT への CAST のソースは、FLOAT、FIXED、または ORDINAL でなければならない。

---

**IBM2095I S Target in CAST from FLOAT must be FLOAT, FIXED BIN or ORDINAL.**

説明: FLOAT からの CAST のターゲットは、FLOAT、FIXED BIN、または ORDINAL でなければならない。

---

**IBM2096I S Target in CAST from FIXED DEC must be FLOAT, FIXED BIN or ORDINAL.**

説明: FIXED DEC からの CAST のターゲットは、FLOAT、FIXED BIN、または ORDINAL でなければならない。

---

**IBM2097I S FIXED DEC types and arguments in type function must be REAL with non-negative scale factor.**

説明: 型関数 CAST と組み合わせて使用される FIXED DEC 型または引数には、 $p \geq q$  かつ  $q \geq 0$  の属性 REAL PRECISION(p,q) を指定する必要がある。

---

**IBM2098I S Source in CAST to FIXED DEC must be FLOAT, FIXED or ORDINAL.**

説明: FIXED DEC への CAST のソースは、FLOAT、FIXED、または ORDINAL でなければならない。

---

**IBM2099I S CASEX strings must have the same length.**

説明: CASEX オプション内の 2 つのストリングの長さは同じでなければならない。2 番目の引数は、最初の引数の英大文字値である。最初のストリングの文字に英大文字値がない場合は、その文字自体を英大文字値として使用する。

---

**IBM2100I S The ORDINAL types do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2101I S The HANDLE types do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2102I S The STRUCTURE types do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2103I S Alignment does not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2104I S Number and attributes of structure members do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2105I S Number of dimensions do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2106I S Lower bounds do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---



---

**IBM2107I S Upper bounds do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2108I S RETURNS attributes do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2109I S BYVALUE/BYADDR attributes in RETURNS do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2110I S LINKAGE values do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2111I S OPTIONS values do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2112I S Parameter counts do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2113I S BYVALUE/BYADDR attributes in parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2114I S Number of dimensions for parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2115I S Lower bounds for parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2116I S Upper bounds for parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2117I S Alignment of parameter *parameter-number* does not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2118I S Number and attributes of structure members in parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2119I S Attributes of parameter *parameter-number* do not match.**

説明: このメッセージは、リスト内の直前にあるメッセージの説明として出される。

---

**IBM2127I S The ENTRY named *ENTRY variable name* matches the reference to the GENERIC variable *GENERIC variable name* , but while the GENERIC reference is used as a function, the matching ENTRY does not have the RETURNS attribute.**

説明: GENERIC 参照の一致が見つかったが、GENERIC 参照は関数として使用されているのに、一致する ENTRY は関数ではないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の 1 つ目の GENERIC 参照は無効だが、2 つ目は有効である。

```
dc1 e1 entry( fixed bin );
dc1 e2 entry( fixed bin, fixed bin )
      returns( fixed bin );
dc1 gp generic( e1 when( * ),
                e2 when( *, * ) );

rc = gp( 0 );

rc = gp( 0, 0 );
```



---

**IBM2128I S** The ENTRY named *ENTRY variable name* matches the reference to the **GENERIC variable** *GENERIC variable name* , but while the **GENERIC reference** is used as a function acting as a locator qualifier, the matching ENTRY does not return a POINTER.

説明: GENERIC 参照の一致が見つかったが、GENERIC 参照はロケータとして使用されているのに、一致する ENTRY は POINTER を戻す関数ではないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の 1 つ目の GENERIC 参照は無効だが、2 つ目は有効である。

```
dc1 f1 entry( fixed bin )
      returns( fixed bin );
dc1 f2 entry( fixed bin, fixed bin )
      returns( pointer );
dc1 bx based fixed bin;
dc1 gf generic( f1 when( * ),
               f2 when( *, * ) );

rc = gf( 0 )->bx;

rc = gf( 0, 0 )->bx;
```

---

**IBM2129I S** The ENTRY named *ENTRY variable name* matches the reference to the **GENERIC variable** *GENERIC variable name* , but while the **GENERIC reference** is used as a repeating function reference, the matching ENTRY cannot be so used.

説明: GENERIC 参照の一致が見つかったが、GENERIC 参照はその戻り値が呼び出される (引数リストの数が示すように、順に呼び出される) 関数である関数として使用されているのに、一致する ENTRY はそのように使用できないので、この一致は適切ではない。例えば、下記の 1 つ目の GENERIC 参照は無効だが、2 つ目は有効である。

```
dc1 x1 entry( fixed bin )
      returns( entry );
dc1 x2 entry( fixed bin, fixed bin )
      returns( entry returns( fixed bin ) );
dc1 gx generic( x1 when( * ),
               x2 when( *, * ) );

rc = gx( 0 )();

rc = gx( 0, 0 )();
```

---

**IBM2130I S** iSUB defining is not valid with the **POSITION** attribute.

説明: POSITION 属性は、ストリング・オーバーレイ定義との組み合わせでだけ使用できる。

```
dc1 b(4) char(2) pos(2) def( a(1sub,1sub) );
```

---

**IBM2131I S** In iSUB defining, the base and **DEFINED variables must match.**

説明: iSUB 定義内の定義される配列とベース配列の属性は、次元属性を除いては同一でなければならない。

```
dc1 a(4) fixed bin(31);
dc1 b(4) fixed bin(15) def( a(1sub,1sub) );
```

---

**IBM2132I S** The **i** in an iSUB reference must not exceed the dimensionality of the **DEFINED variable.**

説明: iSUB 参照内の i は、DEFINED 変数の添え字を参照している必要があり、その変数の次元数より大きい値であってはならない。

```
dc1 a(4,4) fixed bin(31);
dc1 b(4) fixed bin(15) def( a(1sub,2sub) );
```

---

**IBM2133I S** An iSUB variable cannot be defined on a cross-section of its base.

説明: iSUB 変数内で、ベース配列の指定にアスタリスクがあってはならない。

```
dc1 a(4,4) fixed bin(31);
dc1 b(4) fixed bin(15) def( a(1sub,*) );
```

---

**IBM2134I S** iSUB defining is supported only for arrays of scalars.

説明: iSUB 定義は、構造体および共用体に対してはサポートされていない。

---

**IBM2135I S** DFT(DESCLIST) conflicts with CMPAT(*cmpat-suboption* ).

説明: CMPAT(V1) または CMPAT(V2) が指定されている場合、DFT(DESCLOCATOR) が有効でなければならない

ない (z/OS 上ではデフォルトのままの状態)。

---

**IBM2136I S The number of indices specified for the LABEL identifier does not match the number previously specified.**

説明: ラベル定数配列のエレメントに指定する索引の数は、エレメントごとに変化してはならない。

```
a(1,1): ....  
a(1,2): ....  
a(3): ....
```

---

**IBM2137I S Indices have been specified for the LABEL identifier when it was previously specified without indices.**

説明: ラベル定数の最初の使用時に添え字が指定されていないければ、そのラベル定数には添え字を付けることはできない。

```
a: ....  
a(3): ....
```

---

**IBM2138I S Indices have not been specified for the LABEL identifier when it was previously specified with indices.**

説明: ラベル定数の最初の使用時に添え字が指定されている場合は、そのラベル定数には添え字を付けなければならない。

```
a(3): ....  
a: ....
```

---

**IBM2139I S The LE runtime is not current enough.**

説明: LE 2.10 (またはそれ以前) を使用している。これは、コンパイラーではサポートされない。

---

**IBM2140I S Length of second argument to the REPLACEBY2 built-in must be twice that of the third.**

説明: REPLACEBY2 組み込み関数の 2 番目の引数が、3 番目の引数の中に対応する文字と置き換えられる文字ペアのセットを提供しているため、2 番目のストリングは、3 番目のストリングの 2 倍の長さでなければならない。

---

**IBM2141I S First argument to the BUILTIN name built-in must be a structure.**

説明: 示されている組み込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体でなければならない。

---

**IBM2142I S Event structure argument to the BUILTIN name built-in has too few elements.**

説明: 示されている組み込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体でなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2143I S Event structure argument to the BUILTIN name built-in has too many elements.**

説明: 示されている組み込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体でなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2144I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in is not a scalar.**

説明: 示されている組み込みサブルーチンへの最初の引数は、SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体でなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2145I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must be a LIMITED ENTRY.**

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントは、LIMITED ENTRY でなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2146I S Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must return BYVALUE a NATIVE FIXED BIN(31).**

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントは、BYVALUE

NATIVE FIXED BIN(31) でなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2147I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a non-empty entry description list.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、空でないエントリー記述リストがなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2148I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in has a parameter count of *specified-parm-count* when the correct parameter count is *required-parm-count* .

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、正しい数のパラメーターがなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2149I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE POINTER as its first parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、最初のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2150I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE POINTER as its second parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2151I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its third parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、3 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31)

がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2152I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE POINTER as its fourth parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、4 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2153I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its fifth parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、5 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2154I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE POINTER as its second parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE POINTER がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2155I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its fourth parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、4 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2156I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as its second parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) が必要ではない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2157I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE CHAR(1) or BYVALUE WCHAR(1) as its second parameter.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、2 番目のパラメーターとして長さ 1 の BYVALUE CHAR (または BYVALUE WIDECHAR) が必要ではない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2158I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in has the wrong linkage.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、PL/I デフォルト・リンケージが必要ではない。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2159I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have the NODESCRIPTOR option.

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、NODESCRIPTOR オプションを指定する必要がある。詳しくは、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM2160I S** All members of the input structure to the *BUILTIN name* built-in must have computational type.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、非計算型を含む構造体には適用できない。

---

**IBM2161I S** The input structure to the *BUILTIN name* built-in must not be a UNION or contain any UNIONS.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、共用体または共用体を含む構造体には適用できない。

---

**IBM2162I S** The input structure to the *BUILTIN name* built-in must not contain any GRAPHIC elements.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、GRAPHIC データを含む構造体には適用できない。

---

**IBM2163I S** The input structure to the *BUILTIN name* built-in must not contain any WIDECHAR elements.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、WIDECHAR データを含む構造体には適用できない。

---

**IBM2164I S** The input structure to the *BUILTIN name* built-in must not contain any unnamed substructures.

説明: XMLCHAR 組み込み関数は、アスタリスクを名前として使用しているサブストラクチャーを含む構造体には適用できない。

---

**IBM2165I S** PRV support is provided only if the LIMITS(EXTNAME(7)) option is in effect.

説明: 長い外部名のサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。

---

**IBM2166I S** PRV support is provided only if the NORENT option is in effect.

説明: RENT オプションのサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。

---

**IBM2167I S** PRV support is provided only if the CMPAT(V1) or CMPAT(V2) option is in effect.

説明: CMPAT(LE) オプションのサポートは、CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV の使用のサポートと非互換である。

---

**IBM2170I S** Too many INTERNAL CONTROLLED variables.

説明: CONTROLLED 変数をアドレス指定するための PRV を使用している場合、INTERNAL CONTROLLED 変数は 568 個を超えない数でなければならない。

---

**IBM2171I S Under the NOWRITABLE option, no FETCHABLE ENTRY may be declared at the PACKAGE level.**

説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各 FETCHABLE ENTRY 定数は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

---

**IBM2172I S Under the NOWRITABLE option, no FILE CONSTANT may be declared at the PACKAGE level.**

説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各 FILE CONSTANT は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

---

**IBM2173I S Under the NOWRITABLE option, no CONTROLLED may be declared at the PACKAGE level.**

説明: NOWRITABLE オプションを指定すると、各 CONTROLLED 変数は、PROCEDURE の内部に宣言しなければならない。

---

**IBM2174I S Result of REPLACEBY2 is too long.**

説明: REPLACEBY2 組み込み関数を 3 つのリテラルに適用することで生成されたストリング・リテラルの長さは、文字リテラルの最大許容長を超えてはならない。

---

**IBM2175I S The second and third arguments to REPLACEBY2 must be restricted expressions.**

説明: REPLACEBY2 組み込み関数は現在のところ、コンパイル時に既知である長さを持つ、2 番目と 3 番目の引数のみをサポートしている。

---

**IBM2176I S The result of the BUILTIN name built-in would require more than 32767 bytes.**

説明: HEX および HEXIMAGE 組み込み関数は、16383 バイトを超えるストレージを使用しているストリングには適用できない。

---

**IBM2177I S The file filename is a PDS member and hence cannot be used for SYSADATA.**

説明: 指定されたファイルは SYSADATA ファイルとしての使用を意図されたファイルであるが、そのようなファイルは PDS のメンバーであってはならない。

---

**IBM2178I S INCLUDE statements are not supported when the LINEDIR option is in effect.**

説明: LINEDIR オプションが有効のときは、ソースに INCLUDE ステートメントが含まれてはならない。

---

**IBM2179I S There is too little room between the margins for the LINE directive. The PPTRACE option will be turned off.**

説明: PPTRACE によって生成される %LINE ディレクティブは 1 行に収まる必要がある。これが可能になるようにマージンを十分に広くするか、またはソース・ファイル名を十分に短くする必要がある。

---

**IBM2180I S Use of the KEYED DIRECT file filename in a keyword statement without a KEY/KEYFROM clause is invalid.**

説明: KEYED DIRECT ファイルを使用するすべての入出力操作には、操作の適用対象となるレコードのキーを組み込む必要がある。

---

**IBM2181I S First argument to BUILTIN name built-in must have type CHARACTER.**

説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2182I S Second argument to BUILTIN name built-in must be a constant.**

説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2183I S The first argument to BUILTIN name built-in must have constant length equal to that of the second argument.**

説明: これは例えば、PICSPEC 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2184I S Compiler input files must have less than 1000000 lines.**

説明: ソース・ファイルをより小さいファイルに分割すること。

---

**IBM2185I S Argument to BUILTIN name built-in must have type REAL DECIMAL FLOAT, and the DFP option must be in effect.**

説明: このメッセージは、ISFINITE および類似の組み込み関数に適用される。



---

**IBM2186I S *BUILTIN name is not supported for DFP.***

説明: 名前付きの組み込み関数が、DFP を使用した浮動小数点でサポートされていない。例えば、このメッセージは SQRTF 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2187I S *The exponent in the literal value is too large for DECIMAL FLOAT with precision precision.***

説明: 小数点が含まれないように調整されたときの DFP リテラル値 (例えば、3.14E0 は 314E-2 に調整される) の指数は、その精度の最大より大きくてはいけない。精度  $\leq 7$  の場合、最大は 90 である。  $7 < \text{精度}$   $\leq 16$  の場合、最大は 369 である。  $16 < \text{精度}$  の場合、最大は 6111 である。

---

**IBM2188I S *The exponent in the literal value is too small for DECIMAL FLOAT with precision precision.***

説明: 小数点が含まれないように調整されたときの DFP リテラル値 (例えば、3.14E0 は 314E-2 に調整される) の指数は、その精度の最小より小さくてはいけない。精度  $\leq 7$  の場合、最小は -95 である。  $7 < \text{精度}$   $\leq 16$  の場合、最小は -383 である。  $16 < \text{精度}$  の場合、最小は -6143 である。

---

**IBM2189I S *Under CMPAT(V2) and CMPAT(LE), bounds must not be greater than +2147483647.***

説明: CMPAT(V2) および CMPAT(LE) では、境界は -2147483648 から +2147483647 の範囲内になければならない。

---

**IBM2190I S *Under CMPAT(V2) and CMPAT(LE), bounds must not be less than -2147483648.***

説明: CMPAT(V2) および CMPAT(LE) では、境界は -2147483648 から +2147483647 の範囲内になければならない。

---

**IBM2191I S *No valid character specified in the option option.***

説明: OR、NOT、および QUOTE または NAMES コンパイラー・オプションのそれぞれで、少なくとも有効な文字を 1 文字指定する必要がある。

---

**IBM2192I S *Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE POINTER as parameter number parameter-number .***

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE POINTER がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

---

**IBM2193I S *Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) as parameter number parameter-number .***

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

---

**IBM2194I S *Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYADDR POINTER as parameter number parameter-number .***

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYADDR POINTER がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

---

**IBM2195I S *Member member-number in the event structure argument to the BUILTIN name built-in must have a BYADDR NATIVE FIXED BIN(31) as parameter number parameter-number .***

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYADDR NATIVE FIXED BIN(31) がなければならない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。



---

**IBM2196I S** Member *member-number* in the event structure argument to the *BUILTIN name* built-in must have a BYVALUE ALIGNED BIT(8) as parameter number *parameter-number* .

説明: SAX パーサー用のイベント・ハンドラーを提供する構造体の示されているエレメントには、指定したパラメーター位置に BYVALUE ALIGNED BIT(8) が必要ではない。詳細については、「プログラミング・ガイド」を参照のこと。

---

**IBM2197I S** Argument to *BUILTIN name* built-in must have type CHAR or WIDECHAR.

説明: これは、例えば UVALID および ULENGTH 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2198I S** First argument to *BUILTIN name* built-in must have type CHAR or WIDECHAR.

説明: これは、例えば UPOS および UWIDTH 組み込み関数に適用される。

---

**IBM2199I S** The run-time option XPLINK(ON) must be in effect if object code is to be generated.

説明: コンパイラー・バックエンドでは、XPLINK(ON) オプションを有効にする必要がある。



---

## 第 6 章 マクロおよび CICS プリプロセッサ・メッセージ (3000 から 3999)

---

### IBM3000I I *note*

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 0 と共に使用される。

### IBM3020I I *Comment spans line-count lines.*

説明: コメントが開始行とは別の行で終わっている。これは、コメント終了を表す区切り文字が欠落している可能性を示す。

### IBM3021I I *String spans line-count lines.*

説明: スtringが開始行とは別の行で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

### IBM3250I W *note*

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 4 と共に使用される。

### IBM3251I W *identifier is multiply defined, but with different attributes. The declaration is ignored.*

説明: 属性と宣言は整合していなければならない。

```
%a: proc;  
%end;  
%dcl a;
```

### IBM3252I W *The attribute character conflicts with previous attributes and is ignored.*

説明: 属性は整合性のあるものでなければならない。

```
dcl a fixed char;
```

### IBM3253I W *Comment spans more than one file.*

説明: コメントが、開始ファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、コメント終了ステートメントが欠落している可能性を示す。

### IBM3254I W *String spans more than one file.*

説明: スtringが、それが始まったファイルとは別のファイルの中で終わっている。これは、右引用符が欠落している可能性を示す。

### IBM3255I W *Delimiter missing between nondelimiter and nondelimiter. A blank is assumed.*

説明: すべての ID と定数の間には、区切り文字 (例えばブランクまたはコンマ) が必要である。

```
dcl 1 a, 2 b, 3c;
```

### IBM3256I W *Multiple closure of groups. END statements will be inserted to close intervening groups.*

説明: 1 つの END ステートメントを使用して複数のステートメント・グループをクローズすることは許されるが、コーディング・エラーが示される場合がある。

### IBM3257I W *Missing character assumed.*

説明: 指示された文字が欠落しているが、ソースの中にはそれ以外の文字がない。構文解析プログラムが、欠落した文字を挿入してソースを訂正した。

### IBM3258I W *Missing character assumed before character.*

説明: 示されている文字が欠落していたため、構文解析プログラムがその文字を挿入してソースを訂正した。

```
%dcl jump fixed;  
%skip  
%jump = 2;
```

### IBM3260I W *Syntax of the %CONTROL statement is incorrect.*

説明: %CONTROL ステートメントのあとには、括弧で囲んだ FORMAT オプションまたは NOFORMAT オプションと、セミコロンを指定しなければならない。

---

**IBM3265I W Number of lines specified with %SKIP must be between 0 and 999 inclusive.**

説明: 999 を超えるスキップ量はサポートされていない。

```
%skip(2000);
```

---

**IBM3270I W 'EXEC CICS' encountered, but the CICS option is not in effect. Command ignored.**

説明: ソースに EXEC CICS ステートメントが含まれている場合は、CICS オプションを有効にする必要がある。

---

**IBM3271I W 'EXEC CSPM' encountered, but the CSPM option is not in effect. Command ignored.**

説明: ソースに EXEC CSPM ステートメントが含まれている場合は、CSPM オプションを有効にする必要がある。

---

**IBM3272I W 'EXEC DLI' encountered, but the DLI option is not in effect. Command ignored.**

説明: ソースに EXEC DLI ステートメントが含まれている場合は、DLI オプションを有効にする必要がある。

---

**IBM3281I W SELECT statement contains no WHEN or OTHERWISE clauses.**

説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節は SELECT ステートメントに必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

---

**IBM3283I W SELECT statement contains no WHEN clauses.**

説明: SELECT ステートメントには WHEN 文節は必須ではないが、指定しないとコーディング・エラーが示されることがある。

---

**IBM3285I W FIXED BINARY constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: FIXED BINARY 定数に含まれる桁数は、31 桁以下でなければならない。

---

**IBM3286I W FIXED DECIMAL constant contains too many digits. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDDEC サブオプションで指定する。

---

**IBM3287I W Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: 浮動 2 進定数は、64 桁に制限されている。

---

**IBM3288I W Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum. Excess nonsignificant digits will be ignored.**

説明: 浮動 10 進定数は、18 桁に制限されている。

---

**IBM3289I W FLOAT literal is too big for its implicit precision. An appropriate HUGE value is assumed.**

説明: 浮動リテラルの精度は、その仮数内の桁数により暗黙に決まる。例えば、1e99 は暗黙に FLOAT DECIMAL(1) を表すが、値 1e99 は FLOAT DECIMAL(1) が保持できる最大値より大きい。

---

**IBM3291I W The OPTIONS option *option-name* conflicts with the LANTLR compiler option. The option will be applied.**

説明: 示されているオプションは、LANGLVL コンパイラー・オプションに指定されている PL/I 言語定義の一部ではない。

---

**IBM3292I W *suboption* is not a valid suboption for *option*.**

説明: 指定したサブオプションは、示されているオプションのサブオプションとしてサポートされていない。

```
*process pp(macro('fixed(long')));
```

---

**IBM3293I W A required suboption is missing for the *suboption* option.**

説明: 示されているオプションにはサブオプションが必要である。

```
*process pp(macro('fixed'));
```

---

**IBM3294I W A closing parenthesis is missing in the specification of the *option* option. One is assumed.**

説明: 示されているオプションの指定に右括弧が欠落している。

```
*process pp(macro('fixed(bin')));
```

---

**IBM3295I W *option* is not a supported option.**

説明: 示されているオプションは、実際のオプションではない。

```
*process pp(macro('float'));
```

---

**IBM3299I W Syntax of the %LINE directive is incorrect.**

説明: %LINE ディレクティブのあとには、(間にブラックを入れるか入れないかは任意で) 括弧、行番号、コンマ、ファイル名、および右括弧を指定しなければならない。

```
%line( 19, test.pli );
```

---

**IBM3300I W *identifier* has not been declared. CHARACTER attribute assumed.**

説明: 変数はすべて宣言する必要がある。

---

**IBM3300I W Operand to LENGTH built-in should have string type.**

説明: オペランドが数値型の場合は、結果は、その値が文字列に変換されたあとでとる長さになる。数値型の長さは、ストレージ要件と同じではない。

---

**IBM3310I W First argument to *BUILTIN name* built-in should have string type.**

説明: このメッセージが出ないようにするには、CHAR 組み込み関数または BIT 組み込み関数を最初の引数に適用する必要がある。

```
dcl i fixed bin;  
display( substr(i,4) );
```

---

**IBM3311I W Argument *number* to the *BUILTIN name* built-in function is missing. A null value will be passed for the missing argument.**

説明: 関数参照の引数が欠落している。欠落している引数については、ヌル・文字列またはゼロが場合に依りて渡される。

```
%dcl a fixed;
```

```
%a = max(n,);
```

---

**IBM3311I W LEAVE will exit noniterative DO-group.**

説明: LEAVE ステートメントにラベルが指定されている場合は、このメッセージは生成されない。次のループでは、LEAVE ステートメントは直接囲んでいる DO グループを終了するだけで、ループは終了されない。

```
do i = 1 to n;  
  if a(i) > 0 then  
    do;  
      call f;  
      leave;  
    end;  
  else;  
    end;  
end;
```

---

**IBM3312I W Result of comparison is always constant.**

説明: このメッセージは、変数がある可能性のある最大値または最小値に等しい定数と、その変数を比較する場合に生成される。次のループでは、変数 x は 99 を超えることはできない。したがって、このループにより毎回実行される暗黙の比較では、結果は常に '1'b になる。

```
do x pic'99';  
  
do x = 1 to 99;  
end;
```

---

**IBM3320I W RETURNS attribute in ENTRY declare ignored.**

説明: ENTRY 宣言により RETURNS 属性を指定してはならない。次の例の場合、"returns( char )" は省く必要がある。

```
%dcl a entry returns( char );
```

---

**IBM3321I W RETURNS option assumed to enclose attribute in PROCEDURE statement.**

説明: PROCEDURE ステートメントの場合、RETURNS キーワードの後ろにある RETURNS 属性を括弧で囲まなければならない。次の例の場合、"char" 属性は、"returns( char )" と指定する必要がある。

```
%a: proc char ;
    return( '1729' );
%end;
```

---

**IBM3322I W Argument list for PROCEDURE identifier is missing. It will be invoked without any arguments.**

説明: パラメーターを持つ PROCEDURE に対するオープン・コード内の参照には、1 つ以上の空の引数リストが設定されていなければならない。例えば、次の "display( a )" は、"display( a() )" とする必要がある。

```
%a: proc( x ) char ;
    dcl x char;
    return( '1729' );
%end;
%act a;

display( a );
```

---

**IBM3323I W Too few arguments for PROCEDURE identifier. Null values will be passed for the missing arguments.**

説明: 指定したプロシーチャーの引数が少なすぎる。欠落している引数については、ヌル・ストリングまたはゼロが場合に依りて渡される。

```
%a: proc( x ) char ;
    dcl x char;
    return( '1729' );
%end;
%act a;

display( a() );
```

---

**IBM3324I W Too many arguments for PROCEDURE identifier. Excess ignored.**

説明: 指定したプロシーチャーの引数が多すぎる。余分の引数は無視される。

```
%a: proc( x ) char ;
    dcl x char;
    return( '1729' );
%end;
%act a;

display( a(1,2) );
```

---

**IBM3325I W No data attributes specified in declare for identifier.**

説明: プリプロセッサ変数は、CHAR または FIXED などの属性を使用して宣言される必要がある。このメッセージは、この例に見られるような関係のないコンマが宣言ステートメントにあることを示す。

```
%dcl a, char;
```

---

**IBM3500I E note**

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 8 と共に使用される。

---

**IBM3510I E keyword statement is not allowed where an executable statement is required. A null statement will be inserted before the keyword statement.**

説明: 一部のコンテキスト (例えば IF-THEN 文節のあと) では、実行可能ステートメントのみが許される。そのようなコンテキストの 1 つで、DECLARE、DEFINE、DEFAULT、または FORMAT ステートメントが検出された。問題のステートメントの前に、ヌル・ステートメント (セミコロンのみで構成されるステートメント) が挿入される。

---

**IBM3511I E COUNTER value would exceed 99999. It will be reset to 0.**

説明: COUNTER 組み込み関数を呼び出せるのは、99999 回までである。



---

**IBM3512I E Multiple closure of groups is not allowed under RULES(NOMULTICLOSE).**

説明: RULES(NOMULTICLOSE)のもとでは、ソース・プログラムの中に複数のグループ閉止があってはならない。

---

**IBM3514I E Second argument to BUILTIN name built-in is negative. It will be changed to 0.**

説明: COPY および REPEAT などの組み込み関数に対する 2 番目の引数は、負の値であってはならない。

```
x = copy( y, -1 );
```

---

**IBM3517I E Sole bound specified for dimension dimension number of array variable name is less than 1. An upper bound of 1 is assumed.**

説明: デフォルトの下限は 1 であるが、上限は下限より大きい値でなければならない。

```
dc1 x(-5) fixed bin;
```

---

**IBM3519I E Characters in B3 literals must be 0-7.**

説明: B3 リテラルでは、各文字は 0 から 7 のいずれかでなければならない。

---

**IBM3522I E A DECIMAL exponent is required.**

説明: FLOAT 定数内の E のあとには、1 つ以上の 10 進数 (任意で直前に符号が付けられる) が必要である。

---

**IBM3523I E A second argument to the BUILTIN name built-in must be supplied for arrays with more than one dimension. A value of 1 is assumed.**

説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組み込み関数を 2 次元以上の配列に適用する場合は、2 つの引数が必要である。

```
dc1 a(5,10) fixed bin;  
do i = 1 to lbound(a);
```

---

**IBM3524I E Second argument to BUILTIN name built-in is not positive. A value of 1 is assumed.**

説明: DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組み込み関数では、2 番目の引数は正の値でなければならない。

---

**IBM3525I E Second argument to BUILTIN name built-in is greater than the number of dimensions for the first argument. A value of dimension count is assumed.**

説明: LBOUND、HBOUND、および DIMENSION 組み込み関数に対する 2 番目の引数は、その配列引数の次元数以下でなければならない。

```
dc1 a(5,10) fixed bin;  
do i = 1 to lbound(a,3);
```

---

**IBM3526I E Repeated declaration of identifier is invalid and will be ignored.**

説明: レベル 1 の変数名は、同じブロック内で繰り返してはならない。

```
dc1 a char, a fixed;
```

---

**IBM3527I E Missing THEN assumed.**

説明: IF ステートメントには THEN キーワードが含まれている必要がある。

---

**IBM3530I E identifier is an array. ACTIVATE and DEACTIVATE are invalid for arrays.**

説明: スカラーのみを活動化できる。

---

**IBM3531I E identifier is a statement label. ACTIVATE and DEACTIVATE are invalid for labels.**

説明: ラベルは活動化できない。

---

**IBM3533I E THEN clause outside of an open IF statement is ignored.**

説明: THEN 文節が有効なのは、IF <式> の直後のみである。

```
%if a > b; %then;
```

---

**IBM3534I E ELSE clause outside of an open IF-THEN statement is ignored.**

説明: ELSE 文節が有効なのは、IF-THEN ステートメントの直後のみである。

```
do; if a > b then; end; else a = 0;
```

---

**IBM3536I E END label is not a label on any open group.**

説明: END ステートメントのラベルは、DO、PROCEDURE、または SELECT を開始するステートメントの LABEL と一致しなければならない。

```
a: do;
...
end b;
```

---

**IBM3537I E An END statement may be missing after an OTHERWISE unit. One will be inserted.**

説明: SELECT ステートメント内の OTHERWISE ユニットのあとでは、END ステートメントのみが有効である。

```
select;
  when ( ... )
    do;
    end;
  otherwise
    do;
    end;
display( ... );
```

---

**IBM3538I E %END statement found without any open %PROCEDURE, %DO or %SELECT statements. It will be ignored.**

説明: %END ステートメントは、%PROCEDURE-%END、%DO-%END、または%SELECT-%END グループの一部でなければならない。

---

**IBM3539I E STRINGSIZE condition raised while evaluating expression. Result is truncated.**

説明: コンパイル時のユーザー式の変換中に、ターゲット・ストリングがソースより短いことが検出され、それが原因で STRINGSIZE 条件が発生した。

---

**IBM3540I E STRINGRANGE condition raised while evaluating expression. Arguments are adjusted to fit.**

説明: SUBSTR 参照内のすべての引数が定数または制限付きの式である場合は、参照はコンパイル時に評価される。引数が SUBSTR 組み込み関数用に記述された規則に従っていない場合は、STRINGRANGE 条件が発生する。

```
a = substr( 'abcdef', 5, 4 );
```

---

**IBM3542I E LEAVE/ITERATE label is not a label on any open DO group.**

説明: LEAVE/ITERATE は、DO ループの開始でラベルを指定しなければならない。

```
%a: do jx = 1 to 1729;
    %leave b;
%end;
```

---

**IBM3543I E ITERATE/LEAVE statement is invalid outside an open DO statement. The statement will be ignored.**

説明: ITERATE/LEAVE ステートメントは、DO グループ内部でのみ有効である。

```
%a: do jx = 1 to 1729;
%end;
%leave a;
```

---

**IBM3544I E GX literals should contain a multiple of 4 hex digits.**

説明: GX リテラルは漢字ストリングを表すものであり、4 桁の 16 進数の倍数を指定しなければならない。

```
x = '00'gx;
```

---

**IBM3545I E Upper bound for dimension *dimension* number of array variable name is less than lower bound. Bounds will be reversed.**

説明: 変数の宣言で、上限が下限より小さい。これを訂正するために、上限と下限を入れ替える処理が行われる。例えば、`DECLARE x(3:1)` が、`DECLARE x(1:3)` に変更される。

---

**IBM3546I E Identifier is too long. It will be collapsed to identifier.**

説明: すべての ID は、31 バイト以下に収める必要がある。PL/I DBCS ID に含まれる DBCS 文字は 14 文字以下でなければならない。

---

**IBM3547I E B assumed to complete iSUB.**

説明: 形式 `1su` の言語エレメントがない。

```
dc1 a(10) def b(1su, 1sub );
```

---

**IBM3548I E Digit in BINARY constant is not zero or one.**

説明: BINARY 定数では、個々の桁の数字は 0 または 1 でなければならない。

---

**IBM3549I E Characters in BIT literals must be 0 or 1.**

説明: BIT リテラルでは、各文字は 0 または 1 でなければならない。

---

**IBM3550I E Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It will be ignored.**

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではない。これは、NOT 記号または OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、それらの記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT および OR コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM3551I E Characters in hex literals must be 0-9 or A-F.**

説明: 16 進数リテラルでは、各文字は 0 から 9 または A から F のいずれかでなければならない。

---

**IBM3552I E The statement element *character* is invalid. The statement will be ignored.**

説明: 指定されているエレメントが無効なため、入力したステートメントは解析できなかった。

---

**IBM3553I E Use of underscore as initial character in an identifier accepted although invalid under LANTLR(SAA).**

説明: LANTLR(SAA) のもとでは、ID は英字または特別言語文字で開始されなければならない。この場合、ID は下線で始まっていてはならない。LANGLVL(SAA2) のもとでは、ID は下線で始まってもよいが、`_IBM` で始まる名前は IBM で使用するために予約されている。

---

**IBM3556I E Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be an OR symbol.**

説明: 示されている文字は、PL/I 文字セットの一部ではなく、直後に同じ文字が続いていた。これは、OR 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。OR コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM3557I E Character with decimal value *n* does not belong to the PL/I character set. It is assumed to be a NOT symbol.**

説明: 示されている文字は PL/I 文字セットの一部ではなく、直後に `=`、`<`、または `>` 記号が続いていた。これは、NOT 記号を含むプログラムを別のマシンから移植したときに、この記号が PL/I 文字セットに含まれていない文字に変換されたことを示す。NOT コンパイラー・オプションを使用すると、この問題の回避に役立つ。

---

**IBM3565I E Statement type resolution requires too many lexical units to be examined. The statement will be ignored.**

説明: ステートメントが割り当てであるか別の PL/I ステートメントであるかを判別するには、そのステートメントの多くのエレメントを調べる必要がある。検査するエレメントの数が多すぎると、コンパイラーはそのステートメントにエラーのフラグを立てる。例えば、次のステートメントは、レクサー (lexer: 字句解析プログラム) が等号を検出するまでは `DECLARE` と見なされる。

```
dcl ( a, b, c ) = d;
```

---

**IBM3567I E Statements inside a SELECT must be preceded by a WHEN or an OTHERWISE clause.**

説明: WHEN または OTHERWISE が欠落している可能性がある。

```
select;
  i = i + 1;
  when ( a > 0 )
  ...
```

---

**IBM3570I E Extent expression is negative. It will be replaced by the constant 1.**

説明: エクステントは正の値でなければならない。

```
dcl x char(-10);
```

---

**IBM3580I E Parameter keyword may not be set more than once. First setting is assumed.**

説明: ステートメント形式のプロシージャ呼び出しの場合、各パラメーターは 1 回だけ指定できる。それ以降の指定は無視される。次のサンプル・コードの場合、P の両方の呼び出しに対して 17 が戻される。

```
%p: proc( a ) stmt returns( char );
  dcl a char;
  return( a );
%end;
%act p;

display( p a(17) a(29); );

display( p(17) a(29); );
```

---

**IBM3581I E Unknown keyword in statement-form procedure invocation. keyword and any argument are ignored.**

説明: ステートメント形式のプロシージャ呼び出しの場合、指定するキーワードは、そのプロシージャのパラメーターの名前でなければならない。

```
%p: proc( a ) stmt returns( char );
```

```
dcl a char;
  return( a );
%end;
%act p;

display( p a(17) b(29); );
```

---

**IBM3582I E Parameter identifier is not declared.**

説明: プロシージャの各パラメーターを宣言する必要がある。

```
%a: proc( b, c );
  dcl b fixed;
%end;
```

---

**IBM3583I E Labels on keyword statements are invalid and ignored.**

説明: DECLARE ステートメント、または WHEN 文節や OTHERWISE 文節では、ラベルは許可されない。

---

**IBM3589I E The identifier identifier is not the name of a built-in function. The BUILTIN attribute will be ignored.**

説明: BUILTIN 属性は、組み込み関数または組み込みサブルーチンの名前である ID にのみ適用できる。

---

**IBM3590I E The attribute keyword is not supported and will be ignored.**

説明: 示されている属性は、マクロ機能でサポートされない。

```
%dcl a char external;
```

---

**IBM3591I E Right parenthesis will be assumed at end of argument list.**

説明: 右括弧が欠落している可能性がある。対になっていない括弧がソース内にあると、ソース内の対になっていない左括弧より後ろの文字はすべて、関数に対するパラメーターであると解釈される。対になっていない括弧が置き換えストリングにあると、そのストリング内の対になっていない左括弧より後ろの文字がすべて、関数に対するパラメーターであると解釈される。

---

**IBM3603I E** The end of the source was reached before the logical end of the program. Null statements and END statements will be inserted as necessary to complete the program.

説明: ソースには、すべての PROCEDURE に対する END ステートメント、DO グループ、SELECT ステートメント、およびすべての IF-THEN 文節と ELSE 文節に対するステートメントが入っている必要がある。

---

**IBM3604I E** The procedure name *proc-name* has already been declared. The explicit declaration of the procedure name will not be accepted.

説明: 内部プロシージャー用の宣言は許されない。

```
a: proc;  
  dcl b entry options(byvalue);  
  b: proc;
```

---

**IBM3609I E** A SELECT statement may be missing. A SELECT statement, without an expression, will be inserted.

説明: WHEN 文節または OTHERWISE 文節が SELECT ステートメントの外部で見つかった。

---

**IBM3610I E** Semicolon inserted after ELSE keyword.

説明: DO または SELECT などのステートメントを囲む END ステートメントが、ELSE のあとに必要なステートメントの前にある。

```
do;  
  if a > b then  
    ...  
  else  
end;
```

---

**IBM3612I E** Semicolon inserted after OTHERWISE keyword.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM3613I E** Semicolon inserted after THEN keyword.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM3614I E** Semicolon inserted after WHEN clause.

説明: END ステートメントの位置が間違っているか、またはセミコロンが欠落している。

---

**IBM3615I E** Source file does not end with the logical end of the program.

説明: ソース・ファイルには、最初の PACKAGE または PROCEDURE をクローズしている END ステートメントのあとに、ステートメントが含まれている。これらのステートメントは無視されるが、その存在がプログラミング・エラーを示す場合もある。

---

**IBM3616I E** Subscripts have been specified for the variable *variable name*, but it is not an array variable.

説明: 添え字を指定できるのは、配列のエレメントの場合だけである。

---

**IBM3617I E** Second argument in SUBSTR reference is less than 1. It will be replaced by 1.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM3618I E** Second argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM3619I E** Third argument in SUBSTR reference is less than 0. It will be replaced by 0.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

**IBM3620I E** Third argument in SUBSTR reference is too big. It will be trimmed to fit.

説明: メッセージのように処理されないと、STRINGRANGE 条件が発生する。

---

---

**IBM3621I E More than 15 dimensions have been specified. Excess will be ignored.**

説明: 変数の最大許容次元数は、すべての継承次元も含めて、15 である。

---

**IBM3624I E End-of-comment marker found when there are no open comments. Marker will be ignored.**

説明: コメント開始マーカーがないのに、\*/ が見つかった。

---

**IBM3625I E There is no compiler directive *directive*. Input up to the next semicolon will be ignored.**

説明: サポートされるコンパイラー・ディレクティブのリストについては、「言語解説書」を参照のこと。

---

**IBM3626I E Listing control statement must start with a percent symbol.**

説明: リスト制御ステートメントは、プリプロセッサ・プロシージャ内にあっても、先頭に "%" を付ける必要がある。

```
%a: proc;  
  skip;  
%end;
```

---

**IBM3628I E X literals should contain a multiple of 2 hex digits.**

説明: X リテラルには、奇数の桁数が含まれていてはならない。

---

**IBM3638I E Excess arguments for ENTRY *ENTRY name* ignored.**

説明: ENTRY 参照の中に指定された引数の数が、その ENTRY の宣言でパラメーターとして定義されている数より多い。

```
dcl e entry( fixed bin );  
call e( 1, 2 );
```

---

**IBM3639I E Excess arguments for *BUILTIN name* built-in ignored.**

説明: 示されている組み込み関数には、その組み込み関数でサポートされる数より多い数の引数が指定されている。

```
i = acos( j, k );
```

---

**IBM3650I E *keyword* keyword accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: 示されているキーワード (下記の例では UNSIGNED) は、SAA レベル 1 言語に定義されていない。

```
dcl x fixed bin unsigned;
```

---

**IBM3651I E Use of S, D and Q constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義に、S、D、および Q 浮動小数点定数が含まれていない。

---

**IBM3652I E Use of underscores in constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、数値定数および 16 進定数の中で下線を使用することは許されない。

---

**IBM3653I E Use of asterisks for names in declares accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義では、構造体エレメント名にアスタリスクを使用することは許されない。

---

**IBM3654I E Use of XN constants accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: SAA レベル 1 言語の定義には、XN 定数は含まれない。

---

**IBM3656I E Use of 3 arguments with *BUILTIN name* built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).**

説明: LANGLVL(SAA) のもとでは、VERIFY および INDEX 組み込み関数は、引数を 2 個だけとるものと見なされる。



```
i = verify( s, j, k );
```

---

**IBM3657I E** Use of 1 argument with *BUILTIN name* built-in accepted although invalid under LANGLVL(SAA).

説明: LANGLVL(SAA) のもとでは、DIM、LBOUND、および HBOUND 組み込み関数は 2 個の引数をとるものと見なされる。

```
i = dim( a );
```

---

**IBM3750I S** *note*

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 12 と共に使用される。

---

**IBM3760I S** Too few arguments have been specified for the ENTRY *ENTRY name*.

説明: 引数の数は、ENTRY 宣言内のパラメーターの数に一致しなければならない。

---

**IBM3761I S** Procedures may not be nested.

説明: マクロ・プロシーチャーをネストすることはできない。

---

**IBM3762I S** No percent statements are allowed inside procedures.

説明: プロシーチャーの内側では、ステートメントをパーセントで始めてはならない。次の例の %DCL は、DCL にする必要がある。

```
%a: proc( x ) returns( char );
    %dcl x char;
    return( '<' || x || '>' );
%end;
```

---

**IBM3763I S** Not enough virtual memory is available to continue the compile.

説明: コンパイルには使用可能な量より多くの仮想メモリが必要である。コンパイラー・オプション NOTEST、NOXREF、NOATTRIBUTES、NOAGGREGATE のうちの 1 つ以上を指定すると役立つことがある。

---

**IBM3764I S** *BUILTIN name* argument must be a parameter.

説明: 式には、示されている組み込み関数が入っているが、この関数にはパラメーターでない引数がある。

---

**IBM3765I S** *BUILTIN name* argument must be a reference.

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その引数が参照ではない。

---

**IBM3768I S** The use of asterisks as subscripts is not permitted in the macro facility.

説明: マクロ機能の場合、すべての添え字がスカラー式でなければならない。

---

**IBM3769I S** Argument to *BUILTIN name* built-in must have type CHARACTER(1) NONVARYING.

説明: これは RANK 組み込み関数に適用される。

---

**IBM3770I S** First argument to *BUILTIN name* built-in must be an array.

説明: 式には、示されている組み込み関数が含まれているが、その最初の引数が配列ではない。このメッセージは、例えば DIMENSION、HBOUND、および LBOUND 組み込み関数に適用される。

---

**IBM3772I S** Third argument to *BUILTIN name* built-in would force STRINGRANGE.

説明: 組み込み関数 INDEX または VERIFY のいずれかに第 3 引数を指定する場合、その引数は正の値でなければならない。

---

**IBM3773I S** Second argument to *BUILTIN name* built-in must be nonnegative.

説明: 組み込み関数 CHARACTER、BIT、および GRAPHIC の 2 番目の引数は 0 以上でなければならない。

---

**IBM3774I S** Too few arguments have been specified for the *BUILTIN name* built-in.

説明: 必要最低数の引数を指定する必要がある。

---

**IBM3778I S Syntax of the %INCLUDE statement is incorrect.**

説明: %INCLUDE のあとには、名前とセミコロンか、または括弧で囲んだ 2 番目の名前とセミコロンを指定する必要がある。

---

**IBM3779I S File specification after %INCLUDE is too long.**

説明: ファイル指定の最大長は 8 文字である。

---

**IBM3780I S File specification missing after %INCLUDE.**

説明: %INCLUDE のあとにはファイル名が必要である。セミコロンだけを指定することはできない。

---

**IBM3781I S Procedures may have no more than 63 parameters.**

説明: 余分なパラメーターが proc ステートメントから削除される。

---

**IBM3789I S Index number *index number* into the variable *variable name* is less than the lower bound for that dimension.**

説明: このようなステートメントを実行すると、記憶保護例外が発生する可能性がきわめて高くなる。

```
%dcl a(5:10) fixed;  
%a(1) = 0;
```

---

**IBM3790I S Index number *index number* into the variable *variable name* is greater than the upper bound for that dimension.**

説明: このようなステートメントを実行すると、記憶保護例外が発生する可能性がきわめて高くなる。

```
%dcl a(5:10) fixed;  
%a(20) = 0;
```

---

**IBM3791I S Each dimension of an array must contain no more than 2147483647 elements.**

説明: 配列用の DIMENSION 組み込み関数の値を計算することが必要である。DECLARE x(x:y) では、(

y-x+1) が 214748648 未満でなければならない。

---

**IBM3792I S Array variable name has too many elements. Bounds set to 1.**

説明: 配列は、2\*\*20 までのエレメントに制限されている。

---

**IBM3793I S Too few subscripts specified for the variable *variable name*.**

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

---

**IBM3794I S Too many subscripts specified for the variable *variable name*.**

説明: 変数に与えられる添え字の数は、その変数の次元数と同じでなければならない。

---

**IBM3796I S Array expressions cannot be assigned to non-arrays, and if any target in a multiple assignment is an array, then all the targets must arrays.**

説明: 配列式は、構造体やスカラーなどに割り当てることはできない。

---

**IBM3797I S RETURN statement without an expression is invalid inside a PROCEDURE that specified the RETURNS attribute.**

説明: 関数内のすべての RETURN ステートメントには、戻される値を指定しなければならない。

```
%a: proc returns( fixed );  
  
    return;  
%end;
```

---

**IBM3798I S RETURN statement with an expression is invalid inside a PROCEDURE that did not specify the RETURNS attribute.**

説明: RETURN(x) の形式のステートメントが有効なのは、RETURNS 属性と共に定義されている PROCEDURE の中で使用する場合のみである。

```
%a: proc;  
  
    return( 'this is invalid' );  
%end;
```

---

**IBM3800I S Function *function name* contains no RETURN statement.**

説明: 関数には RETURN ステートメントが少なくとも 1 つは含まれていなければならない。

---

**IBM3801I S Target in assignment is invalid.**

説明: 割り当てのターゲットは、文字または固定エレメント参照でなければならない。疑似変数はサポートされない。

---

**IBM3802I S Statement labels may not be used in expressions.**

説明: ステートメント・ラベルを使用できるのは、ステートメント GOTO、LEAVE、および ITERATE の中だけである。

---

**IBM3803I S Target in concatenate-equals assignment must have type char.**

説明: ターゲットが fixed の複合連結割り当てはサポートされない。

```
%dcl a fixed;

%a = '0';
%a ||= '1';
```

---

**IBM3804I S Target in arithmetic-equals assignment must have type fixed.**

説明: ターゲットが文字である複合算術割り当てはサポートされない。

```
%dcl a char;

%a = '0';
%a += '1';
```

---

**IBM3811I S Expression contains too many nested subexpressions.**

説明: コンパイラーが式を評価するために使用するスペースを使い果たした。式をもっと単純な式に書き直す必要がある。

---

**IBM3812I S Result of concatenating a string of length *string length* to a string of length *string length* would produce a string that is too long.**

説明: 連結の結果、ストリングの最大許容長を超えるストリング長になってはならない。

---

**IBM3813I S Result of BUILTIN name applied *repetition value* times to a string of length *string length* would produce a string that is too long.**

説明: COPY および REPEAT の結果、ストリングの最大許容長を超えるストリング長になってはならない。

---

**IBM3814I S Unsupported use of aggregate expression.**

説明: 有効な集合式は、組み込み関数 HBOUND または LBOUND の最初の引数に配列名を使用する式だけである。

---

**IBM3815I S Operand in bit operation must have length less than 32768.**

説明: ビット演算は、長さが 32767 未満のストリングに制限されている。

---

**IBM3816I S Second and third arguments to the TRANSLATE built-in function must have length less than 32768.**

説明: TRANSLATE 組み込み関数は、第 2 引数または第 3 引数が 32767 文字を超えるとサポートされない。

---

**IBM3817I S Result of BUILTIN name would exceed maximum string length.**

説明: 組み込み関数 COMMENT または QUOTE の結果は、サポートされている最大長を超える長さのストリングになってはいけない。

---

**IBM3820I S Under the INCONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro procedure name is invalid unless the colon follows immediately after the name.**

説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ名として使用する必要がある場合は、名前と同じ行にコロンを付ける。

---

**IBM3821I S** Under the INONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro statement label is invalid unless the colon follows immediately after the name.

説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ・ステートメント・ラベルとして使用する必要がある場合は、名前と同じ行にコロンを付ける。

---

**IBM3822I S** Under the INONLY option, the use of INCLUDE or XINCLUDE as a macro variable that is the target of an assignment is invalid unless the equals sign follows immediately after the name.

説明: INCLUDE または XINCLUDE をマクロ変数名として使用する必要がある場合は、名前と同じ行の割り当てに等号を付ける。例えば、次の最初の代入を 2 番目の割り当てに変更する。

```
%xinclude
= 17;

%xinclude = 17;
```

---

**IBM3837I S** GOTO target is inside a (different) DO loop.

説明: GOTO のターゲットは DO ループの中にあってはならない。ただし、GOTO 自身が DO ループ内にある場合を除く。

---

**IBM3841I S** The INCLUDE file *include-file-name* could not be opened.

説明: INCLUDE ファイルが見つからなかったか、または検出されてもオープンできなかった。

---

**IBM3842I S** Statements are nested too deep.

説明: PROCEDURE、DO、SELECT、および類似のステートメントのネスト数が、コンパイラーでサポートされている数より多い。もっと単純になるようにプログラムを書き直す必要がある。

---

**IBM3844I S** The function name built-in is not supported.

説明: 示されている組み込み関数に対するサポートは中止された。

---

**IBM3846I S** The *keyword* statement is not supported.

説明: 示されているステートメントに対するサポートは中止された。

---

**IBM3848I S** Use of iSUB is not supported.

説明: iSUB は構文検査の中でのみサポートされる。

---

**IBM3853I S** Nesting of DO statements exceeds the maximum.

説明: DO ステートメントの最大ネスト深度は 100 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM3854I S** Nesting of IF statements exceeds the maximum.

説明: IF ステートメントの最大ネスト深度は 100 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM3855I S** Nesting of SELECT statements exceeds the maximum.

説明: SELECT ステートメントの最大ネスト深度は 50 である。プログラムを単純化する必要がある。

---

**IBM3856I S** Nesting of blocks exceeds the maximum.

説明: ブロックの最大ネスト深度は 30 である。

---

**IBM3870I S** The fetch of the CICS backend failed.

説明: CICS モジュールがアクセス可能かどうかを検査し、アクセス可能でなければこのエラーを IBM に報告してください。

---

**IBM3871I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to perform its initialization.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3872I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to parse its options.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3873I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to build and emit the local declares.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3874I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to translate an EXEC statement.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3875I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to translate a CICS macro (such as DFHVALUE).

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3876I S** The CICS backend reported an internal error while attempting to perform its termination.

説明: IBM にこのエラーを報告してください。

---

**IBM3909I S** The *attribute* attribute conflicts with the *attribute* attribute.

説明: 示されている属性 (例えば PARAMETER と INITIAL) は、同時には指定できない。

---

**IBM3911I S** The statement label *character* has already been declared.

説明: ブロック内ではすべてのステートメント・ラベルは、固有のものでなければならない。

---

**IBM3914I S** GOTO target must be a LABEL reference.

説明: GOTO x の x は LABEL 型でなければならない。x の型は FORMAT であってはならない。

---

**IBM3915I S** GOTO target must be a scalar.

説明: GOTO x の x は配列であってはならない。

---

**IBM3916I S** The procedure *proc-name* has already been defined.

説明: 姉妹プロシージャーは、同じ名前を持つことはできない。

```
% b: proc;  
% end;  
% b: proc;  
% end;
```

---

**IBM3917I S** Program contains no valid source lines.

説明: ソースにまったくステートメントが含まれていないか、または含まれているステートメントがすべて無効である。

---

**IBM3920I S** FIXED BINARY constant contains too many digits.

説明: FIXED BINARY 定数に含まれる桁数は、31 桁以下でなければならない。

---

**IBM3921I S** FIXED DECIMAL constant contains too many significant digits.

説明: FIXED DECIMAL 定数の最大精度は、LIMITS コンパイラー・オプションの FIXEDDEC サブオプションで設定する。

---

**IBM3922I S** Exponent in FLOAT BINARY constant contains more digits than the implementation maximum.

説明: FLOAT BINARY 定数の指数に 5 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM3923I S** Mantissa in FLOAT BINARY constant contains more significant digits than the implementation maximum.

説明: FLOAT BINARY 定数の仮数に 64 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM3924I S** Exponent in FLOAT DECIMAL constant contains more digits than the implementation maximum.

説明: FLOAT BINARY 定数の指数に 4 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM3925I S** Mantissa in FLOAT DECIMAL constant contains more significant digits than the implementation maximum.

説明: FLOAT BINARY 定数の小数部に 18 桁を超える値を含めることはできない。

---

**IBM3926I S** Constants must not exceed 30720 bytes.

説明: ユーザー・プログラムで定数を示すために使用するバイト数は、30720 を超えてはならない。この制限は、内部表記が外部表記の 8 分の 1 のバイト数しか消費しないビット・ストリングにも適用される。

---

**IBM3927I S Numeric constants must be real, unscaled and fixed.**

説明: 複素定数、スケール定数、または浮動小数点定数は、整数値に変換される。

```
%a = 3.1415;
```

---

**IBM3928I S Only B, BX and X string suffixes are supported.**

説明: G、GX、M、A、および E のストリング・サフィックスはサポートされていない。

```
%a = '31'e;
```

---

**IBM3930I S Invalid syntax in statement-form of procedure invocation. Text up to next semicolon will be ignored.**

説明: ステートメント形式のプロシーチャーの呼び出しの場合は、コメントまたはキー名の一部ではない文字はすべて、1 つのキーの後ろに括弧で囲む必要がある。例えば、次の display ステートメントの "+" は存在してはならない。

```
%a: proc( x ) stmt returns( char );
    dcl x char;
    return( 1729 );
%end;
%act a;

display( a + x(5); );
```

---

**IBM3931I S Under the FIXED(DEC) option, decimal constants must have no more than 5 digits.**

説明: FIXED(BIN) を指定した場合は、任意の有効な FIXED BIN(31) 数を示す 10 進定数がサポートされる。

---

**IBM3943I S The number of error messages allowed by the FLAG option has been exceeded.**

説明: メッセージ数が FLAG コンパイラー・オプションで設定されている制限を超過すると、コンパイルは終了する。

---

**IBM3948I S *condition-name* condition with ONCODE=*oncode-value* raised while evaluating expression.**

説明: 式が評価された結果、示されている条件が発生した。

```
%a = a / 0;
```

---

**IBM3949I S Parameter name *identifier* appears more than once in parameter list.**

説明: パラメーター・リスト内の ID はどれも固有のものでなければならない。

```
a: proc( b, c, b );
```

---

**IBM3956I S ITERATE is valid only for iterative DO-groups.**

説明: ITERATE は 型 I の DO グループの中では使用できない。

---

**IBM3957I S RETURN statement outside of a PROCEDURE is invalid.**

説明: RETURN ステートメントは、プロシーチャー内部でのみ有効である。

---

**IBM3958I S INCLUDE statement inside of a PROCEDURE is invalid.**

説明: INCLUDE ステートメントは、プリプロセッサー・プロシーチャーの外部でのみ許可される。

```
%a: proc;
    include sample;
%end;
```

---

**IBM3959I S Length of parameter exceeds 32767 bytes.**

説明: マクロ・プロシーチャーに対するパラメーターの長さは、32767 バイトを超えてはならない。



---

**IBM3960I S End-of-source has been encountered after an unmatched comment marker.**

説明: コメント終了マークが欠落している可能性がある。

---

**IBM3961I S End-of-source has been encountered after an unmatched quote.**

説明: 右引用符が欠落している可能性がある。

---

**IBM3962I S Replacement value contains no end-of-comment delimiter. A comment delimiter will be assumed at the end of the replacement value.**

説明: コメント終了マークが欠落している可能性がある。

---

**IBM3963I S Replacement value contains no end-of-string delimiter. A string delimiter will be assumed at the end of the replacement value.**

説明: 右引用符が欠落している可能性がある。

---

**IBM3964I S ANSWER statement outside of a PROCEDURE is invalid.**

説明: ANSWER ステートメントは、プロシーチャー内部でのみ有効である。

---

**IBM3965I S ANSWER statement inside of a PROCEDURE with RETURNS is invalid.**

説明: ANSWER ステートメントは、関数の内部では無効である。

```
%a: proc returns( char );
    answer( 'this is invalid' );
    return( 'this is ok however' );
%end;
```

```
%b: proc;
    answer( 'this is valid' );
%end;
```

---

**IBM3966I S Source has caused too many rescans.**

説明: 置き換えストリングの再スキャンや、プリプロセッサから戻されたストリングの再スキャンにより、さらに置き換えが引き起こされ、その結果また再スキャンが行われるなどして、再スキャンの最大深度を超えた。

例えば次のマクロは、コンパイル中の dcl ステートメントの数をカウントすることを目的としているが、実行するとこのメッセージが出される。 %ACTIVATE ステートメントに NORESCAN を指定した場合は、このマクロは正しく機能する。

```
%dcl dcl_Count fixed;
%dcl_Count = 0;

%dcl: proc returns( char );
    dcl_count = dcl_count + 1;
    return( 'dcl' );
%end;

%activate dcl;
```

---

**IBM3974I S Every shift-in character after the left margin of a source line must have a matching shift-out character before the right margin of the same line.**

説明: DBCS シフト・コードは対になっている必要がある。

---

**IBM3975I S Every shift-in character within a string generated for rescan must have a matching shift-out character within that same string.**

説明: DBCS シフト・コードは対になっている必要がある。

---

**IBM3976I S DBCS characters are allowed only in G and M constants.**

説明: 16 進ストリング (接尾部 X、BX、B4、GX、XN のいずれかで終わっているストリング)、ビット・ストリング (接尾部 B で終わっているストリング)、および接尾部 M で終わっていない文字ストリングには、SBCS 文字以外の文字を含めることはできない。

---

**IBM3977I S SBCS characters are not allowed in G constants.**

説明: SBCS と DBCS の混在が許されるのは M 定数の中だけである。

---

**IBM3978I S Invalid use of SBCS encoded as DBCS.**

説明: コメント以外では、SBCS を DBCS としてエンコードできるのは ID の一部として使用する場合だけである。

---

**IBM3980I S Recursion of procedures is not allowed.**

説明: プロシーチャーは、直接的にも間接的にもそれ自体を呼び出してはならない。

---

**IBM3981I S *BUILTIN function* may not be used outside a procedure.**

説明: 示されている組み込み関数はプロシーチャーの中でしか使用できない。

---

**IBM3982I S Procedure *procedure-name* is undefined and cannot be invoked.**

説明: プロシーチャーは、あらかじめ (正しく) 定義しておかなければ呼び出すことができない。

---

**IBM3983I S Premature end-of-source in scan.**

説明: 右括弧またはセミコロンが要求された場合、ソースは走査の途中で終了される。

```
%a: proc() stmt returns( char );
      return( '1729' );
%end;
%dcl a entry;

a /* and no more source follows */
```

---

**IBM3984I S File *filename* could not be opened.**

説明: 示されているソース・ファイルがオープンできなかった。ファイルの名前が正しいこと、そして、そのファイルが存在し読み取り可能であることを確認する必要がある。

---

**IBM3997I S Internal preprocessor error: no WHEN clause satisfied within *module name***

説明: このメッセージは、マクロ・プリプロセッサに関してエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM3998I S Internal preprocessor error: protection exception in *module name***

説明: このメッセージは、コンパイラーのフロントエンドにエラーがあることを示している。IBM に問題を報告してください。

---

**IBM3999I U *note***

説明: このメッセージは、%NOTE ステートメントで戻りコード 16 と共に使用される。

---

## 第 7 章 コード生成メッセージ (5000 から 5999)

---

### IBM5001 INTERNAL COMPILER ERROR: *text*

#### 説明:

コンパイル中に内部コンパイラー・エラーが発生した。  
サービス担当者に連絡してください。

---

### IBM5002 Virtual storage exceeded.

#### 説明:

ファイルのコンパイル中に、コンパイラーがメモリー不足になった。大きなファイル、または大きな関数を使用するプログラムでは、この問題が発生する場合がある。非常に大きなプログラムの場合、実行できる最適化の量が制限されることに注意する。

実行中の大規模なプロセスをシャットダウンし、スワップ・パスが十分に大きいことを確認して、最適化はオフにし、仮想記憶域をより大きなサイズに再定義する。また、ファイルをいくつかの小さなセクションに分割したり、関数を短縮したりすることもできる。

---

### IBM5003 *text*

#### 説明:

一般エラー・メッセージ。

---

### IBM5031 Unable to open file *filename*.

#### 説明:

コンパイラーは示されているファイルをオープンできない。

ファイル名が正しいことを確認する。正しいファイルが指定されていることを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

---

### IBM5032 An error occurred while reading file *filename*.

#### 説明:

示されているファイルからの読み取り中にコンパイラーがエラーを検出した。

正しいファイルが読み取られていて、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にあ

る場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。

---

### IBM5033 An error occurred while writing to file *filename*.

#### 説明:

示されているファイルへの書き込み中にコンパイラーがエラーを検出した。

正しいファイルが指定されていることを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。

---

### IBM5034 Read-only pointer initialization of dynamically allocated object *name* is not valid.

#### 説明:

読み取り専用ポインターの値は、コンパイル時に既知でなければならない。ポインターは、読み取り専用であると同時に、動的に割り振られたオブジェクトを指しているではない。これは、ポイント先のアドレスが実行時にしか分からないためである。

コードを変更して、ポインターが読み取り専用の値によって初期化されるようにするか、ポインターを読み取り/書き込みにする。

---

### IBM5051 Function *function-name* exceeds size limit.

#### 説明:

関数の ACU が、INLINE サブオプションに指定された LIMIT を超えた。

可能ならば、LIMIT を増やす。

---

### IBM5052 Function *function-name* is (or grows) too large to be inlined.

#### 説明:

関数が大きすぎて、インライン展開によって別の関数にすることができない。

---

### IBM5053 Some calls to function *function-name* cannot be inlined.

#### 説明:

少なくとも 1 つの呼び出しが直接再帰的であるか、間違った数のパラメーターが指定されている。

指定したすべての関数呼び出しを検査し、パラメーター数が関数定義に一致していることを確認する。

---

**IBM5054**      **Automatic storage for function**  
*function-name* **increased to over** *value*.

**説明:**

インライン展開のために、関数用の自動ストレージのサイズが少なくとも 4 KB 増加した。

大きな自動ストレージを使用する関数のインライン展開は避ける。

---

**IBM5055**      **Parameter area overflow while compiling**  
*function-name*. **Parameter area size**  
**exceeds the allowable limit of** *value*.

**説明:**

関数のパラメーター域は、その関数用の自動ストレージ内で最初の 4K にある。このメッセージは、パラメーター域が 4K に収まらないことを示している。

渡すパラメーターの数を減らすか、大きな構造体そのものの代わりに構造体のアドレスを渡すことによって、パラメーター域のサイズを削減する。

---

**IBM5057**      *name* **section size cannot exceed 16777215**  
**bytes. Total section size is** *value* **bytes.**

**説明:**

Data セクションまたは Code セクションのサイズは、16M を超えてはならない。

入力ソース・ファイルを、別個にコンパイルできる複数のソース・ファイルに分割する。

---

**IBM5101**      **Maximum spill size of** *value* **is exceeded**  
**in function** *function-name*.

**説明:**

予備サイズは、予備域のサイズである。予備域は、マシン・レジスターの数がプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5102**      **Spill size for function** *function-name* **is**  
**not sufficient. Recompile specifying**  
**option SPILL(n) where** *lower-limit* **< n**  
**<=** *upper-limit*.

**説明:**

予備サイズは、予備域のサイズである。予備域は、マシン・レジスターの数がプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。

SPILL(n) オプション *lower-limit* < n <= *upper-limit* を使用するか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。

---

**IBM5103**      **Internal error while compiling function**  
*function-name* **text.**

**説明:**

コンパイル中に内部コンパイラー・エラーが発生した。サービス技術員に連絡するか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。

---

**IBM5104**      **Internal error while compiling function**  
*function-name* **text. Compilation**  
**terminated.**

**説明:**

重大度の高い内部コンパイラー・エラーが発生した。

サービス担当者に連絡してください。このメッセージのテキストを伝えられるように準備しておいてください。

---

**IBM5105**      **Constant table overflow compiling**  
**function** *function-name*. **Compilation**  
**terminated.**

**説明:**

定数テーブルは、整数と浮動小数点の定数をすべて保管するテーブルである。

プログラム内の定数の数を減らして再コンパイルする。

---

**IBM5106**      **Instruction in function** *function-name* **on**  
**line** *value* **is too complex. Compilation**  
**terminated.**

**説明:**

示されている命令が複雑すぎて最適化できない。

命令の複雑さを軽減して再コンパイルするか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。

---

**IBM5107**      **Program too complex in function**  
*function-name*.

**説明:**

示されている関数が複雑すぎて最適化できない。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルするか、別の OPT レベルを指定して再コンパイルする。

---

**IBM5108**      **Expression too complex in function**  
*function-name*. 一部の最適化が実行されな  
かった。

**説明:**

示されている式が複雑すぎて最適化できない。

式の複雑さを減らすか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。

---

**IBM5109**      **Infinite loop detected in function**  
*function-name*. **Program may not stop.**

**説明:**

所定の関数で無限の可能性のあるループが検出されたので、コードを変更する必要がある。ただし、コンパイラはコードに問題がない場合でもこのメッセージを発行することがある。例えば、ループが ON ユニットから GOTO を介して終了した場合、コードを変更する必要がなくてもコンパイラはこのメッセージを発行することがある。

ループが終了するように再コーディングする。

---

**IBM5110**      **Loop too complex in function**  
*function-name*. 一部の最適化が実行されな  
かった。

**説明:**

示されているループが複雑すぎて最適化できない。

アクションは不要です。

---

**IBM5111**      **Division by zero detected in function**  
*function-name*. **Runtime exception may**  
**occur.**

**説明:**

示されている関数内でゼロ除算が検出された。

式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。

---

**IBM5112**      **Exponent is non-positive with zero as**  
**base in function** *function-name*. **Runtime**  
**exception may occur.**

**説明:**

浮動小数点のゼロ除算が行われる可能性がある。

式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。

---

**IBM5113**      **Unsigned division by zero detected in**  
**function** *function-name*. **Runtime exception**  
**may occur.**

**説明:**

示されている関数内でゼロ除算が検出された。

式を再コーディングしてゼロ除算を除去する。

---

**IBM5114**      **Internal error while compiling function**  
*function-name text*.

**説明:**

重大度の低い内部コンパイラ・エラーが発生した。

サービス技術員に連絡するか、別の OPT レベルを指定してコンパイルする。

---

**IBM5115**      **Control flow too complex in function**  
*function-name*; **number of basic blocks or**  
**edges exceeds value.**

**説明:**

基本ブロックは、制御フローのない実行可能コードのセグメントである。エッジは、基本ブロック間での可能な制御フローのパスである。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5116**      **Too many expressions in function**  
*function-name*; **number of symbolic**  
**registers exceeds value.**

**説明:**

シンボリック・レジスタは、計算結果の内部表現である。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5117**      **Too many expressions in function**  
*function-name*; **number of computation**  
**table entries exceeds value.**

**説明:**

計算テーブルは、プログラムの変換によって生成された命令すべてを収容するテーブルである。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5118**      **Too many instructions in function**  
*function-name*; **number of procedure list**  
**entries exceeds value.**

**説明:**

プロシーチャー・リストは、各サブプログラムの変換によって生成された命令すべてのリストである。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5119      Number of labels in function**  
*function-name exceeds value.*

**説明:**

ラベルは、プログラムの実行パスが変更される可能性がある場合に必ず使用される (例: if ステートメント、switch ステートメント、ループ、条件式)。

プログラムの複雑さを軽減して再コンパイルする。

---

**IBM5120      Too many symbols in function**  
*function-name; number of dictionary entries exceeds value.*

**説明:**

ディクショナリー・エントリーは、変数、集合体メンバー、ストリング・リテラル、ポインター参照解除、関数名、および内部コンパイラー・シンボルに対して使用される。

低い最適化レベルでプログラムをコンパイルするか、変数または式の数減らしてプログラムを単純化する。

---

**IBM5121      Program is too complex in function**  
*function-name. Specify MAXMEM option value greater than value.*

**説明:**

一部の最適化が実行されなかった。

さらに最適化を行うには、推奨値を使用してオプション MAXMEM を指定し、再コンパイルする。

---

**IBM5122      Parameter area overflow while compiling**  
*name. Parameter area size exceeds value.*

**説明:**

パラメーター域は、関数呼び出しの際にパラメーターを渡すために使用される。そのサイズは、参照パラメーターの数、値パラメーターの数とサイズ、および使用されるリンケージによって異なる。

渡すパラメーターの数を減らすか、大きな構造体そのものの代わりに構造体のアドレスを渡すことによって、パラメーター域のサイズを削減する。

---

**IBM5123      Spill size for function *function-name* is exceeded. Recompile specifying option SPILL(n) where *lower-limit* < *n* <= *upper-limit* for faster spill code.**

**説明:**

予備サイズは、1 次予備域の予約サイズである。予備域は、マシン・レジスターの数がプログラムの変換に十分でない場合に割り振られるストレージである。

予備コードの生成を改良するには、SPILL(n) オプションに *lower-limit* < *n* <= *upper-limit* を指定して再コンパイルする。

---

**IBM5130      An error occurred while opening file**  
*filename.*

**説明:**

コンパイラーは示されているファイルをオープンできない。

ファイル名が正しいことを確認する。正しいファイルがオープンされていて、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

---

**IBM5131      An error occurred while writing file**  
*filename.*

**説明:**

コンパイラーは示されているファイルを読み取ることができない。

ファイル名が正しいことを確認する。書き込み先のファイルが正しく、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

---

**IBM5132      An error occurred while closing file**  
*filename.*

**説明:**

コンパイラーは示されているファイルに書き込むことができない。

ファイル名が正しいことを確認する。正しいファイルがクローズされていて、ファイルに損傷がないことを確認する。ファイルが LAN ドライブ上にある場合は、LAN が正しく機能していることを確認する。また、ファイルが別のプロセスによってロックされているか、許可が十



分でないためにアクセスが拒否された可能性もある。

---

**IBM5141      Automatic area for *function-name* is too large**

**説明:**

自動データはスタック内にある。スタック・サイズは、ターゲット・マシンのアドレス可能性によって制限される。

大きな構造体や大きな配列をローカル変数とすることは避け、動的割り振りデータの使用を試みる。または、プロシージャをいくつかの小さなプロシージャに分割する。



---

## 第 8 章 SQL プリプロセッサ・メッセージ (7000 から 7999)

---

**IBM7021I E No PROCEDURE or PACKAGE statements were found.**

説明: SQL プリプロセッサは、PROCEDURE ステートメント、または PACKAGE ステートメントがプログラム内に存在することを前提としている。

---

**IBM7022I W No SQL statements were found in the program.**

説明: ソース・プログラムに SQL ステートメントがない。

---

**IBM7028I W Reference *var-name* is ambiguous.**

説明: 参照はすべてあいまいでないものでなければならない。

---

**IBM7029I E Host structure *var-name* contains a non-scalar member.**

説明: ホスト構造にはスカラー・メンバーだけが含まれていなければならない。

---

**IBM7030I E The indicator variable *var-name* is not declared as a scalar.**

説明: 標識変数は FIXED BIN(15) として宣言する必要がある。

---

**IBM7031I E Some members of the indicator variable array *var-name* are out of sequence.**

説明: 配列内に指定された標識変数は、1 から開始して順番になっていなければならない。

---

**IBM7032I I SQL comment is used.**

説明: 2 つのハイフン (--) のあとから行末までの文字は、コメントとして扱われる。

---

**IBM7034I W Host variables can not be arrays.**

説明: ホスト変数としての配列は許されない。

---

**IBM7035I E Host variable *var-name* does not have a valid host data type.**

説明: 無効なホスト・データ型がホスト変数として使用されている。

---

**IBM7036I E Host structure member *var-name* does not have a valid host data type.**

説明: 無効なホスト・データ型がホスト構造メンバーとして使用されている。

---

**IBM7037I I DECLARE TABLE statement is ignored.**

説明: DECLARE TABLE ステートメントは、ドキュメンテーション専用のステートメントとして扱われる。このステートメントは無視され、プログラムに影響を及ぼさない。

---

**IBM7038I I DECLARE STATEMENT statement is ignored.**

説明: DECLARE STATEMENT ステートメントは、ドキュメンテーション専用のステートメントとして扱われる。このステートメントは無視され、プログラムに影響を及ぼさない。

---

**IBM7040I I *sql-message***

説明: SQL 通知メッセージが戻された。

---

**IBM7041I W *sql-message***

説明: SQL 警告メッセージが戻された。

---

**IBM7042I E *sql-message***

説明: SQL エラー・メッセージが戻された。

---

**IBM7043I S *sql-message***

説明: SQL 重大エラー・メッセージが戻された。

---

**IBM7044I U *sql-message***

説明:

---

**IBM7045I U Fatal SQL Error *var-name* was returned from the Database.**

説明: 致命的なデータベース・エラーが発生した。データベースが正しくインストールされていることを確認する。

---

**IBM7046I U Fatal Error - PL/I User DB2 Logon Exit failed to load.**

説明: 致命的な SQL プリプロセッサ・エラーが発生した。ファイル IBMSUDB2.DLL が存在することを確認する。

---

**IBM7047I U Fatal Error - PL/I User DB2 Logon Exit caused an error.**

説明: 致命的な SQL プリプロセッサ・エラーが発生した。IBMSUDB2.DLL の提供者に連絡してください。

---

**IBM7050I U SQL Preprocessor Internal Error *error\_number* occurred.**

説明: SQL プリプロセッサが自身のコード内にエラーを検出した。

---

**IBM7053I E The string beginning with *var-name* does not have an ending string delimiter.**

説明: 示されているストリングの終了区切り文字が欠落していないかどうか、ステートメントを検査する。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7054I E The comment is not terminated.**

説明: コメントが正しく終了していない。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7055I E File *var-name* could not be opened.**

説明: ファイル "<filename>" が要求されたが、開くことができなかった。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7056I E A memory allocation error has occurred.**

説明: 処理中に、処理を継続するためのメモリーが足りなくなった。

---

**IBM7057I W Precompilation has completed with *var-name* errors and *var-name* warnings.**

説明: 示されている数のエラーと警告を出して、プリコンパイルが完了した。

---

**IBM7058I E The statement is too long or too complex.**

説明: 長さまたは複雑さに関するシステムしきい値を超えたために、ステートメントを処理できなかった。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7059I E An unexpected token *var-name* was found following *var-name* . Expected tokens may include: *var-name* .**

説明: テキスト "<text>" のあとに指定されているトークンで、SQL ステートメントの構文エラーが検出された。"<text>" フィールドは、トークンの前にある SQL ステートメントの無効な文字を示している。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7060I E The name *var-name* is too long. The maximum length is *var-name* .**

説明: "<name>" として戻された名前が長すぎる。その型の名前として許可される最大長は、"<length>" によって示される。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7061I E The host variable *var-name* is undefined.**

説明: ホスト変数 "<name>" が DECLARE SECTION で宣言されていない。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7062I W The host variable *var-name* is already defined.**

説明: ホスト変数 "<name>" が DECLARE SECTION で既に宣言されている。このステートメントは処理できない。

---

**IBM7063I E The limit on the number of host variables has been reached.**

説明: ホスト変数の数の限度は、SYSPLAN の HOST\_VARS 列に収まる数によって決まるが、この限度に達した。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7064I E The host variable *var-name* is incorrectly declared.**

説明: ホスト変数 "<name>" が正しく宣言されていない。理由としては、指定した型がサポートされる型でないこと、長さの指定が 0、負、または大きすぎる、初期化指定子を使用したこと、誤った構文を指定したことなどが考えられる。変数は未定義のままになっている。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7065I E No END DECLARE SECTION was found after a BEGIN DECLARE SECTION.**

説明: DECLARE SECTION の処理中に、入力の終わり

に達した。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7066I E The "SQLAINIT" function has not been called.**

説明: 要求された関数呼び出しを処理する前に、プリコンパイラー・サービスを初期化する必要がある。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7067I E Unable to use file *var-name* .**

説明: ファイル "<name>" の読み取りまたは書き込み中に、エラーが発生した。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7068I E The load of the DB2 Precompiler Services module (DSNHPSRV) failed.**

説明: DB2 プリコンパイラー・サービス・モジュール (DSNHPSRV) のロード中に、エラーが発生した。ジョブ内でのデータ・セットの連結が正しいことを確認する。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7069I E The DBRM Library was not found.**

説明: DBRM ライブラリーの検索中にエラーが発生した。ジョブに DBRMLIB DD カードが含まれていることを確認する。このソース・プログラムは処理できなかった。

---

**IBM7070I E The FLOAT option is inconsistent.**

説明: PL/I コンパイラー・オプション DEFAULT(IEEE|HEXADEC) が、 PL/I SQL プリプロセッサ・オプション FLOAT(IEEE|S390) と一致していない。これらのオプションが整合していることを確認して、ジョブを再実行依頼する。このソース・プログラムは処理できなかった。





---

## 第 9 章 条件コード

この章に示す条件コードは、すべてのインプリメンテーションによって生成される条件コードを集約したものです。プラットフォームによっては、生成されない条件コードもあります。

次に、すべての条件コードの要約を番号順に示します。

---

### 条件 1 から 50

- 3       この条件は、SELECT グループ内で *WHEN* 文節が選択されておらず、かつ *OTHERWISE* 文節が存在しない場合に発生する。
- 4       *SIGNAL FINISH*、または *STOP* ステートメントが実行された。
- 9       *SIGNAL ERROR* ステートメントが実行された。
- 10       *SIGNAL NAME* ステートメントが実行された。
- 20       *SIGNAL RECORD* ステートメントが実行された。
- 21       レコード変数がレコード・サイズより小さい。次のいずれか。
  - レコードが *READ INTO* ステートメント内の変数より大きい。レコードの残りは失われる。
  - 固定長レコードのあるファイルに対して指定されたレコード長が、*WRITE*、*REWRITE*、または *LOCATE* ステートメント内の変数より大きい。レコードの残りは定義されない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに *SCALARVARYING* オプションが適用されていれば、*RECORD* は発生しない。
- 22       レコード変数がレコード・サイズより大きい。次のいずれか。
  - 固定長レコードのあるファイルに対して指定されたレコード長が、*READ INTO* ステートメント内の変数より小さい。変数の残りは定義されない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに *SCALARVARYING* オプションが適用されていれば、*RECORD* は発生しない。
  - 最大レコード長が、*WRITE*、*REWRITE*、または *LOCATE* ステートメント内の変数より小さい。 *WRITE* または *REWRITE* の場合、変数の残りは失われる。 *LOCATE* の場合、変数は伝送されない。
  - *WRITE* または *REWRITE* ステートメント内の変数が長さ 0 を指示している。伝送は行われない。変数が可変長ストリングである場合は、ファイルに *SCALARVARYING* オプションが適用されていれば、*RECORD* は発生しない。
- 23       レコード変数の長さが 0 であるか、組み込みキーを保管するには短すぎる。

WRITE または REWRITE ステートメント内の変数が短すぎて、データ・セット組み込みキーを保管できない。伝送は行われない。(現在のところ、このケースは索引キー順データ・セットにだけ該当する。)

- 24 長さ 0 のレコードが REGIONAL データ・セットから読み取られた。
- 40 SIGNAL TRANSMIT ステートメントが実行された。
- 41 出力データ・セットに訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 42 入力データ・セットに訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 43 索引セットへの出力に訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 44 索引セットからの入力に訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 45 索引連続データ・セットへの出力に訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 46 連続データ・セットからの入力に訂正不能の伝送エラーが発生した。
- 50 SIGNAL KEY ステートメントが実行された。

---

## 条件コード 51 から 100

- 51 指定されたキーが検出できない。
- 52 データ・セット内に既に存在するレコードと同じキーを指定したキー付きレコードを追加しようとした。または、REGIONAL(1) データ・セット内で、既にレコードが入っている領域に書き込もうとした。
- 53 INDEXED または REGIONAL データ・セットの順次生成中に、KEYFROM オプションに指定された式の値が、以前に指定されたキーまたは領域番号の値より小さい。
- 54 キー変換エラー。領域番号が数字でないことが原因である可能性がある。
- 55 キーの指定がヌル・ストリングであるか (8)'1'B で始まっている。あるいは、INDEXED またはキー順データ・セットの順次 REWRITE[FROM] に対して、組み込みキーの変更が行われた。
- 56 データ・セットの限界を超えるキーを使用して、レコードにアクセスしようとした。
- 57 INDEXED 挿入にキー付きレコードを追加するために使用できるスペースがない。
- 58 追加するレコードのキーが、データ・セットに対して指定された範囲の外にある。
- 70 SIGNAL ENDFILE ステートメントが実行された。
- 80 SIGNAL UNDEFINEDFILE ステートメントが実行された。
- 81 オープン時に、DECLARE ステートメント内の属性と、明示または暗黙の OPEN ステートメント内の属性との間で、ファイル属性の矛盾が生じた。
- 82 ファイル属性とデータ・セットの物理編成 (例えば、ファイル編成と装置タイプ) との間に矛盾が生じた、または索引付きデータ・セットがロードされていない。
- 83 ENVIRONMENT オプションを DD ステートメントとデータ・セット・ラ

- ベルにマージした後、データ・セットの指定が不完全である。例えば、ブロック・サイズやレコード・フォーマットが指定されていない。
- 84** ファイルをデータ・セットと関連付ける DD ステートメントがない。
- 85** REGIONAL データ・セットと関連付けられた DIRECT OUTPUT ファイルの初期化中に、入出力エラーが発生した。
- 86** LINESIZE がインプリメンテーション定義の最大値より大きい、または ENVIRONMENT オプションに無効値がある。
- 87** ENVIRONMENT オプションを DD ステートメントとデータ・セット・ラベルにマージした後、データ・セットの指定に矛盾が生じた。  
LRECL、BLKSIZE、または RECSIZE の値が互いに非互換、または指定された DCB FUNCTION に対して非互換である。
- 88** ENVIRONMENT オプションを DD ステートメントとデータ・セット・ラベルにマージした後、データ・セットの指定に矛盾が生じた。マージ結果の MODE/FUNCTION とレコード・フォーマットの組み合わせが無効である。
- 89** パスワードが無効、または指定されていない。
- 90** SIGNAL ENDPAGE ステートメントが実行された。
- 91** 索引付きデータ・セットへアクセスするファイルのための ENVIRONMENT オプションが無効である。
- 92** 要求されたデータ・セットが使用できなかった。
- 93** データ・セットのオープン中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。

#### サブコード 1 意味

- 50** 入力の際に、存在しない ISAM ファイルがオープンされている。
- 51** ISAM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で ISAM から戻りコードが渡される。
- 52、53** ネイティブのファイルまたは REGIONAL(1) ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
- 54** 入力の際に、存在しない BTRIEVE ファイルがオープンされている。
- 55** BTRIEVE ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で BTRIEVE から戻りコードが渡される。
- 56** DDM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
- 57、58** DDM 順次ファイル、DDM 相対ファイル、または DDM 索引付きファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。サブコード 2 で DDM から戻りコードが渡される。
- 59** 既にオープンされているファイルをオープンしようとした。

- 60 無効なタイプのファイルがオープンされている。例えば、z/OS UNIX システム・サービスのもとで VSAM ファイルがオープンされている。VSAM ファイルは z/OS UNIX システム・サービスのもとではサポートされない。
- 66 VSAM ファイルのオープンが失敗した。サブコード 2 でフィールドバック・コードが渡される。
- 76 SFS ファイルのオープンの再試行が失敗した。
- 79 入力または更新の際にオープンする SFS ファイルが見つからなかった。
- 94 再使用不可のデータ・セットに対して REUSE が指定された。
- 95 索引データ・セットに対して指定されている代替索引が空である。
- 96 環境変数に誤りがある。
- 99 ファイルをオープンできない。

サブコード 1 意味

- 1 または 2 既存の REGIONAL(1) ファイルの拡張属性 (EA) が見つからず、ENVIRONMENT オプション、または SET DD オプションによって RECCOUNT または RECSIZE の値が指定されていない。
- 3 順次出力ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 4 ネイティブ・ファイルに対して TYPE (FIXED) が指定されたが、ファイル・サイズが RECSIZE の倍数ではなかった。
- 5 または 13 REGIONAL(1) ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 6 から 12 出力ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 21 から 23 ファイルに対する SET DD ステートメントに AMTHD(DDM) が指定されたが、DDM DDL (DUBRUN および DUBLDM) が見つからなかった、またはアクセスできなかった。
- 24 DDM ファイルの拡張属性が誤っている。
- 25 ENVIRONMENT 属性の ORGANIZATION オプションが、データ・セットのタイプ (DDM またはネイティブ) と矛盾する。
- 26 ファイルの使用方法に関して矛盾が生じている。
- 27 キー順オープンで複合キーが検出された。
- 28 から 30 新規 DDM ファイルを作成できなかった。
- 31 DDM ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 35 DD 環境変数で AMTHD(BTRIEVE) が指定されたが、BTRIEVE ロード可能コンポーネント (BTRCALLS) が見つからなかった、またはシステム上でアクセスできなかった。

- 36 BTRIEVE ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
- 37 新規 BTRIEVE ファイルを作成できなかった。
- 38 BTRIEVE ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 40 DD 環境変数で AMTHD(ISAM) が指定されたが、ISAM 非マルチスレッド・ロード可能コンポーネント (IBMWS20F および IBMWS20G) または ISAM マルチスレッド・ロード可能コンポーネント (IBMWM20F および IBMWM20G) が見つからなかった、またはシステム上でアクセスできなかった。
- 41 ISAM ファイルをオープンするときに予期しないエラーが発生した。
- 42 新規 ISAM ファイルを作成できなかった。
- 43 ISAM ファイルの位置決めエラーが発生した。
- 60 無効なタイプのファイルがオープンされている。例えば、z/OS UNIX システム・サービスのもとで VSAM ファイルがオープンされている。VSAM ファイルは z/OS UNIX システム・サービスのもとではサポートされない。
- 62 MVS バッチ環境で、VSAM ファイルに関するファイル情報の照会が失敗した。
- 63 MVS バッチ環境で、VSAM 以外のファイルが VSAM ファイルとしてオープンされている。
- 64 VSAM ファイルが無効なタイプを指定してオープンされている (つまり、ファイルが KSDS、ESDS、または RRDS ファイルでない)。
- 65 VSAM ファイルが非 MVS バッチ環境でオープンされている。VSAM ファイルは、MVS バッチ環境でだけサポートされる。
- 66 VSAM ファイルのオープンが失敗した。サブコード 2 でフィールドバック・コードが渡される。
- 67 MVS バッチ環境で、VSAM ファイルが VSAM 以外のファイルとしてオープンされている。
- 68 無効な VSAM ファイルがオープンされている。
- 69 MVS バッチ環境で、ネイティブ・ファイルに関するファイル情報の照会が失敗した。
- 70 VSAM ファイルの位置決めが失敗した。
- 71 VSAM ファイルが非 MVS バッチ環境でオープンされている。
- 72 無効な PL/I ファイルがオープンされている。
- 73 SFS ライブラリーをロードできない。
- 74 DCE ライブラリーをロードできない。

- 75           新規 SFS ファイルを作成できなかった。
- 77           SFS ファイルの位置決めが失敗した。
- 78           その行より下に十分なストレージがない。
- 80           更新の際に空の VSAM ファイルをオープンしたので処理エラーが発生した。オン・コード 82 が発行されていなければならない。

---

## 条件コード 100 から 520

- 150    SIGNAL STRINGSIZE ステートメントが実行された、または STRINGSIZE 条件が発生した。
- 151    混合文字ストリングの割り当て中に切り捨てが行われた。
- 290    SIGNAL INVALIDOP ステートメントが実行された、または INVALIDOP 例外が発生した。
- 300    SIGNAL OVERFLOW ステートメントが実行された、または OVERFLOW 条件が発生した。
- 310    SIGNAL FIXEDOVERFLOW ステートメントが実行された、または FIXEDOVERFLOW 条件が発生した。
- 320    SIGNAL ZERODIVIDE ステートメントが実行された、または ZERODIVIDE 条件が発生した。
- 330    SIGNAL UNDERFLOW ステートメントが実行された、または UNDERFLOW 条件が発生した。
- 340    SIGNAL SIZE ステートメントが実行された。または、変数または一時変数への割り当ての際に高位のゼロ以外の数字が失われたか、入出力操作中に有効数字が失われた。
- 341    入出力操作中に高位のゼロ以外の数字が失われた。
- 350    SIGNAL STRINGRANGE ステートメントが実行された、または STRINGRANGE 条件が発生した。
- 360    割り振りを行うためのフリー・ストレージが不足しているエリア内で、基底付き変数を割り振ろうとした。
- 361    ソース・エリアを割り当てるためのスペースがターゲット・エリアに不足している。
- 362    SIGNAL AREA ステートメントが実行された。
- 400    SIGNAL ATTENTION ステートメントが実行された。
- 450    SIGNAL STORAGE ステートメントが実行された。
- 451    ALLOCATE ステートメントまたは ALLOCATE 組み込み関数が失敗した。要求を満たすためのストレージが不足している。
- 500    SIGNAL CONDITION (name) ステートメントが実行された。
- 520    SIGNAL SUBSCRIPTRANGE ステートメントが実行された。または、添字を評価した結果、添字が指定された境界の外にあることが判明した。



---

条件コード 600 から 650

- 600 SIGNAL CONVERSION ステートメントが実行された。
- 601 文字ストリングの入出力中に無効な変換が試行された。
- 603 GET STRING ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 604 GET FILE ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 605 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 606 GET STRING ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 607 GET FILE ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 608 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 609 GET STRING ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 610 GET FILE ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 611 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 612 文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 613 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 614 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 615 文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 616 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 617 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 618 文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 619 GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 620 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 621 GET STRING ステートメントに対する 10 進 P フォーマット項目内のエラー。
- 622 GET FILE ステートメントに対する 10 進 P フォーマット入力中のエラー。

- 623 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する 10 進 P フォーマット入力中のエラー。
- 624 GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力中のエラー。
- 625 GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
- 626 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
- 627 非漢字環境で、漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。
- 628 非漢字環境で、入力に漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。
- 629 非漢字環境で、TRANSMIT が検出された後、入力に漢字ストリングまたは混合文字ストリングが検出された。
- 633 X、BX、または GX ストリング定数内で無効文字が検出された。
- 634 入力の X、BX、または GX ストリング定数内で無効文字が検出された。
- 635 TRANSMIT が検出された後、入力の X、BX、または GX ストリング定数内で無効文字が検出された。
- 640 ピクチャーからの型変換に無効文字が含まれていた。
- 641 入力または出力時に、ピクチャーからの型変換に無効文字が含まれていた。
- 642 TRANSMIT が検出された後、入力時にピクチャーからの型変換に無効文字が含まれていた。
- 643 GET STRING ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 644 GET FILE ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 645 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 F フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 646 GET STRING ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 647 GET FILE ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 648 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 E フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 649 GET STRING ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。
- 650 GET FILE ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

---

## 条件コード 651 から 672

- 651 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形 B フォーマット項目の処理中にエラーが発生した。

- 652 図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 653 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 654 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 655 図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 656 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 657 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 658 図形文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 659 GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 660 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する図形文字値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 661 GET STRING ステートメントに対する 10 進図形 P フォーマット項目内のエラー。
- 662 GET FILE ステートメントに対する 10 進図形 P フォーマット入力中のエラー。
- 663 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する 10 進図形 P フォーマット入力中のエラー。
- 664 GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力中のエラー。
- 665 GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
- 666 TRANSMIT 条件の発生後、GET FILE ステートメントに対する図形文字 P フォーマット入力にエラーが存在する。
- 667 GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
- 668 入力の GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
- 669 TRANSMIT 条件の発生後、入力の GRAPHIC から文字への型変換中に、等価な SBCS が存在しなかった。
- 670 ソース属性が不明。
- 671 入力のソース属性が不明。
- 672 TRANSMIT 条件の発生後、入力のソース属性が不明。
- 673 WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。
- 674 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。
- 675 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から文字への型変換中にエラーが発生した。

- 676 WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 677 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 678 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値から算術値への型変換中にエラーが発生した。
- 679 WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 680 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 681 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からビット値への型変換中にエラーが発生した。
- 682 WIDECHAR 値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 683 GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。
- 684 TRANSMIT 条件の発生後、GET または PUT FILE ステートメントに対する WIDECHAR 値からピクチャーへの型変換中にエラーが発生した。

---

## 条件コード 1002 から 1107

- 1002 GET または PUT STRING が、ストリングのサイズを超えるデータを指定している。
- 1003 以後の出力は、データ・セットに対して前に発生した TRANSMIT 条件または KEY 条件によって妨げられた。
- 1004 印刷できないファイルに対して、PAGE、LINE、または SKIP  $\leq 0$  を使用しようとした。
- 1005 DISPLAY(式) REPLY (文字参照) ステートメント内で、式または文字参照の長さが 0 である。
- 1007 REWRITE または DELETE ステートメントの前に READ がない。
- 1008 GET STRING DATA ステートメントに指定されたストリング内で、割り当てシンボルの前に認識できないフィールドがある。
- 1009 入出力ステートメントが、ファイル属性と矛盾する操作またはオプションを指定している。
- 1010 組み込み関数または疑似変数が、オープンされていないファイルを参照していた。
- 1011 データ管理が入出力エラーを検出したが、その原因に関する情報を提供できない。
- 1013 直前の入力操作が未完了。REWRITE または DELETE ステートメントが指定しているデータは、EVENT オプションを指定した READ ステートメントによって直前に読み取られており、対応する WAIT が実行されていない。
- 1014 未完了の操作数が、ENVIRONMENT オプション NCP(n)、またはデフォルトによって指定された数と等しいときに、さらに入出力操作を開始しようとした。

- 1015 入出力操作に対して指定されたイベント変数は、既に使用中。
- 1016 ファイルの暗黙的なオープンが失敗した結果として UNDEFINEDFILE 条件が発生した後、ON ユニットからの通常のリターン時に、ファイルがオープンされていないことが検出された。
- 1018 データ・リストの終わりの前にあるデータ、または編集ディレクティブの伝送フォーマット・リストで、ファイルまたはストリングの終わりが検出された。
- 1019 現在のプロセス内でオープンされていないファイルをクローズしようとした。
- 1020 直前の READ が完了したことを確認するための WAIT ステートメントが実行される前に、さらに入出力を行おうとした。
- 1021 このプロセス内で別のファイルによってロックされたレコードにアクセスしようとした。
- 1022 索引付きデータ・セットを拡張できない。
- 1023 レコードがサブタスク内でまだロックされているときに、排他的ファイルがクローズされた。
- 1024 デバイスに関連したファイルに対する入出力操作の順序が誤っている。
- 1025 要求を完了させるために使用できる仮想記憶域が不足している。
- 1026 索引データ・セット内の位置が設定されていない。
- 1027 レコード制御インターバルが既に排他制御に保持されている。
- 1028 要求されたレコードは、マウントされていないボリューム上にある。
- 1029 索引データ・セット内での位置変更が失敗した。
- 1030 索引データ・セットに対する索引アップグレード中にエラーが発生した。
- 1031 索引データ・セットに対して無効な順次書き込みが試行された。
- 1040 出力用にオープンされたデータ・セットが、使用可能なスペースを使い尽くした。
- 1041 レコード区切り文字を含むレコードを書き込もうとした。
- 1042 データ・セット内のレコードが正しく区切られていない。
- 1102 ストレージ管理中にエラーが発生した。解放されるストレージが無効なアドレスによって指されている。
- 1104 ライブラリー内で内部エラーが発生した。
- 1105 オブジェクト・ウィンドウを作成できない。
- 1106 ストレージ割り振り要求を満たすために使用可能な容量が不十分。
- 1107 フリー・ストレージ処理中に問題が発生した。

---

## 条件コード 1500 から 1550

- 1500 計算誤差。SQRT 組み込み関数の短精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
- 1501 計算誤差。SQRT 組み込み関数の長精度浮動小数点引数が 0 より小さい。

- 1502 計算誤差。SQRT 組み込み関数の拡張浮動小数点引数が 0 より小さい。
- 1503 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。拡張浮動小数点引数が 0 より小さい。
- 1504 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。短精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
- 1505 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。長精度浮動小数点引数が 0 より小さい。
- 1506 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。短精度浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{**}63)$  (SIN および COS) または  $(2^{**}63)*180$  (SIND および COSD) を超えている。
- 1507 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。長精度浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{**}63)$  (SIN および COS) または  $(2^{**}63)*180$  (SIND および COSD) を超えている。
- 1508 計算誤差。TAN または TAND 組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{**}64)$  より大か等しい。
- 1509 計算誤差。TAN または TAND 組み込み関数の長精度浮動小数点引数の絶対値が、それぞれ  $(2^{**}63)$  または  $(2^{**}63)*180$  を超えている。
- 1510 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の短精度浮動小数点引数が、両方とも無効である。
- 1511 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の長精度浮動小数点引数が、両方とも無効である。
- 1514 計算誤差。ATANH 組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。
- 1515 計算誤差。ATANH 組み込み関数の長精度浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。
- 1516 計算誤差。ATANH 組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が 1 より大きい。
- 1517 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。拡張浮動小数点引数が  $(2^{**}64)$  を超えている。
- 1518 計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の短精度浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。
- 1519 計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の長精度浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。
- 1520 計算誤差。ASIN または ACOS 組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が 1 を超えている。
- 1521 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の拡張浮動小数点引数が、両方とも無効である。
- 1522 計算誤差。TAN または TAND 組み込み関数の拡張浮動小数点引数の絶対値が、それぞれ  $(2^{**}64)$  または  $(2^{**}64)*180$  より大か等しい。
- 1523 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数の絶対値が、89.41 より大きい。



- 1524 SINH または COSH の実数の長精度浮動小数点引数の絶対値が、710.47 より大か等しい。
- 1525 SINH または COSH の実数の拡張浮動小数点引数の絶対値が、11357.22 より大か等しい。
- 1526 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の短精度浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1527 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の長精度浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1528 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の拡張浮動小数点引数の絶対値が、 $(2^{*64})$  より大か等しい。
- 1529 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1530 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1531 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部の絶対値が、 $(2^{*64})$  より大か等しい。
- 1550 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。

---

## 条件コード 1551 から 1600

- 1551 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
- 1552 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。
- 1553 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。
- 1554 計算誤差。指数演算時に、複素数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
- 1555 計算誤差。指数演算時に、複素数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
- 1556 計算誤差。指数演算時に、複素数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正の実数でない。
- 1557 計算誤差。指数演算時に、複素数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正の実数でない。
- 1558 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数が、それぞれ  $\pm II$  または  $\pm I$  の値をとっている。
- 1559 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数が、それぞれ  $\pm II$  または  $\pm I$  の値をとっている。
- 1560 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。

- 1561 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。
- 1562 計算誤差。指数演算時に、複素数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
- 1563 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数が 0 であり、かつ浮動小数点または非整数の指数が正でない。
- 1564 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数が、それぞれ  $\pm 11$  または  $\pm 1$  の値をとっている。
- 1565 計算誤差。EXP 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数が、-87.33 より小さい。
- 1566 計算誤差。EXP 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数が、-708.39 より小さい。
- 1567 計算誤差。EXP 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、-11355.13 より小さい。
- 1568 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{63})$  より大か等しい。
- 1569 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{63})$  より大か等しい。
- 1570 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{64})$  より大か等しい。
- 1571 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、35.04 (GAMMA) または  $4.085E+36$  (LOGGAMMA) より大きい。
- 1572 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、171.62 (GAMMA) または  $2.559E+305$  (LOGGAMMA) より大きい。
- 1573 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、1755.54 (GAMMA) または  $1.048E+4928$  (LOGGAMMA) より大きい。
- 1574 TANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{63})$  より大か等しい。
- 1575 TANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{63})$  より大か等しい。
- 1576 TANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{64})$  より大か等しい。
- 1577 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が正または負の 0 に等しい。
- 1578 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が正または負の 0 に等しい。
- 1579 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が正の 0 に等しい。

- 1600 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。

---

## 条件コード 1601 から 1650

- 1601 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1602 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1603 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1604 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1605 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1606 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1607 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1608 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1609 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1610 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1611 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の短精度浮動小数点引数が、88.73 より大か等しい。
- 1612 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の長精度浮動小数点引数が、709.79 より大か等しい。
- 1613 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の拡張浮動小数点引数が、11356.53 より大か等しい。
- 1614 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1615 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1616 計算誤差。EXP 組み込み関数に対する実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1617 LOG 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1618 LOG 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。

- 1619 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1620 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1621 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1622 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1623 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1624 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1625 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1626 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1627 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1628 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1629 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1630 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1631 LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1650 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の長精度浮動小数点の指数が 0 である。

---

## 条件コード 1651 から 1700

- 1651 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の拡張浮動小数点の指数が 0 である。
- 1652 計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と実数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1653 計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と実数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1654 計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と実数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1655 計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と実数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。



- 1656** 計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と実数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1657** 計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と実数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1658** 計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と実数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1659** 計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と実数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1660** 計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と実数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1661** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、引数として正または負の無限大が指定された。
- 1662** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、引数として正または負の無限大が指定された。
- 1663** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、引数として正または負の無限大が指定された。
- 1664** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1665** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1666** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1667** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1668** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1669** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1670** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1671** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1672** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と整数値の指数を指定した指数演算時に、複素数の引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1673** 計算誤差。指数演算時に、整数の基数が 0 であり、かつ整数の指数が正でない。
- 1674** 計算誤差。指数演算時に、整数の基数が正または負の 1 でなく、かつ整数の指数が正でない。
- 1675** 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ整数の指数が正または負の 0 である。

- 1676 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ整数の指数が正または負の 0 である。
- 1677 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ整数の指数が正または負の 0 である。
- 1678 計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と整数の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1679 計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と整数の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1680 計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と整数の指数を指定した指数演算時に、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1681 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点指数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1700 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数指数の虚数部が無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 1701 から 1750

- 1701 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数指数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1702 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の実数部と 2 番目の複素数指数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1703 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の実数部と 2 番目の複素数指数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1704 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の実数部と 2 番目の複素数指数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1705 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の虚数部と 2 番目の複素数指数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1706 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の虚数部と 2 番目の複素数指数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1707 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の虚数部と 2 番目の複素数指数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1708 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数指数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。



- 1709** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1710** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1711** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1712** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1713** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1714** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1715** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1716** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1717** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1718** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1719** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部だけが有効な IEEE 数値である。
- 1720** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1721** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1722** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。

- 1723 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の短精度浮動小数点の指数が無効な 32 ビット整数である。
- 1724 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の長精度浮動小数点の指数が無効な 32 ビット整数である。
- 1725 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の拡張浮動小数点の指数が無効な 32 ビット整数である。
- 1726 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が正の 1 であり、かつ実数の短精度浮動小数点の指数が正または負の無限大である。
- 1727 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が +1 であり、かつ実数の長精度浮動小数点の指数が正または負の無限大である。
- 1728 計算誤差。指数演算時に、実数の拡張浮動小数点の基数が +1 であり、かつ実数の拡張浮動小数点の指数が正または負の無限大である。
- 1729 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ実数の短精度浮動小数点の指数が正または 0 でない。
- 1730 計算誤差。指数演算時に、実数の長精度浮動小数点の基数が 0 であり、かつ実数の長精度浮動小数点の指数が正または 0 でない。
- 1731 計算誤差。指数演算時に、実数の短精度浮動小数点の基数が正または負の無限大であり、かつ実数の短精度浮動小数点の指数が 0 である。
- 1750 計算誤差。SCALE に対して最初に指定した実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 1751 から 1800

- 1751 計算誤差。ASIN(X) または ACOS(X) に対する実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1752 計算誤差。ASIN(X) または ACOS(X) に対する実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1753 計算誤差。ASIN(X) または ACOS(X) に対する実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1754 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超えた。
- 1755 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超えた。
- 1756 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、引数が限度を超えた。
- 1757 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、正または負の無限大が引数として指定された。

- 1758** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、正または負の無限大が引数として指定された。
- 1759** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、正または負の無限大が引数として指定された。
- 1760** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1761** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1762** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1763** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1764** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1765** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1766** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1767** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1768** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1769** 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1770** 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1771** 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。

- 1772 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1773 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1774 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、最初の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1775 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1776 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1777 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、2 番目の複素数引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1778 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1779 計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と複素数の長精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1780 計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と複素数の拡張浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1781 計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と複素数の短精度浮動小数点の指数を指定した指数演算時に、両方の複素数引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1800 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 1801 から 1850

- 1801 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数の絶対値が、無効な IEEE 数値である。
- 1802 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数の絶対値が、無効な IEEE 数値である。
- 1803 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数の絶対値が、無効な IEEE 数値である。



- 1804** TANH に対する実数の拡張浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 1808** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数について、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1809** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数について、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1810** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数について、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1811** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数について、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1812** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数について、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1813** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数について、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 1814** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1815** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1816** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1817** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数が、(正の無限大、0i) または (負の無限大、0i) の値をとっていない。
- 1818** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数が、(正の無限大、0i) または (負の無限大、0i) の値をとっていない。
- 1819** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数が、(正の無限大、0i) または (負の無限大、0i) の値をとっていない。
- 1820** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1821** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1822** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1823** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1824** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1825** 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。

- 1826 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1827 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1828 計算誤差。ATAN または ATAND 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1829 計算誤差。ATAN(X) または ATAND(X) 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1830 計算誤差。ATAN(X) または ATAND(X) 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1831 計算誤差。ATAN(X) または ATAND(X) 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1850 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 1851 から 1900

- 1851 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1852 計算誤差。COTAN または COTAND の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1853 TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が  $(2^{*}64)$  より大か等しい。
- 1854 TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が  $(2^{*}64)$  より大か等しい。
- 1855 TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部の絶対値が  $(2^{*}64)$  より大か等しい。
- 1856 TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1857 TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1858 TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1859 TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1860 TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1861 TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1862 TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。



- 1863** TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1864** TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1865** TAN または TAND の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1866** TAN または TAND の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1867** TAN または TAND の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1868** TAN または TAND の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が無効な IEEE 数値である。
- 1869** TAN または TAND の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が無効な IEEE 数値である。
- 1870** TAN または TAND の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が無効な IEEE 数値である。
- 1871** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1872** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1873** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が正または負の無限大である。
- 1874** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1875** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1876** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1877** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1878** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1879** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1880** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。

- 1881** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1900** TANH の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部が正または負の無限大でなく、かつ引数の虚数部が 0 でない。

---

## 条件コード 1901 から 1950

- 1901** TANH の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部が正または負の無限大でなく、かつ引数の虚数部が 0 でない。
- 1902** TANH の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1903** TANH の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1904** TANH の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1905** TANH の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1906** TANH の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1907** TANH の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1908** TANH の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1909** TANH の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1910** TANH の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1911** 計算誤差。TANH 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1912** 計算誤差。TANH 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1913** 計算誤差。TANH 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1914** 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数に対する複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1915** 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数に対する複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{*63})$  より大か等しい。
- 1916** 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数に対する複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部の絶対値が、 $(2^{*64})$  より大か等しい。

- 1917 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1918 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1919 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数について、実数の引数が正または負の無限大でなく、虚数の引数が 0 でない。
- 1920 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1921 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1922 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部が無効な IEEE 数値である。
- 1923 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1924 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1925 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1926 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1927 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1928 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数について、引数の実数部と虚数部が無効な IEEE 数値である。
- 1929 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1930 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1931 計算誤差。SINH または COSH 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1950 SQRT の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数について、実数部が正または負の無限大でなく、かつ虚数部が 0 でない。

---

## 条件コード 1951 から 2000

- 1951 SQRT の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1952 SQRT の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。

- 1953 SQRT の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1954 SQRT の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1955 SQRT の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1956 SQRT の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1957 SQRT の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1958 SQRT の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1959 SQRT の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1960 SQRT の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、負の 0 に等しい。
- 1961 SQRT の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、負の 0 に等しい。
- 1962 SQRT の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、負の 0 に等しい。
- 1963 SQRT の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1964 SQRT の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1965 SQRT の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1966 計算誤差。ATANH の複素数の短精度浮動小数点引数に、正または負の無限大が含まれている。
- 1967 計算誤差。ATANH の複素数の長精度浮動小数点引数に、正または負の無限大が含まれている。
- 1968 計算誤差。ATANH の複素数の拡張浮動小数点引数に、正または負の無限大が含まれている。
- 1969 計算誤差。ATANH の複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1970 計算誤差。ATANH の複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1971 計算誤差。ATANH の複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1972 計算誤差。ATANH の複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1973 計算誤差。ATANH の複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1974 計算誤差。ATANH の複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。

- 1975 計算誤差。ATANH の複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1976 計算誤差。ATANH の複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1977 計算誤差。ATANH の複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 1978 計算誤差。ATANH の浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1979 計算誤差。ATANH の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1980 計算誤差。ATANH の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 1981 TANH の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、引数の実数部が正または負の無限大でなく、かつ引数の虚数部が 0 でない。

---

## 条件コード 2002 から 2150

- 2002 システム機能が制限されているために、WAIT ステートメントを実行できない。
- 2101 RANDOM 組み込み関数のためのグリニッジ標準時を取得することができなかった。
- 2102 RANDOM 組み込み関数の中で無効なシード値が検出された。乱数は -1 に設定された。
- 2103 地方時が取得できなかった。
- 2104 SECSTODATE、DAYS、DAYSTODATE、または DATETIME 組み込み関数の  $y$  の値に、無効なピクチャー・ストリングの指定が含まれている。
- 2105 DAYS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な日の値が含まれている。有効な範囲は、1582 年 10 月 15 日から 9999 年 12 月 31 日である。
- 2106 DAYS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な月の値が含まれている。有効な範囲は、1582 年 10 月から 9999 年 12 月である。
- 2107 DAYS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な年の値が含まれている。有効な範囲は、1582 から 9999 である。
- 2108 DAYSTODATE 組み込み関数の  $x$  の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、1 から 3,074,324 である。
- 2109 SECSTODATE 組み込み関数の  $x$  の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、86,400 から 265,621,679,999.999 である。
- 2110 DAYSTODATE 組み込み関数の  $x$  の値が、有効な日本元号または中国元号に変換できなかった。
- 2111 現在の地方時とグリニッジ標準時との間の時差が取得できなかった。
- 2112 SECS または DAYS 組み込み関数の  $x$  の値がサポート範囲外にある。有効な範囲は、1582 年 10 月 15 日から 9999 年 12 月 31 日である。
- 2113 SECS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な秒の値が含まれている。有効な範囲は、0 から 59 である。



- 2114 SECS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な分の値が含まれている。有効な範囲は、0 から 59 である。
- 2115 SECS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な時の値が含まれている。有効な範囲は、0 から 23 または 0 から 12 (AP フィールドが存在する場合) である。
- 2116 DAYS 組み込み関数の  $x$  の値が、指示されたピクチャー指定と一致しない。
- 2117 SECS 組み込み関数の  $x$  の値が、指示されたピクチャー指定と一致しない。
- 2118 DAYSTODATE 組み込み関数から戻された日付ストリングが切り捨てられた。
- 2119 DATETIME または SECSTODATE 組み込み関数から戻されたタイム・スタンプが切り捨てられた。
- 2120 SECSTODATE または DATETIME 組み込み関数の  $x$  の値に、サポートされる日本元号または中国元号の範囲に対して無効な秒数の値が含まれている。
- 2121 DAYS または SECS 組み込み関数に渡されたデータに不足がある。ピクチャー・ストリングに十分な情報が含まれていない。
- 2122 SECS または DAYS 組み込み関数の  $x$  の値に、無効な年号名が含まれている。
- 2150 計算誤差。MOD( $x,y$ ) 組み込み関数の 2 番目の引数が 0 に等しい。

---

## 条件コード 2151 から 2200

- 2151 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2152 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2153 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2154 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2155 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2156 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2157 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2158 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2159 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。



- 2160 ABS 組み込み関数の計算誤差。整数の引数が  $(-2^{31})$  に等しい。
- 2161 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2162 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2163 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2164 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、0 より小さい。
- 2165 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、0 より小か等しい。
- 2166 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、0 より小か等しい。
- 2167 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、0 に等しい。
- 2168 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2169 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2170 GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2171 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、9.19 より大きい。
- 2172 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、26.54 より大きい。
- 2173 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、106.53 より大きい。
- 2174 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2175 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2176 ERFC 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2177 ERF の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2178 ERF の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2179 ERF の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2180 SQRT の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数について、実数部が正または負の無限大でなく、かつ虚数部が 0 でない。
- 2181 SQRT の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数について、実数部が正または負の無限大でなく、かつ虚数部が 0 でない。

- 2200 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 2201 から 2250

- 2201 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2202 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2203 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2204 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2205 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2206 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2207 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2208 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2209 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2210 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2211 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2212 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2213 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2214 TRUNC の実数の短精度浮動小数点引数が、正または負の無限大である。
- 2215 TRUNC の実数の長精度浮動小数点引数が、正または負の無限大である。
- 2216 TRUNC の実数の拡張浮動小数点引数が、正または負の無限大である。
- 2217 TRUNC の実数の短精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2218 TRUNC の実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2219 TRUNC の実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2220 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数のうち、最初の引数が正または負の無限大、または 2 番目の引数が正または負の 0 である。

- 2221 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数のうち、最初の引数が正または負の無限大、または 2 番目の引数が正または負の 0 である。
- 2222 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数のうち、最初の引数が正または負の無限大、または 2 番目の引数が正または負の 0 である。
- 2223 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数のうち、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2224 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数のうち、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2225 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数のうち、最初の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2226 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数のうち、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2227 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数のうち、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2228 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数のうち、2 番目の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2229 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の短精度浮動小数点引数のうち、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2230 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の長精度浮動小数点引数のうち、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2231 計算誤差。MOD(x,y) 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数のうち、両方の引数が無効な IEEE 数値である。
- 2250 計算誤差。乗算時に、複素数の拡張浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。

---

## 条件コード 2251 から 2300

- 2251 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2252 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2253 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2254 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2255 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2256 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。

- 2257 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2258 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2259 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2260 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2261 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2262 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2263 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2264 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2265 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2266 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2267 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2268 計算誤差。乗算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2269 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2270 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2271 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2272 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2273 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2274 計算誤差。乗算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2275 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。

- 2276 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2277 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2278 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2279 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2280 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2281 計算誤差。乗算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2300 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 2301 から 2350

- 2301 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2302 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2303 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2304 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2305 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2306 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2307 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2308 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。



- 2309 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2310 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2311 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部と、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2312 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2313 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2314 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2315 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2316 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2317 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2318 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2319 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2320 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2321 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2322 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2323 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部だけが、有効な IEEE 数値である。
- 2324 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2325 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2326 計算誤差。除算時に、最初と 2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2327 計算誤差。乗算時に、限度に等しい複素数の短精度浮動小数点引数が指定された。



- 2328 計算誤差。乗算時に、限度に等しい複素数の長精度浮動小数点引数が指定された。
- 2329 計算誤差。乗算時に、限度に等しい複素数の拡張浮動小数点引数が指定された。
- 2330 計算誤差。乗算時に、複素数の短精度浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。
- 2331 計算誤差。乗算時に、複素数の長精度浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。
- 2350 計算誤差。SCALE に対して最初に指定した実数の長精度浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 2351 から 2400

- 2351 計算誤差。SCALE に対して最初に指定した実数の拡張浮動小数点引数が、無効な IEEE 数値である。
- 2352 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、正または負の無限大であるため実数の短精度浮動小数点引数として無効である。
- 2353 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、正または負の無限大であるため実数の長精度浮動小数点引数として無効である。
- 2354 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、正または負の無限大であるため実数の拡張浮動小数点引数として無効である。
- 2355 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、無効な IEEE 数値であるため実数の短精度浮動小数点引数として無効である。
- 2356 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、無効な IEEE 数値であるため実数の長精度浮動小数点引数として無効である。
- 2357 CEIL(X) または FLOOR(X) の X が、無効な IEEE 数値であるため実数の拡張浮動小数点引数として無効である。
- 2358 計算誤差。除算時に、限度に等しい複素数の短精度浮動小数点引数が指定された。
- 2359 計算誤差。除算時に、限度に等しい複素数の長精度浮動小数点引数が指定された。
- 2360 計算誤差。除算時に、限度に等しい複素数の拡張浮動小数点引数が指定された。
- 2361 計算誤差。除算時に、複素数の短精度浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。
- 2362 計算誤差。除算時に、複素数の長精度浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。
- 2363 計算誤差。除算時に、複素数の拡張浮動小数点引数として、正または負の無限大が指定された。
- 2364 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。

- 2365** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2366** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2367** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2368** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2369** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2370** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2371** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2372** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2373** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2374** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2375** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2376** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2377** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2378** 計算誤差。除算時に、最初に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2379** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の短精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2380** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の長精度浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。
- 2381** 計算誤差。除算時に、2 番目に指定した複素数の拡張浮動小数点引数の実数部と虚数部が、無効な IEEE 数値である。

---

## 条件コード 2403 から 2450

- 2403** 計算誤差。GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、負の 0 より小か等しい。
- 2404** 計算誤差。GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の実数の拡張浮動小数点引数が、0 に等しい。

- 2407** EXP に対する実数の短精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2408** EXP に対する実数の長精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2409** EXP に対する実数の拡張浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2410** SCALE に対する実数の短精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2411** SCALE に対する実数の長精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2412** SCALE に対する実数の拡張浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2413** 計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の短精度浮動小数点引数が 0 である。
- 2414** 計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の長精度浮動小数点引数が 0 である。
- 2415** 計算誤差。LOG、LOG2、または LOG10 組み込み関数の複素数の拡張浮動小数点引数が 0 である。
- 2416** SINH または COSH に対する実数の短精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2417** SINH または COSH に対する実数の長精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2418** SINH または COSH に対する実数の拡張浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2419** COTAN または COTAND に対する実数の短精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2420** COTAN または COTAND に対する実数の長精度浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2421** COTAN または COTAND に対する実数の拡張浮動小数点引数の計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2422** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対する計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2423** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対する計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2424** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対する計算結果が、出力フィールドをオーバーフローした。
- 2425** SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、正または負の無限大に等しい。

- 2426 SIN、COS、SIND、または COSD 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、正または負の無限大に等しい。
- 2427 TAN または TAND 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、正または負の無限大に等しい。
- 2428 TAN または TAND 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、正または負の無限大に等しい。
- 2429 COTAN または COTAND 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数が、正または負の 0、あるいは正または負の無限大に等しい。
- 2430 COTAN または COTAND 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数が、正または負の 0、あるいは正または負の無限大に等しい。
- 2431 COTAN または COTAND 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数が、正または負の 0 に等しい。
- 2450 EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。

---

## 条件コード 2451 から 2500

- 2451 EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2452 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2453 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2454 EXP 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2455 除算時の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2456 除算時の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2457 除算時の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2458 SQRT 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、ONCODE 値が無限大になった。
- 2459 SQRT 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、ONCODE 値が無限大になった。
- 2460 SQRT 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、ONCODE 値が無限大になった。
- 2461 LOG 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2462 LOG 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。

- 2463** LOG 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2464** ATANH 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2465** ATANH 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2466** ATANH 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2467** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2468** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2469** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2470** GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2471** GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2472** GAMMA または LOGGAMMA 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2473** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と、実数の短精度浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2474** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と、実数の長精度浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2475** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と、実数の拡張浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2476** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2477** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2478** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2479** EXP 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2480** EXP 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2481** EXP 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。



---

条件コード 2504 から 2999

- 2504 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2505 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2506 ABS 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2507 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2508 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2509 ABS 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2510 SCALE 組み込み関数の計算誤差。実数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2511 SCALE 組み込み関数の計算誤差。実数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2512 SCALE 組み込み関数の計算誤差。実数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2513 SQRT 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2514 SQRT 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2515 SQRT 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2516 乗算時の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2517 乗算時の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2518 乗算時の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2519 LOG 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2520 LOG 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2521 LOG 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2522 ATANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。



- 2523** ATANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2524** ATANH 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2525** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2526** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2527** SINH または COSH 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点引数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2528** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と、複素数の短精度浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2529** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の長精度浮動小数点の基数と、複素数の長精度浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2530** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の拡張浮動小数点の基数と、複素数の拡張浮動小数点の指数に対して、計算結果が無限大になった。
- 2531** EXPONENT 組み込み関数の計算誤差。複素数の短精度浮動小数点の基数と、整数の指数に対して、計算結果が無限大になった。

---

## 条件コード 3000 から 3900

- 3000** 編集ディレクティブの入出力ステートメント内で、E フォーマット項目に対して指定したフィールド幅、小数の桁数、および有効数字の桁数 (w、d、および s) は、有効数字または符号を失わずに伝送を行うことができない。
- 3002** memconvert 組み込みが誤った戻りコードを返した。
- 3003** Unicode 変換後は、シフトインは使用できない。
- 3006** ターゲットのピクチャー記述が、文字以外のストリングのソースと一致しない。
- 3009** 大/小文字混合ストリングにシフトアウトが含まれ、シフトインが見つかる前にシフトアウトが終了した。
- 3010** 大/小文字混合の定数の処理中に、次のいずれかが発生した。
- SBCS 部分にあるシフトイン。
  - 図形 (2 バイト) 部分にあるシフトアウト。(シフトアウトは、図形文字のどのバイトでも表示できない。)
  - 図形文字の 2 番目のバイトあるシフトイン。
- 3011** MPSTR 組み込み関数の処理規則を指定する式に、無効文字 (あるいはヌル関数ストリング、またはブランクのみ) が含まれている。(V、v、S、s、およびブランクだけが有効な文字。)
- 3013** 16,383 文字 (32,766 バイト) より長い漢字ターゲットへの割り当てが試行された。

- 3014 漢字ストリングまたは混合ストリングが、連結規則に準拠していない。
- 3015 *X* 定数または *GX* 定数の桁数が無効である。
- 3016 ストリーム入出力でグラフィック・データが不適切に使用されている。グラフィック・データは、変数名またはストリングの一部としてだけ使用できる。
- 3018 無効な UTF-8 データが検出された。
- 3019 UTF-8 文字に無効なバイト 2 が検出された。
- 3020 UTF-8 文字に無効なバイト 3 が検出された。
- 3021 UTF-8 文字に無効なバイト 4 が検出された。
- 3022 不完全な UTF-8 文字が検出された。
- 3023 無効な UTF-16 データが検出された。
- 3024 不完全な UTF-16 文字が検出された。
- 3025 USUBSTR 参照が無効である。
- 3500 WAIT ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。
- 3501 DETACH ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。
- 3502 ATTACH ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。
- 3503 STOP ステートメントの処理中に、オペレーティング・システムによってエラーが検出された。
- 3797 図形データへ、または図形データからの変換が試行された。
- 3798 ONCHAR、ONSOURCE、または ONGSOURCE 疑似変数がコンテキスト外で使用されている。
- 3799 CONVERSION ON ユニット内でソースが変更されなかった。再試行は行われなかった。ON ユニットに入った原因は、変換対象のストリング内の無効文字によって発生した CONVERSION 条件である。その文字は、ON ユニット内で ONSOURCE、ONGSOURCE、または ONCHAR 疑似変数を使用して訂正されなかった。
- 3800 データ集合の長さがシステムしきい値の 2\*\*24 バイトを超えた。
- 3808 COBOL または FORTRAN で集合がマップできない。
- 3809 データ集合が最大長を超えた。
- 3810 配列のエクステン트가、許される上限を超えている。

---

## 条件コード 3901 から 4000

- 3901 既にアクティブ・プロセスに関連付けられているプロセス変数を使用して、プロセスを起動しようとした。
- 3904 既に DISPLAY ステートメント用に使用されているイベント変数が、COMPLETION 疑似変数への引数として参照された。

- 3906 既にアクティブになっているイベント変数への割り当てが行われた。
- 3907 既にアクティブ・プロセスに関連付けられているイベント変数に関連付けようとした。
- 3909 使用可能な主記憶域が不足しているときに、サブタスクを作成しようとした (CALL ステートメントを使用して)。
- 3910 アクティブ・プロセス数が、EXEC ステートメントの ISASIZE パラメータによって定義された限度に既に達しているときに、プロセスを生成しようとした (CALL ステートメントを使用して)。
- 3911 ON ユニット内の WAIT ステートメントが、ON ユニットに入る元のプロセス内で既に待機の対象になっているイベント変数を参照している。
- 3912 PUT FILE(SYSPRINT) ステートメントの実行中に呼び出されたブロック内で、TASK オプションを指定して CALL を実行しようとした。
- 3913 TASK を指定した CALL ステートメントが、不明なエントリー・ポイントを指定している。
- 3914 2 つのプロセス内で FORTRAN または COBOL のルーチンを同時に呼び出そうとした。
- 3915 リンク・エディット・ステップ内でマルチタスキング・ライブラリーが選択されていないときに、プロセスを呼び出そうとした。
- 3920 ストレージ不足による異常終了が発生した。

---

## 条件コード 4001 から 9999

- 4001 GET DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数にデータを割り当てようとした。
- 4002 PUT DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数を出力しようとした。
- 4003 STRING オプションを指定した PUT DATA ステートメントで、割り振り解除された CONTROLLED 変数から割り当てを行おうとした。
- 8091 演算例外。
- 8092 特権命令例外。
- 8093 EXECUTE 例外。
- 8094 記憶保護例外。
- 8095 アドレッシング例外。
- 8096 指定例外。
- 8097 データ例外。
- 8098 スタック・ストレージの不足。
- 9002 非アクティブ・ブロック内のラベルを参照する GO TO ステートメントを実行しようとした。
- 9003 存在しないラベル定数への GO TO ステートメントを実行しようとした。
- 9050 異常終了によってプログラムが終了した。

- 9051** CICS 内でエラーが発生した。EXEC CICS コマンドに指定したパラメーター (特にポインター) が、PL/I プログラムの所有するストレージを指していない可能性が高い。ERROR ON ユニットに制御が渡されなかった。TEST ランタイム・オプションが有効になっている場合、ユーザーは PLITEST を使用して変数などを検査できるが、実行を継続することはできない。
- 9200** SORT/MERGE プログラム内のプログラム・チェック。
- 9201** CMS 内では SORT はサポートされていない。
- 9202** PLISRTx 呼び出しに RECORD TYPE スtringが指定されていない。
- 9203** PLISRTx 呼び出しに誤ったレコード・タイプが指定されている。
- 9204** PLISRTB または PLISRTD 呼び出しの RECORD TYPE スtringの指定に LENGTH= がない。
- 9205** PLISRTx 呼び出しの LENGTH= パラメーターに指定した長さが、数値でない。
- 9206** E15 または E35 データ処理ルーチンから誤った戻りコードを受け取った。
- 9207** メッセージに表示されている戻りコードを出して DFSORT が失敗した。
- 9208** PLISRTx が ADMVS 以外の環境で呼び出された。
- 9249** ルーチンをリリースできない。
- 9250** フェッチするプロシージャが検出できない。
- 9251** プロシージャをフェッチする際に永続的な伝送エラーが発生した。
- 9252** CMS 内では FETCH/RELEASE はサポートされていない。
- 9253** PLITEST が使用できない。
- 9254** CICS のもとで、PL/I ルーチンから MAIN プロシージャをフェッチしようとした。
- 9999** LE サービスの起動時に障害が発生した。

---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。

本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM	IMS
IBM LOGO	IMS/ESA
ibm.com	Language Environment
AIX	MVS
CICS	OS/390
CICS/ESA	RACF
DB2	System/390
DFSMS	VisualAge
DFSORT	z/OS

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。



---

## 参考文献

---

### Enterprise PL/I 資料

- 「プログラミング・ガイド」、SC88-9123
- 「言語解説書」、SC88-9126
- 「メッセージおよびコード」、SC88-9127
- 「コンパイラおよびランタイム 移行ガイド」、GC88-9124

---

### PL/I for MVS & VM

- 「導入およびカスタマイズ (MVS)」、SC88-7221
- 「言語解説書」、SC88-7219
- 「コンパイル時メッセージおよびコード」、SC88-7224
- 「診断の手引き」、SC88-7223
- 「移行の手引き」、SC88-7220
- 「プログラミングの手引き」、SC88-7218
- 「参照要約」、SX88-7011

---

### z/OS 言語環境プログラム

- 「概念」、SA88-8555
- 「デバッグのガイド」、GA88-8548
- 「ランタイム・メッセージ」、SA88-8554
- 「カスタマイズ」、SA88-8552
- 「プログラミング・ガイド」、SA88-8549
- 「プログラミング・リファレンス」、SA88-8550
- 「ランタイム・アプリケーション マイグレーション・ガイド」、GA88-8553
- 「ILC (言語間通信) アプリケーションの作成」、SA88-8551

---

### CICS Transaction Server

- 「アプリケーション・プログラミング・ガイド」、SC88-7689
- 「アプリケーション・プログラミング・リファレンス」、SC88-7690
- 「カスタマイズ・ガイド」、SC88-7686
- 「外部インターフェース・ガイド」、SD88-7026

---

### DB2 UDB (OS/390 版および z/OS 版)

- 「管理ガイド」、SC88-8761
- 「DB2 入門」、SC88-8767
- 「アプリケーション・プログラミングおよび SQL ガイド」、SC88-8763
- 「コマンド解説書」、SC88-8764

「メッセージおよびコード」、GC88-8768

「SQL 解説書」、SC88-8772

---

## DFSORT™

「アプリケーション・プログラミングの手引き」、SC88-7061

「導入およびカスタマイズ」、SC88-7163

---

## IMS/ESA®

「アプリケーション・プログラミング: データベース管理プログラム」、  
SC88-7552

「Application Programming: Database Manager Summary」、SC26-8037

「アプリケーション・プログラミング: 設計の手引き」、SC88-7542

「アプリケーション・プログラミング: トランザクション管理プログラミング」、  
SC88-7553

「Application Programming: Transaction Manager Summary」、SC26-8038

「アプリケーション・プログラミング: EXEC DL/I コマンド (CICS および  
IMS™)」、SC88-7554

「Application Programming: EXEC DL/I Commands for CICS and IMS  
Summary」、SC26-8036

---

## z/OS MVS

「JCL 解説書」、SA88-8569

「JCL ユーザーズ・ガイド」、SA88-8570

「システム・コマンド」、SA88-8593

---

## z/OS UNIX システム・サービス

「z/OS UNIX システム・サービス コマンド解説書」、SA88-8641

「z/OS UNIX システム・サービス・プログラミング: アセンブラ呼び出し可能  
サービス 解説書」、SA88-8642

「z/OS UNIX システム・サービス ユーザーズ・ガイド」、SA88-8640

---

## z/OS TSO/E

「コマンド解説書」、SA88-8628

「ユーザーズ・ガイド」、SA88-8638

---

## z/Architecture

「Principles of Operation」、SA22-7832

---

## Unicode® および文字表現

「OS/390 Unicode サポート: 変換サービスの使用法」、SD88-6163







プログラム番号: 5655-H31

Printed in Japan

**Enterprise PL/I for z/OS ライブラリー**

SC27-1456

Licensed Program Specifications

SC88-9123

プログラミング・ガイド

GC88-9124

コンパイラおよびランタイム 移行ガイド

SC88-9126

言語解説書

SC88-9127

メッセージおよびコード

SC88-9127-06



**日本アイ・ビー・エム株式会社**

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12